

令和8年
行政評価結果報告書

令和8年8月
海老名市

令和8年行政評価の結果について

1 令和8年の取組

(1) 評価対象

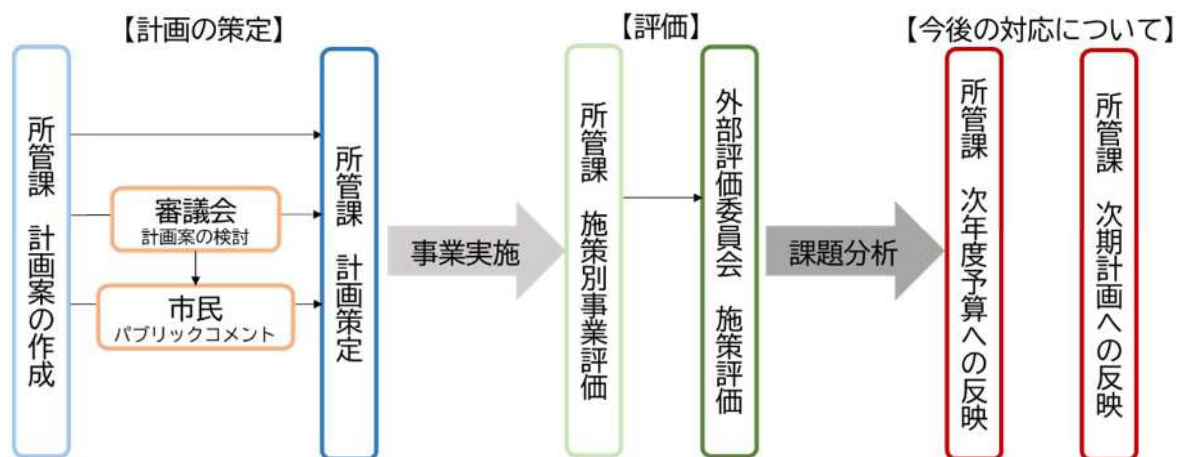
「えびな未来創造プラン2020」では、具体的な事業として「個別計画」と「予算事業」が定められています。「予算事業」に対する評価は、令和6年度で一巡したため、令和7年度からは個別計画の評価に移行しました。

令和7年度は様々な課題があったため、これを踏まえて令和8年度は新たな評価方法を実施しました。

(2) 評価の流れ

事業所管課による個別計画に紐づく施策別事業評価のうえ、外部評価委員会による施策評価を実施しました。

評価にあたっては、12名の外部評価委員を3つのグループに分け、分担して実施しました。事業所管課へのヒアリングを踏まえ、グループ評価結果及び附帯意見をまとめました。



(3) 評価対象の個別計画 及び 外部評価結果

本評価方法が初回実施であることを踏まえて、内容が比較的明確でイメージしやすい計画を対象として選定しました。

(単位:施策数)

区分 評価	事業の適正配置			施策の進捗・達成		
	A	B	C	A	B	C
海老名市こども計画 (22施策)	18	1	3	20	1	1
第4次海老名市男女共同参画プラン (21施策)	18	0	3	4	17	0
海老名市DX推進計画 (3施策)	3	0	0	0	3	0
海老名市スポーツ推進計画 (11施策)	11	0	0	5	6	0
海老名市地域公共交通計画 (7施策)	7	0	0	6	1	0
令和7年度海老名市シティプロモーション アクションプラン (6施策)	6	0	0	5	1	0

※ 詳細は、別添「令和8年外部評価結果報告書」をご参照ください。

【凡例】

評価項目	評価基準 (A B C評価)		
	A	B	C
事業の適正配置	当該施策を達成するのに、十分な事業が配置されている	当該施策の達成において、サービス等は行き届いているものの、不要な事業がある	当該施策の達成に向け、さらに追加すべき事業がある
施策の進捗・達成	順調である	やや遅延している	著しく遅延している

2 外部評価を受けて今後の対応について

(1) 内部の対応について

外部評価委員会からは、成果指標のさらなる活用、事業効果の見える化、部署横断的な連携、市民への分かりやすい情報発信などについて提案がなされています。

これを受けて、市としてはこれらの評価結果及び意見を単なる評価にとどめることなく、各事業所管課が対応の必要性を検討し、次年度予算や計画の見直しに活かしていく必要があります。

そこで、各事業所管課に対してA～C評価のうち、B～C評価とされた施策についてどのような対応を行ったか、別途調査を実施し、PDCAサイクルを機能させていきます。

(2) 市民への公表等について

行政活動の透明性を向上させていくとともに、市民の行政への理解や参画意識を促進させるには、評価の内容や結果等がしっかり理解されるような情報を市民に提供することが重要であり、市民への説明責任を遂行する意味でも、行政評価の公表の仕方を工夫する必要があります。

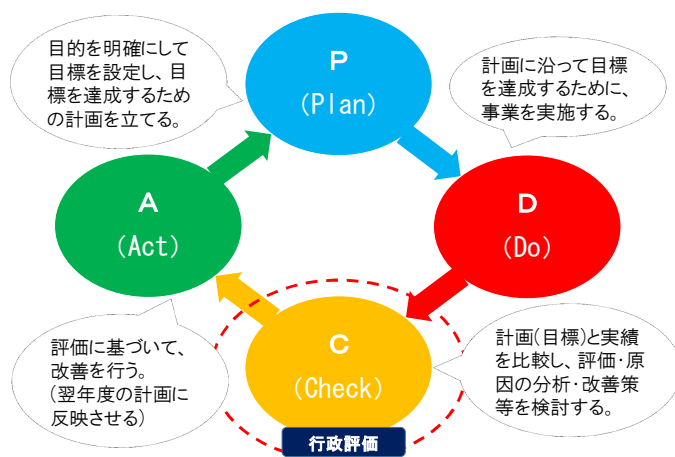
そこで、公表にあたっては、行政評価の結果を市ホームページに掲載していくことに加えて、市内図書館への配架や行政評価の取組や結果をまとめたビラを作成、周知するなど、市民にとって少しでもわかりやすい公表となるよう努めていきます。

また、次回以降の行政評価のあり方についても、今回の行政評価の結果を踏まえ、より良いものとなるよう検討していきます。

3 行政評価とは

行政評価とは、行政活動の目的を明確化して、活動の結果や成果について一定の基準・視点に沿って評価し、行政運営の改善につなげることを目的とした行政改革の取組です。

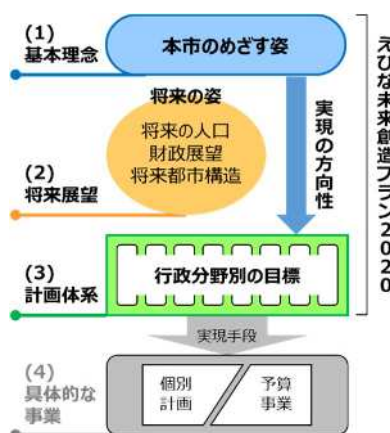
具体的には、下図に示したPDCAサイクルのC h e c k（チェック）の段階にあたる作業です。



4 えびな未来創造プラン 2020 に基づく行政活動体系

令和2年度に策定した総合計画「えびな未来創造プラン2020（以下、20プランという。）」では、「基本理念」のめざすべき姿を実現するため、市民生活、健康・福祉、経済・環境、まちづくり、教育、消防・防災、行財政運営、シティプロモーションといった行政組織を踏まえて、行政分野別の目標を体系的に示しています。

また、10年間の計画として、関連する個別計画や毎年度の予算事業を進める上で参照すべき、政策の「めざす姿」、「今後の方針」も併せて設定しています。



令和8年 外部評価結果報告書

令和8年8月
海老名市外部評価委員会

<目 次>

はじめに.....	1
1 外部評価の実施概要.....	2
2 令和8年外部評価の対象個別計画.....	4
3 令和8年外部評価の評価方法・基準.....	5
4 令和8年外部評価結果.....	7
(1) 海老名市こども計画.....	7
(2) 第4次海老名市男女共同参画プラン.....	9
(3) 海老名市DX推進計画.....	11
(4) 海老名市スポーツ推進計画.....	12
(5) 海老名市地域公共交通計画.....	13
(6) 令和7年度海老名市シティプロモーションアクションプラン.....	15
5 令和8年外部評価を通じて委員長からの総括意見.....	16

【附属資料】

各計画の「施策別 事業評価シート」

はじめに

海老名市外部評価委員会は、市が実施する行政評価を市民目線で再評価することにより、評価の客観性及び信頼性を確保することを目的に設置された第三者委員会で、学識経験者、各種関係団体からの推薦を受けた者や公募市民の 12 名から構成されており、本委員会は、平成 17 年 10 月に制定された海老名市外部評価委員会条例を受けて、平成 18 年度から本格的に活動を開始しました。

令和 3 年度から令和 6 年度にかけて、令和 2 年に策定された総合計画である「えびな未来創造プラン 2020」（以下、「20 プラン」という。）の行政分野に紐づける「予算事業」評価が一巡したため、令和 7 年度からは個別計画の評価に移行しました。

令和 7 年度は、はじめて計画を対象に評価を行ったため、様々な課題がありました。このため、試行的という扱いとし、これを踏まえて令和 8 年度は新たな評価方法として、20 プランに紐づく個別計画のうち、（１）海老名市こども計画、（２）第 4 次海老名市男女共同参画プラン、（３）海老名市 D X 推進計画、（４）海老名市スポーツ推進計画、（５）海老名市地域公共交通計画、（６）令和 7 年度海老名市シティプロモーションアクションプランを対象に、70 施策の評価を行いました。

評価作業の中では、事業所管課へのヒアリングを行い、各事業への理解を深めた後、それぞれの委員が意見を出し合い、活発に意見交換を行うことで、多角的な評価を行いました。

社会経済情勢に応じて、人々の価値観や生活様式は変化し、市民が行政に求めるものは複雑・多様化しています。外部評価委員による市民目線の評価は、市民ニーズや時代の流れを的確に把握し、事業の改善を推進するために重要なものと認識しています。本報告書は、外部評価委員の一人ひとりが一般市民の代表として、自覚と責任を持って事業の理解に努め、意見を出し合った結果を示しています。

行政におかれましては、本委員会からの意見を真摯に受け止め、施策や事業等の改善に向けて行動することを強く望みます。また、市民のための施策、市民のための事業であることを意識し、行財政改革や事業推進の効率化に努めるとともに、市民への説明責任をこれまで以上に果たされることを期待します。

最後になりましたが、今回の評価作業において、事業所管課の皆様をはじめとした多くの方にご協力いただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

1 外部評価の実施概要

(1) 外部評価委員会の審議経過

12名の外部評価委員を3つのグループに分け、各グループが分担して対象計画を評価しました。事業所管課へのヒアリングを踏まえて評価結果及び附帯意見を取りまとめ、外部評価委員の合議の上、本報告書をまとめました。

<海老名市外部評価委員会委員名簿（グループ別）>

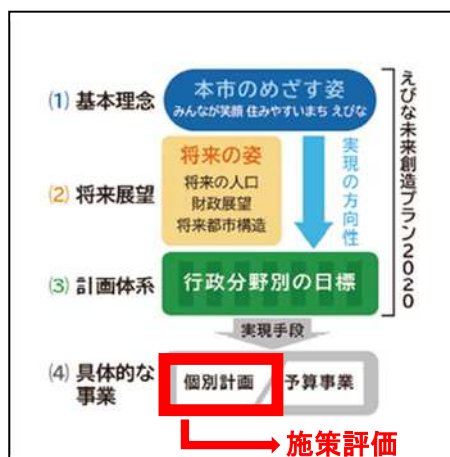
グループ	氏名	選出区分	職
A グループ	さかい みちこ 酒井 道子	学識経験者	副委員長 (リーダー)
	いしい こうた 石井 昂太	団体推薦	委員
	はやし けいすけ 林 啓輔	公募市民	委員
	しのはら としまさ 篠原 俊正	団体推薦	委員
B グループ	しおわき あきまさ 塩脇 章正	団体推薦	委員長 (リーダー)
	あおき たかあき 青木 敬明	公募市民	委員
	いちかわ よういち 市川 洋一	学識経験者	委員
	いしだ なおこ 石田 尚子	公募市民	委員
C グループ	ひよし ひろこ 日吉 弘子	学識経験者	副委員長 (リーダー)
	おおぜき かずひさ 大関 和久	公募市民	委員
	せいだ きとし 清田 悟志	公募市民	委員
	あべ ゆりこ 阿部 百合子	団体推薦	委員

<海老名市外部評価委員会内容>

委員会開催日	主な内容
令和8年2月20日（金）	◆ 第1回海老名市外部評価委員会 ○ 第11期委員へ委嘱状の交付 ○ 委員長及び副委員長の選任 ○ 行政評価について
令和8年3月24日（火）	◆ 第2回海老名市外部評価委員会 ○ 令和8年度に行政評価の対象とする計画について ○ 評価シートについて ○ 評価作業の進め方について
令和8年5月20日（水）	◆ 第3回海老名市外部評価委員会 ○ 各計画の評価調書について ○ グループ別評価作業の進め方について
令和8年6月2日（火）	◆ Bグループ外部評価会議 ① ○ 事業所管課へのヒアリング準備
令和8年6月3日（水）	◆ A、Cグループ外部評価会議 ① ○ 事業所管課へのヒアリング準備
令和8年6月10日（水）	◆ 第4回海老名市外部評価委員会 ○ グループ別評価作業の中間報告について ○ 事業所管課へのヒアリング内容について
令和8年6月17日（水）	◆ Aグループ外部評価会議 ② ○ 事業所管課（こども育成課、保育・幼稚園課、子育て相談課）へのヒアリング
令和8年6月23日（火）	◆ Bグループ外部評価会議 ② ○ 事業所管課（デジタル推進課、危機管理課、IT推進課、地域づくり課、市民相談課、介護保険課、地域包括ケア推進課）へのヒアリング
令和8年6月24日（水）	◆ Cグループ外部評価会議 ② ○ 事業所管課（シティプロモーション課、文化スポーツ課、地域包括ケア推進課、都市計画課）へのヒアリング
令和8年6月30日（火）	◆ Bグループ外部評価会議 ③ ○ 事業評価のとりまとめ
令和8年7月1日（水）	◆ A、Cグループ外部評価会議 ③ ○ 事業評価のとりまとめ
令和8年7月15日（水）	◆ 第5回海老名市外部評価委員会 ○ 報告書の決定

2 令和8年外部評価の対象個別計画

【評価イメージ図】



	対象個別計画	計画概要
(1)	海老名市こども計画	こども基本法第10条第2項に基づき策定。教育・保育及び地域の子育て支援事業の提供体制の確保や、業務の円滑な実施に関することを定めたもの
(2)	第4次海老名市男女共同参画プラン	男女共同参画社会基本法第14条に規定された市町村における男女共同参画社会の形成を促進する施策について定めたもの
(3)	海老名市DX推進計画	「えびなスマデジ宣言」で掲げた3つの重点領域の「市民サービス」のデジタル化、「行政運営」のデジタル化、「地域社会」のデジタル化を実現するための具体的なロードマップを示したもの
(4)	海老名市スポーツ推進計画	初期計画の「海老名市スポーツ健康推進計画」を踏襲し、国及び県の計画に基づきスポーツを楽しめる社会の実現を目指し、策定したもの
(5)	海老名市地域公共交通計画	本市における地域公共交通の課題を再整理するとともに、今後の目標や施策、関係者の役割分担等を示し、持続可能な公共交通の実現に向けた計画として策定したもの
(6)	令和7年度海老名市シティプロモーションアクションプラン	海老名市かがやき持続総合戦略の施策の一つとして「シティプロモーション（PR活動）の充実」を掲げており、転入人口の増加、若者世代の転出抑制を図るため、本市の魅力を各部署と連携しながら戦略的に伝え、広げるために策定したもの

3 令和8年外部評価の評価方法・基準

各計画の「施策別 事業評価シート」上で、事業所管課による「事業」評価後に、外部評価委員会が事業所管課へのヒアリングを実施し、「施策」評価を行いました。

【評価基準】

(1) 事業所管課による「事業」評価

① 施策別事業評価

評価項目	評価基準（5段階）				
	5	4	3	2	1
妥当性	極めて妥当である	充分妥当である	妥当である	あまり妥当でない	妥当でない
有効性	極めて有効性がある	充分有効性がある	有効性がある	あまり有効性がない	有効性がない
効率性	極めて効率的である	充分効率的である	効率的である	あまり効率的でない	効率的でない
公平性	極めて公平性がある	充分公平性がある	公平性がある	あまり公平性がない	公平性がない
持続可能性	極めて持続可能性がある	充分持続可能性がある	持続可能性がある	あまり持続可能性がない	持続可能性がない

② 今後の方向性の判断

判断項目	説明
現状継続	事業を特段変更なく行う
見直し（拡大）	事業方針や方策を見直し、事業を拡大する
見直し（継続）	事業方針や方策を見直し、事業を継続する
見直し（縮小）	事業方針や方策を見直し、事業を縮小する
事業統合	別の事業と統合する
事業完了	事業を完了する（した）
事業休止	事業を休止する（した）
廃止	事業を廃止する（した）

(2) 外部評価委員会による「施策」評価

評価項目	評価基準（ABC評価）		
	A	B	C
事業の適正配置	当該施策を達成するのに、十分な事業が配置されている	当該施策の達成において、サービス等 は行き届いているものの、不要な事業がある	当該施策の達成に向け、さらに追加すべき事業がある
施策の進捗・達成	順調である	やや遅延している	著しく遅延している

<計画の評価割振り>

グループ	評価した計画
Aグループ	(1)海老名市こども計画
Bグループ	(2)第4次海老名市男女共同参画プラン
	(3)海老名市DX推進計画
Cグループ	(4)海老名市スポーツ推進計画
	(5)海老名市地域公共交通計画
	(6)令和7年度海老名市シティプロモーションアクションプラン

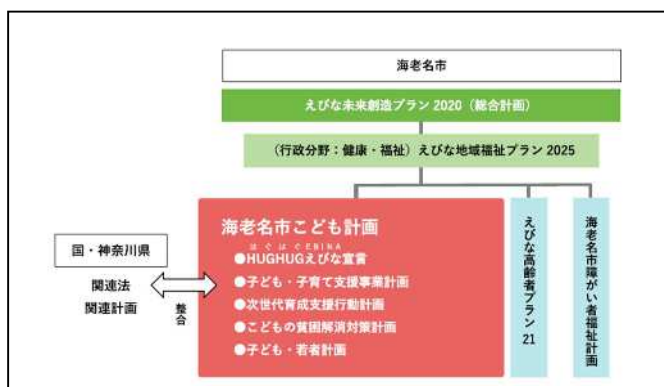
4 令和 8 年外部評価結果

(1) 海老名市こども計画（計画期間：令和 7 年度～令和 11 年度）

【表紙】



【計画の位置づけ】



ア 計画の概要

(ア) 基本理念

「みんなでつくる こどものみらい えびなのみらい」

(イ) 計画概要

こども基本法第 10 条第 2 項に基づき策定。教育・保育及び地域の子育て支援事業の提供体制の確保や、業務の円滑な実施に関することを定めたもの

イ 外部評価結果の概要（22 施策）

	施策名	事業の適正配置	施策の進捗・達成
I－1	特定教育・保育施設と地域型保育事業の充実と質の向上	C	A
I－2	多様化する働き方に対応できる多様な保育サービスの充実	A	B
I－3	学童保育施設等の充実	A	A
I－4	魅力ある学校教育の推進	A	A
II－1	妊娠・出産に関する支援事業の充実	C	A
II－2	こども・若者の健康確保の促進	A	A
II－3	子育て世帯への経済的支援の充実	A	A
II－4	相談支援・情報発信の推進	A	A
III－1	多様な遊びや体験、居場所づくりの推進	A	A

Ⅲ－２	健やかな心身の育成支援の充実	A	A
Ⅲ－３	将来に希望を持って生きるための支援の充実	C	C
Ⅳ－１	障がいのあるこども・若者と親の安定した生活の支援の充実	A	A
Ⅳ－２	ひとり親家庭等の自立支援の推進	A	A
Ⅳ－３	児童虐待を防止する取組の推進	A	A
Ⅳ－４	総合的な不登校対策	A	A
Ⅳ－５	外国人世帯への支援の充実	A	A
Ⅳ－６	貧困対策の推進	A	A
Ⅳ－７	ヤングケアラーへの支援	A	A
Ⅴ－１	地域子育て支援・家庭教育支援の充実	A	A
Ⅴ－２	こども・若者の安全確保の推進	B	A
Ⅴ－３	共働き・共育での推進	A	A
Ⅴ－４	子育て人材の確保及び育成	A	A

(ア) 「事業の適正配置」について

生活・医療・教育の各分野を横断した支援メニューが体系的に配置され、ライフステージを通じた切れ目ない支援体制が構築されており、市民ニーズや社会情勢等を踏まえて適正に配置されている。

一方で、地域による保育ニーズの偏りへの対策、パトロール事業の重複や妊娠・出産に関するあらゆるニーズへの支援に関する課題がある。

(イ) 「施策の進捗・達成」について

多くの施策において計画どおりの進捗が確認され、妊娠期から学校教育までライフステージを通じた切れ目ない支援が概ね順調に推移しているが、人口増加によって多様化するニーズに対して、継続的な事業の拡充や見直し等が求められる。

ウ 総括意見

本計画の目的を果たすために必要な施策、事業が配置されており、概ね順調に事業実施がなされている。本計画は海老名の未来を担うこどもたちを育成するためのきわめて重要な計画であり、計画の達成に向けては、人材確保対策、事業の効率化、予防的アプローチの強化、利用者ニーズへの対応、効果検証の充実など、多面的な取組が必要だと考える。さらなる質と持続可能性の向上に向けた継続的な見直しを期待する。

(2) 第4次海老名市男女共同参画プラン（計画期間：令和7年度～令和11年度）

【表紙】



【計画の位置づけ】



ア 計画の概要

(ア) 基本目標

「誰もが輝く ジェンダー平等社会へ」

(イ) 計画概要

男女共同参画社会基本法第14条に規定された市町村における男女共同参画社会の形成を促進する施策について定めたもの

イ 外部評価結果の概要（21 施策）

	施策名	事業の適正配置	施策の進捗・達成
1-(1)-①	政策・方針決定過程への女性の積極的な参画	A	B
1-(2)-②	女性の活躍推進	A	B
1-(2)-③	男女共同参画に関する意識啓発	A	B
1-(3)-④	男性の家事・地域活動への参画促進	A	B
1-(3)-⑤	男性の育児への参画促進	A	B
2-(1)-⑥	女性の人材育成	A	B
2-(2)-⑦	ワーク・ライフ・バランスの啓発と促進	A	B
2-(2)-⑧	仕事と家庭の両立支援等の推進	C	B
3-(1)-⑨	DV 被害者への支援	A	B
3-(1)-⑩	犯罪被害者等に対する支援及び啓発	A	B

3-(2)-⑪	性的マイノリティに対する支援	A	B
3-(2)-⑫	ひとり親家庭に対する支援	A	A
3-(2)-⑬	高齢者や障がいに対する支援	A	B
3-(3)-⑭	包括的性教育の推進	A	A
3-(3)-⑮	健康に対する支援	A	A
3-(4)-⑯	防災分野における男女共同参画の推進	A	B
4-(1)-⑰	男女共同参画社会の実現に向けた意識改革	C	B
4-(2)-⑱	若年層に向けた男女共同参画意識の意識改革	A	B
4-(2)-⑲	学校等における基盤整備	A	B
4-(3)-⑳	子育てに関する福祉サービスの充実	A	A
4-(3)-㉑	介護に関する福祉サービスの充実	C	B

(ア) 「事業の適正配置」について

男女共同参画、DV 被害者支援、子育て、介護、教育環境など多岐にわたる分野で、それぞれの目的に沿って市民ニーズや社会情勢等を踏まえて、おおむね適正に配置されている。一方で、あらゆる分野において新たなニーズが現れてきているため、従来の事業をそのまま実施するだけでなく、時代にあった内容に見直すことと、新たな視点の事業を追加することなど、継続的な見直し等が重要だと考える。

(イ) 「施策の進捗・達成」について

子育て支援、健康支援、ひとり親家庭支援など一部施策においては、順調に推移している。一方で、その他の施策においては、目標の設定方法や行動変容への結びつけ方に課題がある。

ウ 総括意見

本計画の目的を果たすために必要な施策が配置されているが、計画の達成に向けては、女性登用、意識改革、ワーク・ライフ・バランス、DV 被害者支援、子育て、介護、性的マイノリティ支援など各分野で、相談体制の充実、関係機関との連携強化や効果検証の精度向上が重要だと考える。

また、施策に紐づく各事業のつながりが見受けられないため、計画所管課が主導して、本計画の趣旨に沿って事業等を見直していく必要があると考える。

(3) 海老名市DX推進計画（計画期間：令和6年度～令和9年度）

【表紙】



【計画の位置づけ】



ア 計画の概要

(ア) 目標

デジタル化の恩恵をすべての人に広げ、笑顔あふれる暮らしを営むことができるよう、効率的な行政運営をするとともに、利便性が高い「安全・安心」な市民サービスの実現を目指す。

(イ) 計画概要

「えびなスマデジ宣言」で掲げた3つの重点領域の「市民サービス」のデジタル化、「行政運営」のデジタル化、「地域社会」のデジタル化を実現するための具体的なロードマップを示したもの

イ 外部評価結果の概要（3施策）

	施策名	事業の適正配置	施策の進捗・達成
01	「市民サービス」のデジタル化	A	B
02	「行政運営」のデジタル化	A	B
03	「地域社会」のデジタル化	A	B

(ア) 「事業の適正配置」について

「市民サービス」、「行政運営」、「地域社会」の各分野において、多面的に事業が推進されており、市民や地域のニーズを踏まえて適正に配置されている。

(イ) 「施策の進捗・達成」について

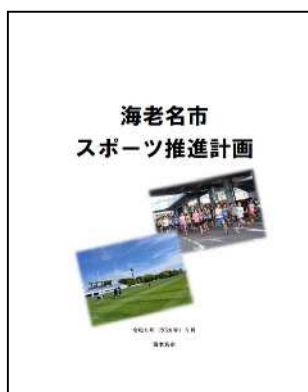
各施策において一定の成果は見受けられるが、今後のデジタル化の推進に当たっては、市民サービス向上のために、だれもが使いやすいシステムとして統一性をもったシステム構築や継続的な改善等が求められる。

ウ 総括意見

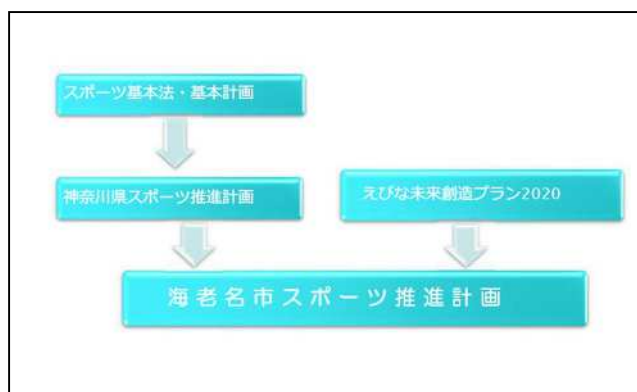
本計画の目的を果たすために必要な施策、事業が配置されている。一方で、計画における重点取組事項として記載されている項目の中で、まだ事業化されていないものもある。これからは計画の折り返しとなるため、今後「目指す姿」に向けてどのような取組を進めていくかについて、より具体的に検討されることを期待する。

(4) 海老名市スポーツ推進計画（計画期間：令和6年度～令和11年度）

【表紙】



【計画の位置づけ】



ア 計画の概要

(ア) 基本理念

「一市民一スポーツ・レクリエーションの実現」

(イ) 計画概要

初期計画の「海老名市スポーツ健康推進計画」を踏襲し、国及び県の計画に基づきスポーツを楽しめる社会の実現を目指し、策定したもの

イ 外部評価結果の概要（11 施策）

	施策名	事業の適正配置	施策の進捗・達成
1-1	スポーツ活動機会の充実	A	A
1-2	子どものスポーツ活動の推進	A	B
1-3	高齢者のスポーツ活動の推進	A	B
1-4	障がい者のスポーツ活動の推進	A	A
2-1	スポーツ施設の充実	A	B
2-2	スポーツ活動団体への支援	A	B
2-3	ボランティア等への支援	A	B
3-1	アスリートの育成支援	A	B

3-2	高度スポーツ誘致	A	A
3-3	ニュースポーツの推進	A	A
3-4	スポーツ関連の情報発信	A	A

(ア) 「事業の適正配置」について

生涯スポーツの推進、各種スポーツイベントの開催、施設充実、アスリート育成支援など、市民の健康増進、地域コミュニティ形成や共生社会実現に向けた重要な事業が、幅広い世代を対象として社会的要請と地域ニーズを踏まえて適正に配置されている。

(イ) 「施策の進捗・達成」について

高度スポーツ誘致、ニュースポーツ推進や情報発信は順調に進展しているが、イベント参加後の運動習慣への接続、スポーツ施設整備の遅れ、スポーツ活動団体の持続可能性、ボランティア体制構築などで課題が見受けられるため、継続的な改善と効果検証が求められる。

ウ 総括意見

本計画の目的を果たすために必要な施策、事業が配置されているが、計画の達成に向けては、指導者の人材育成等による指導体制の充実、情報発信の多様化、継続参加率の把握及び効果検証、パラスポーツのさらなる充実など、だれもが参加できるように市民ニーズ把握と関係機関との連携強化が重要だと考える。

(5) 海老名市地域公共交通計画（計画期間：令和4年度～令和13年度）

【表紙】



【計画の位置づけ】



ア 計画の概要

(ア) 基本理念

「らくらくアクセス 次代へつなぐ公共交通 ～魅力を結ぶまち海老名～」

(イ) 計画概要

本市における地域公共交通の課題を再整理するとともに、今後の目標や施策、関係者の役割分担等を示し、持続可能な公共交通の実現に向けた計画として策定したもの

イ 外部評価結果の概要（７施策）

	施策名	事業の適正配置	施策の進捗・達成
1-1	交流拠点における交通結節機能の強化	A	A
2-1	バス利用の促進	A	A
2-2	コミュニティバスの運用と利用促進	A	A
3-1	駅施設等の安全性及び利便性の向上	A	A
3-2	広域連携による路線バスルートの維持	A	A
3-3	高齢者等が安心して移動できる環境づくり	A	B
3-4	感染症や災害等の有事における公共交通の確保	A	A

(ア) 「事業の適正配置」について

各施策に配置された事業は、市民の移動手段確保、交通結節機能の強化、駅施設の安全性向上、高齢者等の移動支援など、計画目標の実現に向けて必要かつ適正に配置されている。

(イ) 「施策の進捗・達成」について

交通結節機能の強化、バリアフリー化、コミュニティバス利用促進など、計画目標に向けた取組が着実に進行している。一方で、高齢者等の移動支援は、予約集中による不成立など運用面の課題があるため、継続的な改善や効果検証が求められる。

ウ 総括意見

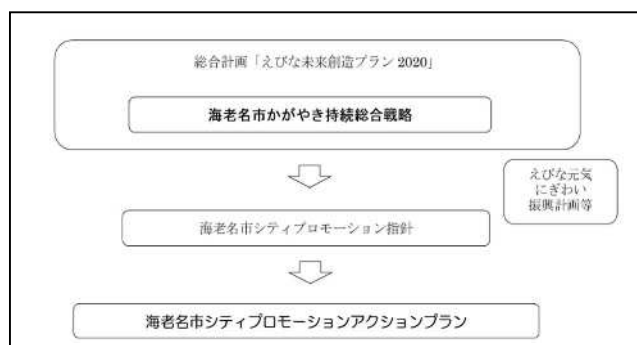
本計画の目的を果たすために必要な施策、事業が配置されており、概ね順調に事業実施がなされているが、計画の達成に向けては、運転手不足対策、利用者ニーズ把握、情報提供の高度化、交通事業者との連携強化、デジタル技術を活用した運行内容の見直し等が重要だと考える。

(6) 令和7年度海老名市シティプロモーションアクションプラン（計画期間：
令和7年度）

【表紙】



【計画の位置づけ】



ア 計画の概要

(ア) 目的

市内・市外に発信するPRの充実及び他部署と連携した戦略的なシティプロモーションの推進

(イ) 計画概要

海老名市かがやき持続総合戦略の施策の一つとして「シティプロモーション（PR活動）の充実」を掲げており、転入人口の増加、若者世代の転出抑制を図るため、本市の魅力を各部署と連携しながら戦略的に伝え、拡げるために策定したもの

イ 外部評価結果の概要（6施策）

	施策名	事業の適正配置	施策の進捗・達成
1-1	市民の当市に対する愛着と誇りの醸成	A	A
1-2	認知度向上及びターゲットを絞ったPR	A	A
1-3	効果的なメディア戦略	A	B
1-4	シティプロモーション事業	A	A
2-1	シティプロモーション体制の確立	A	A
3-1	海老名市イメージキャラクターの活用	A	A

(ア) 「事業の適正配置」について

市民の本市に対する愛着と誇りの醸成、認知度向上、メディア戦略、シティプロモーション体制の確立、キャラクター活用など、シティプロモーション目標の実現に必要な事業が適正に配置されている。

(イ) 「施策の進捗・達成」について

多くの施策において計画どおりの進捗が確認され、シティプロモーション目標に向けた取組が着実に進行しているが、メディア戦略ではさらなる分析の余地があるため、継続的な取組や効果検証が求められる。

ウ 総括意見

事業所管課の自己評価が低いのが、本計画の目的を果たすために必要な施策、事業が配置されており、概ね順調に事業実施がなされている。計画の達成に向けて、メディアやキャラクター等のさらなる効果的な活用やターゲットごとの戦略的な情報発信など、事業所管課は自信をもってより積極的な事業展開をすることが重要だと考える。

5 令和8年外部評価を通じて委員長からの総括意見

私たち委員は、それぞれ異なる立場や経験を持ちながらも、「海老名市をより良いまちにしたい」という共通の思いのもと、真摯な議論を重ねてまいりました。

今回の評価を通じて感じたことは、本市がこれまで積み重ねてきた施策の多くが、市民生活の向上に確実に繋がっているということです。人口増加が続く中で、(1) 海老名市こども計画、(2) 第4次海老名市男女共同参画プラン、(3) 海老名市DX推進計画、(4) 海老名市スポーツ推進計画、(5) 海老名市地域公共交通計画、(6) 令和7年度海老名市シティプロモーションアクションプランにおいて、幅広い分野での着実な成果が見られました。これは市長をはじめ職員の皆様の日々の努力の積み重ねによるものであり、敬意を表します。

しかしながら、社会情勢は急速に変化し続け、少子高齢化、人材不足、物価上昇やデジタル化への対応など、行政を取り巻く課題はますます複雑化しています。

そのような時代だからこそ重要なのは、「今うまくいっているから続ける」のではなく、「将来世代に何を残せるのか」という視点で施策を見直し続けることだと考えます。

委員会では、成果指標のさらなる活用、事業効果の見える化、部署横断的な連携、市民への分かりやすい情報発信などについて、多くの提案が出されました。

特に、これからの行政運営においては、市民・地域・事業者・行政が同じ方向を向き、それぞれの力を生かしながら課題解決に取り組むことが不可欠です。行政だけでは解決できない課題が増える中で、海老名市が市民との協働をさらに深化させることを期待しています。

外部評価委員会は、市民に代わって行政を点検する立場であると同時に、市政をより良くするための応援団でもあります。

今回の評価結果が、単なる指摘として終わるのではなく、未来への改善につながるきっかけとなり、一つでも多くの施策に反映されることを願っています。

そして、海老名市が「住みたいまち」だけでなく、「住み続けたいまち」「次世代へ誇れるまち」としてさらに発展されることを心から期待しています。

なお、各計画の各施策に対する個別のコメントや提案については、附属資料の「施策別 事業評価シート」に記しています。事業所管課におかれましては、ぜひご一読のうえ、今後の事業推進に役立ててほしいと思っています。

【附属資料】
「施策別 事業評価シート」

(1) 海老名市こども計画

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)	
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	C:さらに追加すべき事業がある 現状の事業のみでは、保育環境が十分とは言えないので、「さらに追加すべき事業がある」とする。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A:順調である 直面する課題を的確に捉え、施設整備や関連事業を計画的に進めているので、「順調である」と評価する。
施策名	I－1 特定教育・保育施設と地域型保育事業の充実と質の向上	コメント	海老名駅前地区の急激な保育ニーズの高まりを受けての保育所設立への補助は、妥当な施策であると考え。一方で、今後は駅前に施設数を増やすだけでなく、多様な支援メニューを充実させ、既存の保育所をより利用しやすくすることが望まれる。空きのある駅前以外のエリアの施設の利用率の向上を図ることも重要である。そのため、評価としては「さらに追加すべき事業がある」とする。 地域による保育ニーズの偏りが「保育園に入れない」状況の一因となっているのであれば、子育て世帯の送迎や移動を行政が支援する仕組みなども検討されたい。また、1歳児クラスへの入所の難しさが、0歳児クラスへの早期入所を促す要因となっているのであれば、1歳児クラスの受け入れ拡充や利用促進策を今後はさらに強化し、そのことを保護者に周知する必要がある。海老名市で安心して子育てと仕事を両立できるように、今後も保護者のニーズを汲み取りつつ、効果的な事業が推進されることが望まれる。 東京都や埼玉県・千葉県の一部で保育料を第一子から無料化するうごきが見られる。海老名市で無料化までは踏み込むことは難しくとも、保育料における第二子以降の数え方など、多くの子どもを育てる家庭を応援する事業が増えることを期待する。

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	保育・幼稚園課	幼稚園充実事業	49 私立幼稚園支援事業費	幼稚園については、一定のニーズが見込まれます。市では、少しでも多くの児童が受け入れられる状況を確認できるよう取り組みます。教育時間終了後の預かり保育等の様々なニーズによる保育に対して運営費を助成し、待機児童解消のための環境整備を行います。	人	1,869	1,738	93 %	保育ニーズの高まりにより、保育所への入所希望者が増加し、幼稚園利用者が減少することが見込まれることから、預かり保育の実施時間や実施日等の充実が課題となります。待機児童の解消の一助となるよう、引き続き幼稚園と連携し、預かり保育の充実を図ります。	4	4	4	4	4	4	見直し(継続)
2	保育・幼稚園課	保育所充実事業	48 民間保育所施設補助事業費	新規保育所の設立や既存保育所の定員拡大など、少しでも多くの児童が受け入れられる状況を確認できるような取組を行うことで、待機児童解消のための環境整備を推進します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	全国的に人口減少や少子化が問題となっている中、本市においても就学前児童数は減少傾向となっておりますが、一方で共働き世帯が増えていることで保育需要が増加している状況です。保育ニーズを見極めながら、適切に保育所の整備を行ってまいります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					—	—	—	— %	令和8年4月開所に向けた海老名駅周辺の保育所整備案件を神奈川県及び事業者と行い、待機児童解消への受け皿を整備し、保育供給の拡充を図りました。また、市内では初となる公私連携型保育所の設置も行いました。	4	4	4	4	4	4	現状継続

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
3	保育・幼稚園課	認定こども園充 実事業	必要経費なし	既存幼稚園の認定こども園への移行により、保育が必要な児童を少しでも多く受け入れられる状況を確保できるような取組を行うことで、待機児童解消のための環境整備を推進します。また、認定こども園への移行に必要な支援を行うとともに、利用者に対して広く認定こども園の理解を深めるための周知に努めます。	単位	目標/計 画値	実績値	達成率	全国的に人口減少や少子化が問題となっている中、本市においても就学前児童数は減少傾向となっておりますが、一方で共働き世帯が増えていることで保育需要が増加している状況です。様々な保育ニーズに対応するべく、今後も事業者に対して認定こども園への移行に必要な支援を行い、利用者に対しては認定こども園の理解を深めるための周知に努めます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続 可能性	平均	今後の方向性
					—	—	—	— %								
					令和7年度中の認定こども園への移行はありませんでした。											
4	保育・幼稚園課	公立保育園の あり方	必要経費なし	待機児童の解消を図るため、保育園の定員拡大を鋭意進めています。少子化の進行により、将来的に保育需要の減少が見込まれます。このため、定員調整、老朽化対策、民間活力の活用などを総合的に推進するため、公立保育園の統廃合や民営化を図ります。	単位	目標/計 画値	実績値	達成率	市の人口減少及び施設の老朽化を見据え、今後も公立保育園の統廃合を検討してまいります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続 可能性	平均	今後の方向性
					—	—	—	— %								
					今後の市の人口減少と施設の老朽化を見据え、公立保育園の門沢橋保育園を令和9年度で廃園するための定員調整を行いました。											
5	保育・幼稚園課	海老名市合同 保育研修会	50.保育所施設維 持管理経費	保育の質の確保・向上に向けた取組が実効性のあるものとなるよう、こどもに関わる者が共通理解を持って主体的、継続的、協同的に改善・充実を図ることを目的とし、海老名市内の幼稚園、保育施設等に勤める者に向けた研修会を開催することで、教育・保育施設及び地域型保育施設の相互連携の推進あるいは市内教育・保育施設と小学校等との円滑な接続の推進など相互連携に努めます。	単位	目標/計 画値	実績値	達成率	研修で得た学びを継続し、保育者のキャリア形成や園の保育実践に活かし続ける仕組みが不足しております。学びが一過性で終わらないような仕組みや、フォローアップの必要性が課題としてあるため、研修の効果を評価する指標の整備等を検討してまいります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続 可能性	平均	今後の方向性
					—	—	—	— %								
					子ども一人ひとりを支える質を高めていくために、保育所と幼稚園が連携を取りながら保育者が学び合い、高め合っていくために、受けて終わりの研修ではなく、全4日の研修の中で自分の目標を立て職場での実践を通して、理解を深めるために往還型研修として企画し実施しました。											
6	保育・幼稚園課	こども誰でも通 園制度	51.保育所運営事 業管理経費	令和8年度から全ての自治体で実施とされており、保育所などの利用要件を緩和し親が就労していなくても時間単位などで生後6か月から3歳未満の児童を預けられるようにする新たな通園制度です。市として待機児童が解消していない中で、本制度の利用には慎重に対応する必要があります。	単位	目標/計 画値	実績値	達成率	待機児童が解消していない本市においては、本制度の対象となる生後6か月から3歳未満の児童に係る市内保育施設の受け入れ状況等を踏まえ、適切に事業を実施してまいります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続 可能性	平均	今後の方向性
					—	—	—	— %								
					令和8年度から本市においても事業を実施するにあたり、公立保育園1園のスペースを有効活用し、実施施設として整備しました。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	病児・病後児保育、一時預かり、延長保育といった子育てと仕事の両立において、ニーズの高い事業をバランスよく推進しており、適切な事業配置であると評価する。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	一時預かり事業の目標未達は供給側の要因であり、保育園の増設などの受け入れ側の拡充が必要。
施策名	I-2 多様化する働き方に対応できる多様な保育サービスの充実	コメント		
施策の説明	女性の就業率が上昇していることから、多様化する働き方に対応できる保育サービスが求められます。引き続き、病児・病後児保育の受け入れ態勢の強化や、一時預かり保育・延長保育等の多様なサービスの確保など、仕事と子育ての両立支援に努めます。			

計画に紐づく事業

所管課		事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	保育・幼稚園課	病児・病後児保育	47_民間保育所運営費補助事業費	小規模保育施設(ほほえみさくら保育園)に併設する、病児・病後児保育室(ほほえみルーム)で病児中の生後6か月から小学6年生までの児童を一時的に預かります。保護者が就労しているなど、家庭での保育が困難である方が利用の対象となる事業です。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	特定の利用者による定期的な利用がある事業ではないため、利用者数については、需要に左右される状況となっています。ニーズはあるものの、キャンセルの発生や感染症の流行により、利用者数が伸び悩むことがあるため、事業者と連携し、運営上の対策や工夫を図ることで、事業を継続させていきます。併せて、利用者側の利便性向上にも努めてまいります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	738	365	49 %		3	3	3	3	3	3	見直し(拡大)
					利用者のニーズに対応するため、昨年度に引き続き、ほほえみルームにて病児保育を実施しました。事業者と協力し、周知活動の強化や利便性の向上を図りました。また、近隣市町村との広域連携により、近隣市町村の病児保育施設の相互利用が可能となっています。											

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
2	保育・幼稚園課	一時預かり事業	47_民間保育所運営費補助事業費	海老名市内の保育所において、一時預かり事業を実施しています。自宅保育者以外にも保育所待機者の代替施設としてのニーズもあることから、各保育所での一時預かり事業を支援します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	一時預かりは、自宅保育者以外にも保育所待機者の代替施設としてのニーズもありますが、その実施については、施設の運営体制の影響を受ける状況にあります。今後も、事業の安定的な運営のため支援を行ってまいります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	9,629	7,209	75 %		4	4	4	4	4	4	現状継続
3	保育・幼稚園課	延長保育事業	47_民間保育所運営費補助事業費	海老名市内の公立・私立保育所及び認定こども園において、延長保育事業を実施しています。今後も保護者のニーズ等から一定の利用希望者が見込まれるため、各保育所での延長保育事業を支援します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	延長保育の利用者数については、保護者の需要に左右されますが、希望する保護者が延長保育事業を利用できる体制を確保するため引き続き支援を行ってまいります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	979	875	89 %		4	4	4	4	4	4	現状継続
4	子育て相談課	子育て短期支援事業	23_要保護家庭生活支援事業費	保護者の疾病、仕事等により、家庭での養育が一時的に困難となったことを対象に、児童養護施設等で一定期間、養育・保護します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	市内に児童養護施設がないため、どのように事業を実施していくか検討中です。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%		3	3	3	3	3	3	現状継続
5	保育・幼稚園課	多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業	48_民間保育所施設補助事業費	各施設の設置基準や職員配置基準など、新規事業者には様々な対応が求められることから、新規参入希望事業者からの相談等に対応し、新規認可保育所の設置を促進します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	全国的に人口減少や少子化が問題となっている中、本市においても就学前児童数は減少傾向となっておりますが、一方で共働き世帯が増えていることで保育需要が増加している状況です。引き続き新規参入希望事業者からの相談等に対応し、新規認可保育所の設置を促進します。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					園	3	4	133 %		4	5	4	4	3	4	現状継続
6	保育・幼稚園課	実費徴収に係る補足給付を行う事業	47_民間保育所運営費補助事業費	保護者の世帯所得の状況等から、特定教育・保育施設等に対して保護者が支払うべき副食費、日用品、文具その他の教育・保育に必要な物品の購入に要する費用の一部を助成します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	近年物価上昇が続いており、低所得者への支援の必要性が増してきております。引き続き、保護者の世帯所得等の状況に鑑み、適切に給付事業を行ってまいります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					-	-	-	- %		4	4	4	4	4	4	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	新規開設への支援など積極的な取り組みが行われているほか、各事業における配置についても適切に実施されていると高く評価できる。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	本事業により、学童保育の待機児童がほぼ解消されている状況は、極めて順調に推移していると高く評価できる。
施策名	I－3 学童保育施設等の充実	少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少による労働力不足が課題であるため、国によって女性活躍の推進が図られており、共働き世帯が増加している。 こうした社会的背景を踏まえると、本事業は極めて重要な役割を担っている。放課後に子どもたちの安全で安心な居場所を確保・提供するとともに、多様な体験や活動を通じて学校外の生活を豊かにすることも、本事業に寄せられる大きな期待である。 一方で、これらの目的を実効性のあるものとするためには、安定的な運営体制の構築、放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携強化、対象学年の拡大など、今後の具体的な取り組みが重要である。今後も地域の実情に応じた新規施設の開設を積極的に推進されたい。		
施策の説明	共働き家庭が増えていることから、こどもの放課後の居場所のニーズが高まっています。こどもが多様な体験・活動を行いながら放課後の時間を豊かに過ごすことができるよう、放課後児童クラブや放課後子ども教室の運営を通じて、安全・安心な居場所を提供します。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	学び支援課	放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)	76_学童保育支援事業費	保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に通う子どもたちに、遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る事業です。	人	2,150	2,321	108 %	児童数の増加が見込まれる地域については、待機児童が発生しないよう状況に応じて学童保育クラブの新規開設の支援が必要と考えます。	4	4	4	4	4	4	現状継続
2	学び支援課	放課後子ども教室(あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ)	75_子ども・学校支援事業費	放課後の居場所づくりとして、市内13小学校の体育館や校庭を開放して子どもたちに自由あそびができる場を提供します。各校多少の差がありますが、13校ほぼ毎日開催しています。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	あそびっ子クラブ、まなびっ子クラブ共に安定的な開催を継続していくには、支援スタッフの確保が課題と考えます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	45,000	50,749	113 %		4	4	4	4	4	4	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)	
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている 本事業は、魅力ある学校教育の実現に向けた重要な取組であり、多様性への理解や誰ひとり取り残さない教育への市民ニーズや社会情勢を踏まえる必要性は高い。海老名市こども計画において適正に配置されていると評価する。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である 「授業改善の実践」や「男女平等教育の充実」による性の多様性についての講演会、さらに「インクルーシブ教育推進事業」における天然木材の机やバーテーション導入など環境整備において一定の成果が認められる。
施策名	I-4 魅力ある学校教育の推進	コメント	本事業はこどもたちが安心・安全に個性を伸ばせる居場所づくりに寄与する重要な取組であり、その成果を評価する。今後は、教育委員会内にとどまらず、市長部局の子育て相談課や福祉部局とも連携し、不登校傾向にある児童生徒へのアウトリーチや心理的アプローチの視点を踏まえながら、さらなる事業効果の質の向上と持続可能な事業運営に努めることが重要である。 また、これらのハード面の整備や講演会が、日常の学習効果やこどもたちの心理的安心感にどう繋がったかという効果検証(過剰・不足)も見受けられることから、継続的な改善や効果検証が求められる。 利用者ニーズ、保護者の意見や社会環境の変化を踏まえ、教育のユニバーサルデザイン化に向けたハード・ソフト両面の事業内容の継続的な見直しを図りたい。 導入した環境整備(バーテーションやデジタル時計等)がこどもの集中力や安心感に与えた影響を定量的・定性的に把握し、効果検証を進められたい。
施策の説明	こどもにとって、学校は単に学ぶだけの場ではなく、安全・安心に過ごしながら他社とのかかわりの中で育つ、大切な居場所の一つです。一人一人の可能性を伸ばしていけるよう、多様性に対応した学びの機会を創出します。また、「誰ひとり取り残さない教育」を目指し、インクルーシブ教育を推進します。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	教育支援課	授業改善の実践	70_特色ある学校づくり推進事業費	こどもたち一人一人の学びを保障するべく多様な学びの場と指導・支援方法の実践により、「主体的・対話的で深い学び」を追究し、授業改善を継続します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	こどもたち一人一人の「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、引き続き、授業の在り方を見直しつつ、さらなる授業改善が求められます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
2	教育支援課	男女平等教育の充実	67_人権教育推進事業費	学校教育において、人権教育の一環として男女平等教育を推進します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	昨年度は、体育館の工事等により、2校で実施を見送った。中学校と連携して、市内中学校6校で開催できるように計画をたてていきたい。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
3	教育支援課 支援センター	インクルーシブ教育推進事業	69_インクルーシブ教育推進事業費	児童・生徒が「ひびきあう教育」の理念のもとに、「誰ひとり残さない教育」を目指し、インクルーシブ教育を推進します。個別教育支援計画の作成を通じた教育的ニーズの適切な把握のもとに、多様性に対応した、学びやすい環境、分かりやすい授業、安全で安心できる居場所を整えます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	これまでの効果と課題を基に、学級・授業づくりや校内支援体制に、より必要とするものを考え、インカムや台形机など新たな物品を整備し、さらなる環境改善を図ります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
					すべてのこどもが安心して学習、生活できるユニバーサルデザインの環境づくりとして、目盛付デジタル時計、ジョイントマット、バーテーション、長野県須坂市産の天然木材を使用した机を購入し、環境整備を図りました。					4	4	4	4	4	4	見直し(継続)

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	C:さらに追加すべき事業がある	母親となる妊婦が経済面・生活面で安心して出産へ臨めるよう必要な施策である。きめ細やかな支援が幅広く行われることが望まれる。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A:順調である	現在行われている事業は、どれも目標を概ね達成していると考えられる。
施策名	Ⅱ－1 妊娠・出産に関する支援事業の充実	どの事業も概ね目標を達成していると評価する。 妊婦健診は物価の高騰もあり、近隣市でも補助額の拡充が行われている。早急に海老名市でも増額の検討を行われたい。 各家庭にはそれぞれ異なる事情や課題があるが、妊娠中・退院直後の生活支援(食事の準備など)や、多胎児(双子など)の育児、子どもの入院時の付き添いなどは、どの家庭においても大きな負担となる可能性がある。こうした子育てに伴う負担については、実家を含む家庭の状況にかかわらず、どの母親も安心して子育てができるよう、行政による支援制度の充実を検討されたい。		
施策の説明	妊娠・出産の時期は、ホルモンのバランスや、つわり等の影響で心身の変化が大きくみられます。母親が安心して妊娠・出産に望めるよう、妊婦健康診査や相談支援など妊娠期からの切れ目のない支援を行い、安心して出産できる環境づくりを推進します。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	こども育成課	妊婦健康診査	45.乳幼児健康診査事業費	安心して出産できるよう、妊婦の健康管理とともに、新生児の疾病や異常の早期発見の機会となるよう、妊婦健康診査を実施します。神奈川県産婦人科医会に委託し、妊婦が県内の産科等医療機関において健診を受けた際の費用の一部を補助します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	昨今の物価高騰により健診費用の自己負担額が増えている現状です。自己負担額が減らせるよう健診費用補助額の増額を検討していきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	12,362	11,176	90.406 %		4	4	4	4	4	4	現状継続
2	こども育成課	妊婦歯科健康診査	45.乳幼児健康診査事業費	妊娠中は、むし歯や歯周病などが悪化しやすく、歯周病は早産等の原因となることがあるため、口腔内の異常の早期発見の機会となるよう、妊婦歯科健康診査を実施します。市内歯科医療機関へ委託し、妊娠中無料(1回)で受診できます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	妊婦のお口の健康は、生まれてくる児や家族の健康に関連しており引き続き受診率を維持できるようにしていきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	439	439	100 %		4	4	4	4	4	4	現状継続

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
3	こども育成課	乳児家庭全戸訪問事業	41_母子保健相談指導事業費	4か月までの乳児のいる全ての家庭を訪問し、子育ての不安や悩みの相談を聞き、子育て支援に必要な情報提供を行い、地域の中で子どもが健やかに成長できるよう支援します。委託助産師や市の保健師、主任児童委員が家庭を訪問します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	出生後すぐの転入者は、訪問を実施したかどうかの把握が難しいため、勧奨はがき以外のアプローチ方法を考えていきたいと思います。	4	4	4	4	4	4	現状継続
					人	1,094	912	83.364 %								
4	こども育成課	プレパパ・ママ教室	41_母子保健相談指導事業費	初めて母親、父親になるご家庭を対象に、妊娠中の不安を軽減し、安全な出産・育児ができるように、プレパパ・ママ教室を実施します。助産師、保健師、歯科衛生士、栄養士が支援します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	年度後半は土曜日開催の1日目が午後のコースの予約者が少なく、午前コースの方が人気でした。参加状況も確認し、日時の設定を再検討していきます。教室に参加したからこそ得られる内容を継続、ブラッシュアップしたいと考えます。	4	4	4	4	4	4	現状継続
					人	576	738	128.13 %								
5	こども育成課	特定不妊治療(先進医療)費助成事業	44_特定不妊治療費・不育症治療費助成事業費	不妊に悩む夫婦の経済的負担の軽減を図るため、医療保険適用の特定不妊治療と併用して先進医療を受けられた夫婦に対し、先進医療に係る費用の一部を助成します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	制度を利用される方が、増えています。	4	4	4	4	4	4	現状継続
					人	240	281	117.08 %								
6	こども育成課	不育症治療費助成事業	44_特定不妊治療費・不育症治療費助成事業費	不育に悩む夫婦の経済的負担の軽減を図るため、不育症の診断後に実施した医療保険適用外の不育症治療を受けられた夫婦に対し、治療費の一部を助成します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	対象者が、利用できるよう周知に努めます。	4	4	4	4	4	4	現状継続
					人	4	3	75 %								
7	こども育成課	産後ケア事業	41_母子保健相談指導事業費	心身ともに不安定になりやすい出産後の一定期間に支援を必要とする母子に対して、助産師等の専門職が居宅を訪問又は医療機関にて育児に関する支援を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	対象者が利用しやすい様、引き続き適時に周知を図ります。	4	4	4	4	4	4	現状継続
					件	365	475	130 %								

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
8	こども育成課	産婦健康診査事業	45.乳幼児健康診査事業費	出産後間もない産婦に係る母体の健康機能の回復、授乳状況及び精神状態の把握等を行うための産婦健康診査に係る費用の一部を助成することで、受診を促進し、産後うつの予防、新生児に対する虐待予防等を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	産後うつの予防、新生児に対する虐待予防等を図るため、引き続き受診率を維持できるようにしていきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	1,442	1,583	109.78 %		4	4	4	4	4	4	現状継続
					産婦健康診査費用補助券は産後2週間及び1か月の健康診査の費用を1回につき5,000円の費用補助を実施しています。											
9	こども育成課	妊婦のための支援給付金	41.母子保健相談指導事業費	妊婦であることの認定後に5万円を支給します。その後、妊娠しているこどもの人数の届出後に妊娠しているこどもの人数×5万円を支給します。妊娠等包括相談支援事業等の支援を組み合わせることで、総合的な支援を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	給付金の受取方法について、妊婦にとって負担の軽減となる方法を模索していきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	2,400	1,913	79.708 %		4	4	4	4	4	4	現状継続
					給付金の受取方法として、口座振込のほか、セブン銀行で受取る方法を追加しました。それにより、妊婦の利便性が向上しました。											
10	こども育成課	妊婦等包括相談支援事業	41.母子保健相談指導事業費	妊婦及びその配偶者等に対して面談等により情報提供や相談等を行います。妊婦のための支援給付と組み合わせることで、総合的な支援を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	妊娠8か月アンケートの未回答率2割について、どう対応していくかが課題です。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	2,144	2,053	95.756 %		4	4	4	4	4	4	現状継続
					妊娠届出での面接と、妊娠8か月アンケートから電話や訪問、来所面談を実施し切れ目ない支援を行いました。妊娠8か月アンケートの回答率は8割程度でした。											

施策別 事業評価シート

計画の概要	
計画名	海老名市こども計画
計画期間	令和7年4月～令和12年3月
施策名	Ⅱ－2 こども・若者の健康確保の促進
施策の説明	乳幼児期は健康づくりの基礎が培われる大切な時期で、主に家庭での生活習慣が大きく影響します。各発達段階での健康審査や講座・教室などを通して、母子の心身の健康確保に努めます。また、こども・若者が安心して必要な医療を受けられるよう、子ども医療費助成事業を継続します。

外部評価(ABC評価)		
事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	本事業は、こども・若者の健康確保の実現に向けた重要な取組であり、乳幼児期における健康づくりの基礎や医療費助成への市民ニーズや社会情勢を踏まえると必要性は高い。海老名市こども計画において適正に配置されていると評価する。
施策の進捗・達成	A: 順調である	「乳幼児健康診査」における高い達成率(4か月児99.5%など)の維持や、「家庭訪問」において保健師・栄養士・助産師等の多職種連携による多重問題ケースへの訪問など一定の成果が認められる。
コメント	本事業は母子の心身の健康確保と、若者が安心して医療を受けられる環境づくりに寄与する重要な取組であり、その成果を評価する。今後は、単に対象者を待つ健診ではなく、受診に至らない潜在的リスク家庭への早期アプローチやデジタルを活用した情報発信の視点を踏まえながら、更なる事業効果の質の向上と持続可能な事業運営に努めることが重要である。 健診未受診者や歯科受診率の向上に向け、利用者ニーズや社会環境の変化を踏まえ、土日開催や個別フォローなど事業内容の継続的な見直しを図りたい。 多職種訪問によるリスク回避の実績を定量的・定性的に把握し、効果検証を進められたい。 保育・幼稚園課やこども育成課、地域の小児科・歯科医院との連携を強化し、更なる事業効果の向上に努められたい。 健診予約・相談システムへのAIチャットボット導入など、新たな手法についても研究・検討されたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	こども育成課	乳幼児健康診査	45.乳幼児健康診査事業費	こどもの健やかな成長を願って、4か月児、8か月児、1歳6か月児(内科・歯科)、2歳児歯科、3歳6か月児(内科・歯科)の健康診査を行います。8か月児健康診査、1歳6か月児健康診査(内科・歯科)は、委託医療機関にて個別で実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	育児不安を抱える保護者の支援、疾病への早期発見治療。支援機関への切れ目ない支援体制の構築が求められます。また、未受診者の継続的な支援体制や受診しやすい環境整備、就労家庭に配慮した受診機関の確保が課題です。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					(達成率)			%								
										4	4	4	4	4	4	現状継続
2	こども育成課	家庭訪問	41.母子保健相談指導事業費	助産師や保健師、栄養士が乳幼児のいる家庭を訪問し、妊産婦及び乳幼児の健康、育児や母乳についての相談、育児の悩み、こどもの発達についての相談を開き、必要な支援や情報提供を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	引き続き保護者のニーズに応じて、訪問をタイムリーに実施していきたいと思います。複数の問題点を抱える家庭には複数回、複数の職種で支援を行う必要性があると考えます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	3,031	3,004	99 %								
										4	4	4	4	4	4	現状継続
3	子育て相談課	育児相談	22.子育て支援センター活動事業費	同年齢のこどもを持つ親同士が共通の話題や情報交換などをしながら交流できる年齢別サロンにおいて、保健師や栄養士、歯科衛生士などの専門職がこどもの発達や育児に関する悩みなどの相談に応じます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	個々の状況(悩み)に応じて、子育てに関する情報提供や相談に対応できる体制を整え、継続支援ができるように関連部署と調整が必要。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	1,568	1,520	97 %								
										4	4	4	4	4	4	現状継続
4	こども育成課	親と子の相談支援事業	41.母子保健相談指導事業費	こどもの発達(言葉、動作)、子育てでの不安や悩み、気になるくせなどの様々な相談をする場所として、親と子の相談支援事業を実施します。公認心理師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士の専門の相談員が相談に応じます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	引き続き、保護者のニーズに応じて、専門職種が相談に対応します。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	774	870	112 %								
										4	4	4	4	4	4	現状継続

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
5	こども育成課	健康診査事後指導事業	41.母子保健相談指導事業費	心身の発達が気になるこどもや育児不安がある親子に対し、より良い親子関係を育み、幼児の健やかな発達を促すため、乳幼児健康診査の事後指導を実施します。保健師、保育士、公認心理師、栄養士が従事しています。	—	—	—	— %	引き続き、きめ細やかな支援、相談を行い親子が安心して参加できるよう対応していきます。	4	4	4	4	4	4	現状継続
					心身の発達が気になるこどもや育児不安がある親子に対して、遊びや教室をとおして各専門職が連携し、幼児の健やかな発達を促し親が適切な関わり方が出来る機会に寄与し、継続した支援、相談につなげるよう実施しました。											
6	こども育成課	乳幼児予防接種	46.乳幼児等予防接種事業費	予防接種法に基づく「定期接種」のワクチンを、各委託医療機関で無料接種することができます。また、予防接種スケジュールの自動作成などの機能が付いた携帯アプリ「母子モ」を活用します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	乳幼児の予防接種は予防接種法に定められたA類疾病の予防接種で、集団予防・重篤な疾患の予防に重点を置いたものです。適切な時期に予防接種が受けられるよう、引き続き、接種勧奨等を行っていきます。	4	4	4	4	4	4	現状継続
					—	—	—	— %								
7	子育て相談課	離乳食講座	22.子育て支援センター活動事業費	乳児の発育や発達に合わせ、離乳食を始めるタイミングや量、大人の料理からの取り分け方などを学べる場を提供します。また、講座の後半では栄養士を囲んでの質問タイムや親同士の情報交換を実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	講座を受けてほしい対象者が受講できるように、関連部署と調整を行い受講の推進を図る。	4	4	4	4	4	4	現状継続
					人	356	366	103 %								
8	子育て相談課	むし歯予防講座	22.子育て支援センター活動事業費	おおむね1歳前後の乳幼児と保護者を対象に、仕上げみがきの方法やむし歯になりにくい食事習慣、生活習慣を歯科衛生士と栄養士から学べる場を提供します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	母親の参加が多いため、父親が参加できる機会を計画していく。	4	4	4	4	4	4	現状継続
					人	146	137	94 %								
9	国保医療課	子ども医療費助成事業	37.子ども医療費助成事業費	0歳から満18歳に達した日以後最初の3月31日までの市内在住のこどもが、ケガや病気などで医療機関にかかったときの医療費を助成します。所得制限はありません。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	現状維持	4	4	4	4	4	4	現状継続
					人	20,600	20,642	100 %								
10	文化スポーツ課	運動能力測定の実施	12.スポーツ振興推進事業費	未就学児・小学生を対象として、運動能力を測定し、自己の記録への関心、意欲の向上を図りスポーツをする機会の創出を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	EBINAスポレクフェスタ内での実施となるため、同日開催の「えびな玉入れ選手権大会」との兼ね合いで運営時間が縮小される等の課題がある。引き続き運営方法等の見直しを検討する。	3	3	3	4	4	3.4	見直し(継続)
					人	300	300	100 %								
11	こども育成課	新生児聴覚検査事業	45.乳幼児健康診査事業費	新生児等の聴覚障がい早期発見及び早期療育を図るための新生児聴覚検査に係る費用の一部を助成することで、受検を促進し、経済的負担の軽減を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	対象者の検査費用負担を軽減できるよう、引き続き費用助成を進めるとともに、償還払いの周知を図ります。	4	4	4	4	4	4	現状継続
					件	536	745	139 %								

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	本事業は、子育て世帯への経済的支援の充実の実現に向けた重要な取組であり、近年の物価高騰に伴う家計負担の軽減への市民ニーズや社会情勢を踏まえる必要性は高い。海老名市こども計画において適正に配置されていると評価する。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	「子育て・子育て応援事業」による紙オムツ等の贈呈や、「教材費支援事業」「修学旅行保護者負担軽減補助金」の堅実な交付など一定の成果が認められる。
施策名	Ⅱ－3 子育て世帯への経済的支援の充実	コメント		
施策の説明	国内では物価高騰が続いており、ニーズ調査でも、経済的支援についてさらに充実してほしいという声が多く、子育て世帯の経済的負担感の大きさがうかがえます。安心して子育てできるよう、現在行っている経済的支援をより一層充実させるとともに、新たな支援の方策を検討します。			
		本事業は安心して子育てができる経済的環境の創出に寄与する重要な取組であり、その成果を評価する。 一方で、所得制限の有無による公平性の課題(過剰・不足)が見受けられるため、継続的な改善と、さらなる事業効果の質の向上や持続可能な事業運営に努めることが重要である。 物価情勢や利用者ニーズや社会環境の変化を踏まえ、お祝い品の内容や補助金の対象範囲について継続的な見直しを図られたい。 経済的支援が保護者の心理的負担感や子育て継続意欲に与えた影響を定量的・定性的に把握し、効果検証を進められたい。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価							
1		こども育成課	子育て・子育て応援事業	42_子育て支援事業費	海老名市に住んでいたことへの感謝と、こどもが成長している喜びを伝えるため、出生児と各乳幼児集団健診受診対象者へ紙オムツや衛生用品などのお祝い品を贈呈します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	今後も子育て世代のニーズを汲みながらお祝い品の内容の見直しを定期的に行うことで、引き続き海老名市に住む子育て世帯を応援します。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
									%			4	4	4	4	4	4
2		就学支援課	教材費支援事業	・62_児童教材費支援事業費 ・65_生徒教材費支援事業費	小・中学校に通学する児童・生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、全児童・生徒を対象に教材費を無償化します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	国公立等校に通う児童生徒については、補助金を交付するため、申請書類を自宅へ郵送しているが、申請者は6割以下で、全員に支援が行き届いていないのが現状です。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
						人	10,908	10,732	98 %			3	3	3	3	3	3
3		教育支援課	修学旅行保護者負担軽減補助金交付事業	71_修学旅行支援事業費	海老名市立小・中学校が実施する修学旅行に参加する、海老名市在住の小学校6年生の児童の保護者及び中学3年生の生徒の保護者に対し、小学校6年生の参加児童一人あたり上限10,000円、中学校3年生の参加生徒一人あたり上限15,000円を交付します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	補助金の交付を継続し、保護者の負担軽減を図ります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
						名	2,356	2,265	96 %			4	4	4	4	4	4
						市内在住の小学校6年生児童及び中学校3年生の生徒の保護者に対し、修学旅行保護者負担軽減補助金を交付しました。 ※小学校:1,188名 11,872,730円 中学校:1,077名 15,503,086円											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	地域拠点の増設や専門人材による対応などハード・ソフト両面での整備は適切である。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	目標達成率、利用実績の増加は施策の有効性を示しており、順調と判断する。
施策名	Ⅱ－4 相談支援・情報発信の推進	コメント	子育て家庭の孤立・不安という現代的課題に対して、情報発信と相談支援・イベントを組み合わせた総合的な施策として高く評価できる。特に、重要事業と位置づけている子育て支援センター事業においては、下京泉に地域版を増設し、合計4箇所の充実度は評価に値する。 一方で、利用者増加に伴う負荷が顕在化しており、量的拡大から持続可能な運営への転換が必要な段階にあるとも言えるため、継続的な事業見直しを図られた。 また、情報発信のSNS活用による潜在ニーズ層へのアプローチについても改善の余地もあると思われるため、併せて検討された。	
施策の説明	ニーズ調査から、子育て中に孤独や孤立を感じる方が一定数存在することがうかがえます。悩みや困りごとを一人で抱え込まないよう、子育て支援センター、こども家庭相談室、地域版子育て支援センター「はぐはぐ広場」等を活用し、気軽に相談できる機会と場所を提供します。また、必要な情報が必要な方に届くように情報発信の充実を図ります。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	こども育成課	子育て情報発信事業	43.児童福祉総務管理経費	妊娠中の方から就学前児童のいる世帯までの全世帯に、子育てガイドブック「えびな健康だよりSUKUSUKU」を配布します。携帯アプリ「母子モ」を通じて子育てに関する情報を発信し、子育てに関する行政情報等を積極的に発信し、周知を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	今後も子育てに関する情報を漏れなく届けることができるよう、「見やすさ」「調べやすさ」をキーワードに努めます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					部	9,000	8,500	94 %								
2	子育て相談課	子育て支援センター	22.子育て支援センター活動事業費	子育て中の親の孤独感や負担感の増大等に対応するため、様々なサロンや育児に関する講座、季節に合わせたイベントなどを通して、親子の交流促進や子育てに関する相談支援、各地域に関する情報提供などを実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	気軽に相談できる場所として、保護者のおかれている状況や環境について把握を行い、個々に適した支援へ繋げるとともに、寄り添いながら育児不安の軽減を図ります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	30,296	33,246	110 %								
3	子育て相談課	地域版子育て支援センター	22.子育て支援センター活動事業費	市立子育て支援センターから遠距離の地区にお住まいで、なかなか来所できない親子のために、より身近で地域に根差した地域版子育て支援センター「はぐはぐ広場」を開設しています。民間事業者のアイデアやノウハウを取り入れ、特色あるものとするため、事業運営を委託しています。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	地域に根差した地域版子育て支援センターとして、地域との交流を図る事業の工夫や、利用者が気軽に立ち寄れる場所となるような周知を図ります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	13,188	18,463	140 %								
4	子育て相談課	こども家庭相談室	23.要保護家庭生活支援事業費	子育ての不安、イライラしてこどもにあたってしまう等の子育ての悩みについて相談員が相談を受けつけます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	相談員は、正規職員のほか、会計年度任用職員4名の相談員(臨床心理士、保健師、看護師、社会福祉主事、教員・保育士免許等の有資格者)が、育児困難感や保護者の体調等の相談の対応をしています。継続的に支援が必要な方については、定期的に家庭訪問をして支援をおこなっています。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	1,668	2,331	140 %								

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	本事業は、多様な遊びや体験、居場所づくりの推進の実現に向けた重要な取組であり、こども・若者の社会的自立や体験機会の確保への市民ニーズや社会情勢を踏まえる必要性は高い。海老名市こども計画において適正に配置されていると評価する。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	「小学校スポーツ大会(連合運動会)」の改良実施、3市による「少年少女スポーツ交流事業」、および「ユース・ぶらっとフォーム事業」での若者主体のイベント開催など一定の成果が認められる。
施策名	Ⅲ-1 多様な遊びや体験、居場所づくりの推進	コメント	本事業はこども・若者が多様な人との交流を通じて資質・能力を育む場に寄与する重要な取組であり、その成果を評価する。今後は、活発な若者だけでなく、自分を表現することが苦手な若者もグラデーション状に優しく包み込める、多様なサードプレイスの視点を踏まえながら、さらなる事業効果の質の向上と持続可能な事業運営に努めることが重要である。 参加したこどもたちの満足度や成長度合い、自己肯定感への影響を定量的・定性的に把握し、効果検証を進められたい。また、主体的に参加できる若者の層の固定化や、スポーツやイベントに関心のないインドア派のこどもたちの居場所の過不足も想定されるため、継続的な改善や効果検証が求められる。 オンライン上のメタバース居場所の提供など、AIやデジタル技術の活用など、新たな手法についても研究・検討されたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価							
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性	
1	教育支援課	小学校スポーツ大会の実施	68.小学校行事活動事業費	こどものスポーツに対する興味、自己記録への関心、意欲の向上を図るための小学校連合運動会を開催します。				%	LGBTQ+の児童への配慮として、男女混合の種目運営を推進してきた。協議制の種目においても、男女混合を希望する声がある。すべての子どもにとって何が最適解かを再度考え運営を改善する必要がある。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	見直し(継続)	
2	市民活動推進課	海老名市・白石市・登別市少年少女スポーツ交流事業	4.都市間交流推進事業費	海老名市の姉妹都市である白石市を訪問し、歴史や文化を学び、スポーツを通じて仲間との協調性、自主性を養うことを目的として、毎年違う種目でのスポーツ交流を行います。	単位 回	目標/計画値 2	実績値 2	達成率 100 %	姉妹都市とのスポーツ交流は、人口減少によるチーム数の減少や遠征に係る費用・同行者の負担増が課題となっている。交流するスポーツや方法等を姉妹都市と協議したうえで、実施していきたい。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	見直し(継続)	
3	学び支援課	ユース・ぶらっとフォーム事業	80.青少年教育事業費	高校生や大学生の年代の方を中心に自分たちがやりたいことの探究活動の場を提供します。海老名の良さを伝え、人とつながるイベントを企画することや、地域や学校で活動するボランティア等に参加することで、自身がさらに次の世代のメンターとなるための活動を支援することを目的とします。	単位 -	目標/計画値 -	実績値 -	達成率 -%	若者の「海老名をもっと知りたいたい・知ってほしい」「仲間を増やしたい」という思いを実現できるように、若者の意見を聞き出しながらサポートを行い、事業を推進していきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	見直し(拡大)	
4	学び支援課	二十歳の祝典	78.二十歳の祝典運営事業費	20歳の新しい門出を祝福し、社会人としての自覚を高めるために、毎年、成人の日に式典を実施します。対象者の中から有志で実行委員会を設け、式典の企画・運営を行います。	単位 %	目標/計画値 77	実績値 76	達成率 99 %	式典は厳粛に行えるように、実行委員会を指導しながら、イベント企画では実行委員のやりたいことを実現できるようサポートしていきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	現状継続	

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	必要な事業が充分に配置されている。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	各事業が順調に進捗している。
施策名	Ⅲ－2 健やかな心身の育成支援の充実	コメント こどもセンターエリアが海老名市の子育てハブとしての機能を果たすように、教育委員会のこどもセンターへの移転、わかば会館のこども用施設への改修などの事業がこれまで取り組まれてきた。こどもセンターエリアが「ハグハグゾーン」という位置づけを強化しつつ、今後も関係部署で連携して、切れ目のない支援が行われることが望まれる。 一方で海老名市DV・女性相談事業については、男性専用窓口がないと、公平性については低い評価となっている。相談件数の関係から男性専用相談員を配置することは難しいと考えるが、ホームページ上でDVと女性相談を別のページで作るなど、男性も相談をしやすい環境づくりを検討されたい。 本施策の目指す「健やかな心身を育成する」には、自己肯定感が重要である。学校教育や社会全体で、子どもたちの自己肯定感を育てていくことが望まれるため、今後はそういった事業についても研究をされたい。		
施策の説明	学童期・思春期は、学校生活や家庭の中で健康に関する知識を習得し、自らの健康や生活習慣を意識する時期です。自分の状況に応じてSOSを出したり、セルフケアをしたり、自らに合ったサポートを受けたりできるよう、健やかな心身の育成支援を図ります。また、非行を防止し、犯罪などから身を守るための意識啓発や活動を行います。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	こども育成課	こどもセンター連携会議	必要経費無し	こどものライフステージに合わせた切れ目のない支援を実現させるため、福祉と教育を縦割りしない、こどもセンター連携会議等を通じて連携体制の充実を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	特になし	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	なし	3	- %								
					《数値は会議開催数》 妊娠出産期から青少年期にわたる一貫した子育て支援を目的とし、各課による情報共有・連携体制を構築できました。											
2	教育支援課	自殺予防教育の導入	事業費なし	問題行動の未然防止を含めた児童・生徒の健全育成のために、研修体制を充実させます。教職員向け研修の中で自殺問題及び支援先に関する情報を提供することにより、こどもの自殺リスクに直面した際の対応と支援について、理解を深めます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	特になし	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
					学期ごとの学校生活アンケート(小学校)・教育相談アンケート(中学校)を通じて、心の健康状態の把握につとめ、個々の状況に応じた支援や組織的な対応に努めました。また、国からの児童生徒向け自殺予防のチラシ配付や、教職員向けの長期休業明けの児童生徒へのかかわり方の周知等を行いました。											
3	市民相談課	海老名市DV・女性相談	5.DV・女性相談事業費	生活上の女性の諸問題について助言を行い、適切な支援へつなぎます。また、女性に対するパートナー等からの暴力被害の相談を受けて支援を行い自立の促進を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	今後も、支援措置や相談対応、緊急一時保護など一連の支援の流れを切れ目なく展開する必要があるため、関係機関との連携を図りながら、事業を継続していく必要があります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					-	-	-	%								
					女性相談員による相談件数はDV相談281件、女性相談276件、一時保護件数は2件2名でした。											
4	福祉政策課	社会を明るくする運動	17.社会福祉団体等助成事業費	犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を築くため、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、立ち直りを支えられる地域づくりを推進します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	引き続き、保護司会や関係機関と連携協力し、「社会を明るくする運動」の取り組みを通じて、広報・啓発活動を進めていきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
					海老名駅自由通路で行った街頭啓発キャンペーンや市民まつり等により、様々な年代の方に広報・啓発活動を行いました。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)	
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	C:さらに追加すべき事業がある 各事業は、将来に希望を持って生きるための支援の充実の実現に向けた重要な取組であり、ひきこもりやニート、孤立する若者の増加という市民ニーズや社会情勢を踏まえると必要性は高い。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	C:著しく遅延している 「ひきこもり相談支援事業」において年4回の当事者の居場所を開催し安心できる場を提供したこと、「海老名市奨学生」として70名への確実な給付を行ったことなど一定の成果が認められる。 一方で、居場所の開催回数が年4回にとどまっており、日常的な孤立を防ぐための開催回数やアプローチの手法の不足が見受けられる。
施策名	Ⅲ－3 将来に希望を持って生きるための支援の充実	コメント	本施策は誰もが幸せに暮らせる持続可能なまちを目指し、ライフイベントの選択を支えることに寄与する重要な取組であり、その成果を評価する。今後は、当事者が自ら相談に来るのを待つだけでなく、SNSやアウトリーチを駆使して潜在的な困窮・孤立層を発見し、伴走支援する視点を踏まえながら、更なる事業効果の質の向上と持続可能な事業運営に努めることが重要である。 当事者のための居場所が令和8年度の10月から常設になるとのことで、継続的な支援も期待されたい。(令和8年7月時点のコメント) 居場所の開催頻度の拡大やオンライン併用など、利用者ニーズや社会環境の変化を踏まえ、事業内容の継続的な見直しを図られたい。 相談や居場所参加が、当事者の社会参加意欲や心理的安定にどう結びついたかを定量的・定性的に把握し、効果検証を進められたい。 相談窓口へのアクセスを容易にするためのAI自動応答システム(LINE等)の活用など、新たな手法についても研究・検討されたい。
施策の説明	こども・若者が将来に希望を持って生きられるまちをつくることは、少子化や人口減少の流れを変え、まちの持続可能性を高めることにつながります。誰もが幸せに暮らせるまちを目指し、ひきこもりやニートの状態にあったり、人間関係に不安を抱えていたりする人の相談支援を行い、適切なサポートにつなぎます。また、こども・若者が家庭の経済状況にかかわらず、夢や希望を持って、進学や就業など自らのライフイベントを選択できるよう、奨学金を給付します。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	生活支援課	ひきこもり相談支援事業	24.生活困窮者自立支援事業費	ひきこもり等、社会的困窮者(20歳～)が抱える悩みに対し相談支援(アウトリーチ支援含む)や当事者のための居場所づくりなどを行うことで、社会及び当事者同士のつながりをつくる環境を醸成します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	現状の開催はイベント的要素が強く「当事者が行きたいとき」を逃している可能性があります。令和8年度は当事者のための居場所を常設し、当事者の「行きたいとき」を逃さないよう、いつでも参加できる環境づくりを進めます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回数	4	4	100 %		3	4	3	3	3	3.2	見直し(拡大)
					当事者の居場所を年間通して4回開催することができました。延べ参加人数は約30名で、参加者アンケートから安心できる居場所であるとの声をいただきました。											
2	就学支援課	海老名市奨学生	61.奨学金支給事業費	経済的理由により、学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程、高等専修学校(第3学年まで)、高等専門学校(第3学年まで)への修学などが困難な方に奨学金を給付し、未来の夢や目標の実現を支援します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	給付資格を満たした申請者は全員面接を行い、奨学生を決定しています。 募集人数を超過した場合は不決定通知を出さなければならないため、選考に苦慮することがあります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	70	70	100 %		3	3	3	3	3	3	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)	
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている 事業全体としては、生活・医療・教育の各分野を横断した支援メニューが体系的に配置されており、ライフステージを通じた切れ目ない支援ができているため適性と判断する。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である 多くの事業で達成率100%以上または計画どおりの進捗の結果から順調と判断する。
施策名	IV-1 障がいのあるこども・若者と親の安定した生活の支援の充実	コメント 本施策は、事業配置および進捗の面では概ね順調に推移している。 一方で、重度障がいの児対応を中心とした受入事業者不足や人材確保の課題、受入先との導線の弱さ、制度周知不足など構造的な問題が複数確認できるため、質と持続性確保の観点で継続的な事業見直しを図られたい。	
施策の説明	障がいのあるこども・若者やその家族が、安心して暮らすことができる地域づくりに向けて、一人一人の障がいの特性や状況に応じた相談や指導が求められます。保健・医療・福祉・教育の各分野が連携し、サービスを円滑に利用できる体制づくりを進めます。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	障がい福祉課	児童発達支援事業	31_障がい者自立支援給付費等事業費	就学前児童を対象に日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	支給基準を見直し、必要な児童に必要な量の支援が受けられるよう工夫しました。今後も保護者や関係者に制度説明等を実施し、制度の趣旨に則った支援になるようにします。重い障がいをもった児童に対応する事業者が少ない状況です。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	270	300	111 %								
					近年の対象児童の増加により、目標値を上回る需要がありました。											
2	障がい福祉課	保育所等訪問支援事業	31_障がい者自立支援給付費等事業費	保育所、幼稚園、小・中学校、特別支援学校等に在籍する障がい児が、他の児童と集団生活に適應できるよう当該施設を訪問し、専門的な支援を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	人材やコストなどの問題から新規参入事業者が少なく、制度が保育等の現場や保護者の間に浸透していかない状況です。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	30	31	103 %								
					近年の対象児童の増加により、目標値を上回る需要がありました。											
3	障がい福祉課	医療的ケア児支援事業	30_地域生活支援事業費	医療的ケア児の支援に向け、対応の入り口となる相談支援の充実など、保健・医療・教育・福祉等が連携した協議の場の仕組みづくりや、障がい児の成長に応じた支援の充実に取り組みます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	協議会をととし、課題共有や各分野での連携が進んでいますが、受入事業所が少なく、選択肢が少ない状況です。コーディネーターの増員や対応相談支援事業所が増えてきましたが、目標値に届くよう今後も取り組んでいきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	3	2	67 %								
					協議会は、内容を集約し2回にまとめました。											
4	障がい福祉課	放課後等デイサービス事業	31_障がい者自立支援給付費等事業費	就学児童を対象に生活能力の向上のために必要な訓練や社会との交流促進を図ります。放課後又は長期休暇中に提供します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	支給基準を見直し、必要な児童に必要な量の支援が届けられるよう工夫しました。今後も保護者や関係者に制度説明等を実施し、制度の趣旨に則った支援になるようにします。重い障がいをもった児童に対応する事業者が少ない状況です。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	473	561	119 %								
					近年の対象児童の増加により、目標値を上回る需要がありました。											

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
5	教育支援課	就学前後の相談支援事業	72.教育支援センター運営経費	児童の教育的ニーズや状態、保護者の意見、教育学・医学・心理学等専門的見地からの意見、学校や地域の状況等を踏まえた総合的な観点等から、小学校入学後の支援について相談に応じます。また、入学後も支援については見直し・検討します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	5歳児になってから就学相談を始めると、必要な設備や備品、人的支援の準備が間に合わない。支援学校を希望している場合、どのような環境、支援があれば地域で学ぶことができるのかを検討する時間が短い。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
					丁寧な相談を行ったことにより、保護者の不安感を軽減することができた。また、5～6月に未就学児保護者対象の小学校見学の場を設けることも不安軽減につながった。											
6	障がい福祉課	障がい児支援施設機能強化事業	35.わかば会館大規模改修事業費	「わかば学園」で行う児童発達支援センター機能をさらに強化し、地域の中核的な療育施設として展開します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	わかば会館大規模改修に合わせ、実施サービスの内容を見直しを図りますが、中核的施設になるよう市と事業者で協力しながら事業を推進していく必要があります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	1	1	100 %								
					わかば会館改修に伴う実施設計等を委託し、新しい施設の内容について検討しました。											
7	障がい福祉課	障がい児相談支援事業	31.障がい者自立支援給付費等事業費	発達に課題のある児童が児童通所支援等のサービスを利用するにあたり、専門的かつ的確な療育支援を受けられるようサービス利用計画書の作成を行います。一定期間ごとにサービス提供体制について検証を行い、必要に応じて計画の再作成を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	検診後相談の流れから、保護者が本事業を知る機会が少ない状況で依然としてセルフプラン率が高い状況です。事業所も少ない状況でしたが、令和7年度は1件開設があり、既存の事業所の努力もあり数値は改善しています。今後も相談支援事業所の誘致などに取り組む必要があります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	50	47	94 %								
					前年度に比べセルフプラン率は改善傾向となりましたが、依然として高止まりの状況です。											
8	教育支援課	義務教育特別支援教育事業	69.インクルーシブ教育推進事業費	教育的な支援を必要とする児童・生徒に、その発達の特性や状態に応じた多様な教育の場を提供します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	通級指導教室の教職員の専門性を高めるため、研修を充実させることが望ましい。また、全校で自校通級に向けて、今後も計画的に通級指導教室を開設していきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
					通級指導教室のニーズは増加しており、令和7年度に大谷小学校、今泉小学校、杉本小学校、柏ヶ谷中学校に情緒通級(自立型)を設置しました。											
9	障がい福祉課	中高生ディサービス事業	32.障がい者団体等活動支援事業費	障がいがある中高生に対し、自立支援、余暇支援を目的とした療育支援を行い、社会に巣立つ準備期間である大切な時期にきめ細やかな活動の場を提供します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	必要とする中高生にサービスが届くよう、事業の周知や運営者への支援を計測していく必要があります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					事業所数	1	1	100 %								
					前年同様、1事業者1個所に委託して実施しました。											

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果	課題・問題点	担当部課評価						
					単位 目標/計画値 実績値 達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
10	障がい福祉課	軽度・中等度難聴児補聴器購入等補助事業	30_地域生活支援事業費	身体障害者手帳の交付対象とならないため、補装具費支給の対象とならない軽度・中等度難聴児に対し、補装具費に準じて補聴器購入費の補助を行います。	対象者数 8 3 38 % 計画数値に満たない件数でしたが、必要とする児童に即応した支給を実施しました。	必要とする児童に届くよう、制度の周知等を積極的に行っていきます。	4	4	3	4	4	3.8	現状継続
11	障がい福祉課	えびなっこサポートファイル普及事業	予算なし	「えびなっこサポートファイル」とは、一貫した教育や福祉的な支援を受けられるよう、保護者が児童の成育歴を記録するファイルです。ライフステージに沿った、切れ目のない教育・福祉サービスを受けることができるよう、「えびなっこサポートファイル」の普及を進めます。	単位 目標/計画値 実績値 達成率 箇所 2 2 100 % 2か所ある配布場所で配ることにより、必要とする児童・保護者の手に届けることができました。	配布後も常に新しい情報を入手できる手段の構築等を検討する必要があります。	4	4	4	4	5	4.2	現状継続
12	障がい福祉課	出張療育相談事業	33_障がい者支援事業費	市内幼稚園、保育所からの要請により、臨床心理士等の専門家派遣し、保育士及び幼稚園教諭が発達に心配のある児童に適切な対応ができるように適切な療育のための指導・助言を行います。わかば学園に委託して実施します。	単位 目標/計画値 実績値 達成率 委託先 1 1 100 % 保育園などからの要請に応じ支援員を派遣し、集団生活に対抗するための指導・助言を行いました。	保育所等訪問支援との住み分け等に鑑み、適切な事業運営を行っていく必要があります。	3	4	3	4	3	3.4	現状継続
13	障がい福祉課	障がい児通学支援事業	30_地域生活支援事業費	移動支援事業により給付条件に合致する児童(対象児は要綱に定めあり)に対し、通学支援加算を支給決定します。	単位 目標/計画値 実績値 達成率 人 2 2 100 % 【地域生活支援事業費(障がい福祉課)】 対象となる児童2名に対して給付を実施し、通学支援の一助としました。	今後もニーズを適宜把握しながら、実施を継続していく必要があります。	3	4	4	3	4	3.6	現状継続
14	教育支援課	障がい児通学支援事業	34_肢体不自由学級通学支援事業費	登校班や自立通学が困難な障がい児の通学を支援します。支援級に在籍する肢体に障がいがある児童の通学支援として徒歩以外での通学が必要と認められる児童に対し、1回あたり500円(500円未満の場合は実費)を限度に補助を行います。	単位 目標/計画値 実績値 達成率 % (肢体不自由学級通学支援事業費) 下記のとおり肢体不自由学級児童生徒の保護者に対し通学費を支援しました。 小学校 4名 述べ回数555回 中学校 1名 述べ回数185回	特になし	4	4	4	4	4	4	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	適切な事業が配置されている。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	各事業の達成率を総合すると概ね施策の目的を達成していると思われる。
施策名	IV-2 ひとり親家庭等の自立支援の推進	各事業の達成率を見る限り、支援は概ね必要な方に届いていると評価する。特に相談事業については、相談件数が相談体制のキャパシティに達している状況であることから、今後は相談体制の拡充について検討されたい。 相談事業を通じて把握したひとり親家庭のニーズや課題について分析を行い、今後の施策や事業の検討に活かすことを期待する。特に養育費の受け取り率は3割をきるとも言われており、受け取り状況や受け取れない理由についても実態調査を行い、その結果を踏まえた新たな支援事業の展開を希望する。 施策の説明にある「時間の貧困」については本施策だけでなく、他の施策等で改善できる可能性があるため、部署間の横断的な連携を行い、柔軟な支援を市として引き続き実施することを希望する。また、ホームページ上で、ひとり親家庭が「まずどこへ相談すればよいか」が分かりにくい印象を受けた。必要な支援につながりやすくなるように、案内をより分かりやすく改善されたい。		
施策の説明	仕事と子育てを一手に担わざるを得ないひとり親家庭は、いわゆる「時間の貧困」にも陥りやすいことが指摘されており、親子で心穏やかに過ごす時間を持ってないことも懸念されます。ひとり親家庭の生活の安定と自立を支援するため、相談支援や経済的支援の充実に努めます。			
		コメント		

計画に紐づく事業

所管課		事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	こども育成課	ひとり親家庭等 家賃助成	40_母子父子家 庭支援事業費	ひとり親家庭等に対して、住宅の 家賃の一部を助成することにより 生活の安定と自立を支援し、ひ とり親家庭等の福祉の増進を図 ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	ホームページやパンフレット、 相談時の案内を強化し、制度 の周知を図る。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	270	223	83 %								
					支給額を月額5,000円から7,000円に 増額し、年3回(5月、9月、1月)支給 しました。 また、児童扶養手当受給者へチラシ を配布し制度の周知を図りました。											
										4	4	4	4	4	4	現状継続

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
2	こども育成課	教育訓練給付金	40_母子父子家庭支援事業費	ひとり親家庭の親に対して、資格取得に係る講座費用の一部を助成し、主体的な能力開発を支援することにより、自立の促進を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	ホームページやパンフレット、相談時の案内を強化し、制度の周知を図る。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	6	4	67 %		4	4	4	4	4	4	現状継続
3	こども育成課	高等職業訓練促進給付金	40_母子父子家庭支援事業費	ひとり親家庭の親に対して、高等職業訓練促進給付金を一定期間支給し、生活費の負担を軽減することで、就職に有利で生活の安定に資する資格の取得を促進します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	ホームページやパンフレット、相談時の案内を強化し、制度の周知を図る。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	8	11	138 %		4	4	4	4	4	4	現状継続
4	こども育成課	高等学校卒業程度認定試験合格支援制度	40_母子父子家庭支援事業費	ひとり親家庭の親及びそのこども(20歳未満)に対して、高等学校卒業程度認定試験合格のための講座費用の一部を助成することにより、より良い条件での就職につなぎ、自立や生活の安定を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	ホームページやパンフレット、相談時の案内を強化し、制度の周知を図る。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	1	0	0 %		4	4	4	4	4	4	現状継続
5	こども育成課	母子・父子自立支援員による相談事業	40_母子父子家庭支援事業費	母子及び父子並びに寡婦福祉法に基づき、ひとり親家庭等に対して、母子・父子自立支援員が生活の安定と向上のために、県福祉資金の貸付・こどもの養育・就業のことなど、自立を促すための相談に応じます。また、ひとり親のためのサポートブックを発行し、必要な助成や手当等の情報を提供します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	離婚前相談から、実際に離婚後の生活費や養育費の相談など、相談内容は多岐にわたり、また、長期間かかる場合が多く、その需要も高いため、引き続き相談事業を継続し、ひとり親世帯の方が安心して生活し、自立して生活していくためのサポートを行います。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	3,500	3,353	96 %		4	4	4	4	4	4	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	長期的な視点から家庭を支える体制が整備されている点が高く評価できる。また、虐待防止に関する啓発事業も実施され、多角的な支援体制が構築されている点も同様に評価できる。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	養育支援訪問の実施率・達成率は低い状況にあるものの、虐待に関する相談件数は多いことから、本施策に対するニーズは多く存在するものと判断できる。そのために相談員が適切に配置され、相談への対応が的確に行われている点も評価できる。
施策名	IV-3 児童虐待を防止する取組の推進	コメント		
施策の説明	児童虐待は、こども・若者の心身に深い傷を残し、成長した後においても様々な生きづらさを抱えてしまうなど、深刻な影響を与えるものです。こども・若者が安心して生活できるよう、地域や関係機関等が連携し、児童虐待の防止に努めます。また、育児支援が必要な場合は、その家庭に合った支援の仕方を検討し、実施します。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	子育て相談課	養育支援訪問事業	23.要保護家庭生活支援事業費	児童虐待の予防のため平成24年度から開始しています。育児支援が必要な家庭に保健師等が定期的に訪問して、育児状況等を把握し、こどもの保護者に合った支援を検討及び実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	導入及び終了については、こども育成課母子保健担当と毎月実施している「養育支援訪問事業打合せ」にて導入(予定)家庭の保護者の状況、支援内容(主に母の体調確認及び育児支援)の検討を行い決定しています。支援終了後も母子保健担当保健師と連携し定期的な訪問を必要な期間実施しています。引き続き、こども育成課母子保健担当と連携し、事業の継続に努めます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	24	4	17 %								
					1件(育児不安の強い母)の家庭に計4回の支援訪問を実施しました。					3	3	3	3	3	3	現状継続
2	子育て相談課	虐待防止の相談及び啓発活動	23.要保護家庭生活支援事業費	親又は親に代わる保護者によるこどもへの身体的、精神的等の虐待は、こどもの心身の成長、人格の形成に重大な影響を与えます。こどもの人権侵害にあたる児童虐待を早期に防ぐため、相談員2名を配置し、こどもの相談窓口の充実を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	相談員は、正規職員のほか、会計年度任用職員4名の相談員(臨床心理士、保健師、看護師、社会福祉主事、教員・保育士免許等の有資格者)が、育児困難感や保護者の体調等の相談の対応をしています。継続的に支援が必要な方については、定期的に家庭訪問をして支援をおこなっています。虐待防止啓発事業として11月の児童虐待防止推進月間には、市民まつりにてパネル展の開催、学童や放課後等デイサービス事業所、小学校、中学校など計11校へ「虐待対応・通告について」出前講座を実施しました。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	1668	2331	140 %								
					相談(電話・来所)件数です。					4	4	4	4	4	4	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)	
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている 相談・受け皿・経済支援の基本構造は適切と判断する。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である 特に問題がなく、担当課のオール4の高い評価のため順調と判断する。
施策名	IV-4 総合的な不登校対策	コメント	本施策は、不登校対策として必要な基本機能を適切に整備し、増加するニーズに対して着実に対応している点で高く評価できる。特に、相談支援の強化やフリースクール支援など、多様な選択肢を確保している点は良い。 一方で、施策全体としては「発生後対応に重点が置かれた構造」となっており、不登校の未然防止や初期段階での介入といった予防的アプローチが相対的に弱いと感じる。支援の質や成果を測る指標が明確でないため、予防の点も含めて適切な目標の見直しを検討されたい。

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	教育支援課	教育支援センター(えびりーぶ)	72_教育支援センター運営経費	不登校や学校生活に関すること、発達や障がいに関すること、就学に関すること等について、電話相談や来所相談を行います。また、小・中学校にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを派遣します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	年々保護者や児童生徒の相談数が増加しているため、相談員(臨床心理士)の増員と、作業療法士を配置し学校を巡回することで、支援体制の充実を図ります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
					年々高まる教育相談のニーズに対応するため、他職種との連携、研修会の充実、職員間の情報共有を積極的に行いました。また、小学校のスクールカウンセラーの派遣について、年間40回程度実施しました。											
2	教育支援課	不登校児童・生徒支援事業(びなるむ)	73_教育支援教室充実事業費	様々な理由で不登校状態にある小・中学生のための教室です。学校復帰や将来の社会的自立を目的とし、児童・生徒が安心して過ごす中で、人と関わる力や学ぼうとする意欲を高めることを支援します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	近年、小学生の不登校数も増加しているため、小学生の受け入れを拡充し、学びの保障と学校復帰への足掛かりとしたい。また、年々個別対応を要する通室生も増加しているため、指導員を増員し、児童生徒一人一人に対する細かなケアを行います。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
					小学生2名、中学生12名がびなるむに通室し、児童生徒の多様なニーズに対応するため、専門職や学校と連携しながら、個々の支援を実施しました。											
3	教育支援課	フリースクール授業料補助制度	72_教育支援センター運営経費	「海老名市フリースクール利用児童生徒支援補助金交付要綱」に基づき、海老名市立小中学校に在籍し、フリースクールに通う児童・生徒の保護者に対し、市の予算の範囲内で授業料の補助を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	特になし	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
					41名の申請者に対し補助金を交付し、児童生徒の多様な学習活動の場の確保と保護者負担経費の軽減を図りました。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	言語の壁は、手続きの誤り、医療現場での誤解、育児に対する不安、地域社会からの孤立を引き起こす最大の要因の一つであるため、本施策に紐づく各事業は外国人保護者の支援において重要な役割を担っていると考える。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	今後、外国人の転入者はますます増加することが予想される。このため、改めて数値目標を設定するなどして、本施策がより多くの外国人にとって実効的なものとなるよう、一層の充実と推進に努められたい。
施策名	IV－5 外国人世帯への支援の充実	コメント		
施策の説明	国際化の進展に伴い、海外から帰国、両親が国際結婚など外国にルーツがあるこども・若者の増加が見込まれます。言葉や文化の違いからくる問題に対して、不安や負担を感じることなく子育てに関する情報を正しく理解できるよう、通訳派遣や外国語版母子手帳の交付を進めます。			
		本施策は、多様化する子育て環境への的確な対応として、非常に意義のある取組と考える。国際化の流れの中で増加する外国にルーツを持つ子ども・若者とその保護者の状況を的確に捉え、言語・文化の壁が生み出す不安や情報格差に着目している点が評価できる。 また、「通訳派遣」と「外国語版母子手帳の交付」という具体的で実行可能な手段を示しており、単なる理念に留まらず、現場での実効性が期待できる。 さらに、保護者が正しい情報を得ることは、こどもの健やかな成長や安心できる子育て環境の基盤となるため、長期的に地域の多文化共生にもつながる施策と言える。 今後は、対応言語の種類を地域の実情に合わせて拡充することや、通訳の質・専門性(医療・福祉・教育などの分野別)を確保する体制づくり、母子手帳以外の各種案内や相談窓口の多言語対応を広げることで、より一層の効果がえられるよう努められたい。 また、翻訳機器の普及に伴い、通訳者の派遣件数は減少傾向にあると報告されているが、今後は状況に応じてオンライン通訳など多様な手段にも柔軟に対応できる体制の整備を図られたい。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	市民相談課	通訳派遣	7_国際化政策事業費	日本語の会話に困っている外国につながる方々のご家庭が安全・安心に生活できるよう、通訳派遣事業を推進します。	件	—	12	%	電子機器等の翻訳アプリの普及により、簡易なコミュニケーションは機械翻訳での対応が可能になり、通訳派遣の利用機会が減少していると考えられます。	4	3	4	4	4	3.8	現状継続
2	こども育成課	母子健康手帳の多か国語版	41_母子保健相談指導事業費	母子健康手帳は、妊娠の初期からこどもが小学校に入学するまでの一貫した健康記録になります。外国籍の方には、外国語版母子健康手帳(英語・スペイン語・タガログ語・ポルトガル語・中国語・タイ語・ハングル語・インドネシア語)を交付します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	各言語の母子手帳を妊婦さんに合わせて交付しています。今後も継続していきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	15	12	80 %	英語が10件、ベトナム語・インドネシア語が各1件の交付しました。	4	4	4	4	4	4	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要	
計画名	海老名市子ども計画
計画期間	令和7年4月～令和12年3月
施策名	IV－6 貧困対策の推進
施策の説明	子ども・若者の貧困は、経済的な困窮にとどまらず、学習面や生活面、心理面など様々な面において影響を及ぼします。全ての子ども・若者が幸せな状態で成長できるよう、健やかな成長に必要な生活環境や教育機会の確保を進めます。また、支援が必要な家庭が、孤立することなく適切な支援につながるよう、関係機関との連携に努めます。

外部評価(ABC評価)		
事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	本施策に紐づく各事業は、貧困対策の推進の実現に向けた重要な取組であり、こどもの教育機会の均等や生まれ育った環境による格差は正という市民ニーズや社会情勢を踏まえる必要性は高い。海老名市子ども計画において適正に配置されていると評価する。
施策の進捗・達成	A: 順調である	「スクールライフサポート」の実施や、「ライフ・スタディサポート事業」を通じて中学3年生の希望者全員が希望進路への進学を達成できたことなど一定の成果が認められる。
コメント	本施策は全ての子ども・若者が幸せな状態で健やかに成長できる環境確保に寄与する重要な取組であり、その成果を評価する。 今後は、単なる学習支援や窓口紹介にとどまらず、家庭全体の生活困窮や親の精神的孤立(ヤングケアラー問題等含む)を包括的にスクリーニングして早期介入する視点を踏まえながら、さらなる事業効果の質の向上と持続可能な事業運営に努めることが重要である。 進学後のドロップアウト防止など、利用者ニーズや社会環境の変化を踏まえ、高校生世代への切れ目のない支援も含めた事業内容の継続的な見直しを図りたい。 学習支援や経済支援がこどもの学習モチベーションや生活習慣改善に与えた影響を定量的・定性的に把握し、効果検証を進められたい。 学習支援で「中3の希望進路達成率100%」という具体的大成果は、現場職員やボランティアの熱意の賜物であり、最大限に賞賛・応援したい。今後は「プッシュ型支援(データ連携による先回り支援)」を導入し、貧困の連鎖を完全に断ち切る先進自治体の将来像を目指されたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	就学支援課	スクールライフサポート	・63.スクールライフサポート事業費(小学校) ・64.スクールライフサポート事業費(中学校)	経済的な理由で小・中学校の就学が困難な方に、学用品費や給食費など学校生活に必要な費用の一部を援助します。	人	1,000	958	96 %	スクールライフサポート制度について、児童生徒を通して保護者に申請書類を渡すとともに、市ホームページ、広報誌などに掲載しているが、それでもどこまで周知されているか疑問がある。	3	3	3	3	3	3	現状継続
2	学び支援課	ライフ・スタディサポート事業	79.ライフ・スタディサポート事業費	生活保護世帯、児童扶養手当受給世帯、就学援助受給世帯の中学生を対象とした学習支援をはじめ、日常的な学習習慣及び学習環境の改善支援等を行うことで、高校等への進学や社会的自立を促し、将来の貧困連鎖からの脱却を目指します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	生徒の状況に応じて個別に支援を行っているため、スタッフの確保が課題と感じています。 学習習慣の定着や生活リズムの改善などの効果があり、利用者のうち中学3年生は希望する全ての生徒が希望する進路へ進むことができました。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					%	100	100	100 %		4	4	4	4	4	4	現状継続
3	子育て相談課	こどもの貧困対策推進事業	必要経費なし	「こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律」の趣旨を踏まえ、こどもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、必要な環境整備や教育の機会均等など、こどもの貧困の解消に向けた施策を総合的に推進します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	引き続き県と連携し、問い合わせがあった際には必要な窓口の紹介ができるよう努めていきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%		3	3	3	3	3	3	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要	
計画名	海老名市こども計画
計画期間	令和7年4月～令和12年3月
施策名	IV－7 ヤングケアラーへの支援
施策の説明	ヤングケアラーの問題は、ケアが日常化することで学業や友人関係等に支障が出てしまうなど、個人の権利に重大な侵害が生じているにもかかわらず、本人や家族に自覚がない場合もあり、顕在化しづらいことが指摘されています。福祉・介護・医療・教育等の様々な分野が連携し、ヤングケアラーを早期発見するとともに、適切な支援につなげます。

外部評価(ABC評価)		
事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	ヤングケアラーについての認知度は近年でかなり浸透したと思われる。
施策の進捗・達成	A: 順調である	社会全体で見守っていくためにも、ヤングケアラーへの認知度が必要である。
コメント	ヤングケアラー問題については、対応連絡会の設置やホットライン、支援対応フローなど支援のための適切な体制が作られている。今後はヤングケアラーについての周知活動を通じて、子ども自身のもつ権利・人権について考える機会とし、海老名の子どもたちの健やかな心身の充実に結びつくことが望まれる。 「こどもの権利」についての調査では、まだ「聞いたことがある」が3割程度であり、内容の理解についてはまだまだ普及活動が必要である。子どもが自分自身のもつ権利について理解し、必要な時は家庭外へ助けを求められるような周知活動が今後も展開されることを期待する。 一方で、なかなか本人から家庭外へは相談しづらい問題であるため、行政だけではなく周辺の大人が適切に目を配り、支援が必要であれば適切な支援へと結びつけられる社会を作っていくことを期待する。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	子育て相談課	ヤングケアラーへの支援	23_要保護家庭生活支援事業費	福祉や介護、医療、教育等といった様々な分野が連携し、早期発見に努め、支援の充実を図ります。(ヤングケアラーの周知徹底、本人への支援体制強化等)				%	引き続き、「海老名市ヤングケアラーほっとLINE」や「海老名市ヤングケアラー支援対応ガイドライン」の周知活動を行っています。	4	4	4	4	4	4	現状継続
				元ヤングケアラーの相談員が相談対応する「海老名市ヤングケアラーほっとLINE」について、市内の小中学校や、市内より通学している生徒が多い高校に対して、周知活動を行いました。また、市内の小中学校に啓発チラシを配布、市民・関係機関向けにヤングケアラーを周知するイベントを行いました。海老名市ヤングケアラー支援対応ガイドラインに掲載している支援体制や相談窓口についても見直しています。												

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	地域で子育て世帯を支え、親が安心して家庭教育を行えるよう学びの場を提供するなど、子育て世代にとって極めて有効な施策であると評価する。本施策ではファミサポの活用など、体制が適切に配置・運用されていると評価できる。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	現時点で達成率は138%に達しており、目標を前倒しで達成している点は高く評価できる。
施策の説明	ワークショップでは、「もっとこどものことを知って みんなで子育てしよう!」「繋がり 見守る地域づくり」など、地域でこども・若者や子育て世帯をサポートすることが大切という意見が挙がりました。地域で子育て世帯を支えられるよう、ファミリー・サポート・センター事業を推進します。また、全ての親が安心して家庭教育を行うことができるよう、学びの場を提供します。 コメント ワークショップでの意見を起点として施策を展開することで、現場のニーズや地域の声を反映した取組であることが明確で、納得感が得られる。 「みんなで子育て」「地域で見守る」という理念に基づき、ファミリー・サポート・センター事業による相互援助と、親向けの学びの場提供という2つの柱を示しており、「支える側の体制」と「親自身の力を高める支援」の両面からアプローチしている点が評価できる。 また、子育て世帯の孤立を防ぎ、地域のつながりを強めることで、こどもの健やかな成長と親の安心感の両方につながる、長期的な視点を持った施策と言える。 本施策は、子育て世代からのニーズが高いことがうかがえるため、今後は目標値をさらに引き上げ、より多くの子育て世代のニーズに応えられるよう努められたい。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	子育て相談課	ファミリー・サポート・センター事業	22_子育て支援センター活動事業費	子育て支援を受けたい人(利用会員)と支援をしたい人(援助会員)が会員となって、育児を助け合う地域の支援体制を整備します。	件	2432	3364	138 %	子育て世代が多い地域においての援助会員を確保するために、育児世代の両方会員の増員に努める。	4	4	4	4	4	4	現状継続
					件数は活動件数です。											
2	学び支援課	家庭教育学級(小学校・中学校・幼稚園)	77_社会教育推進事業費	家庭教育は親や、これに準ずる人がこどもに行う教育です。親がこどもや社会への対応能力を高めることができるよう、家庭教育学級を開催します。また、こどもが家庭生活を通じて、自分や家族、社会への基本的な認識をもち、生きることに對する基本的な感覚や姿勢を身につけることができるよう支援します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	学校や幼稚園単位での開催が減少しているため市主催による家庭教育学級を開催していますが、興味やニーズが多様化しているため、多くの保護者が参加できるテーマ設定や開催方法について検討が必要です。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	130	138	106 %	令和7年度は市主催で、1回目はフルインクルーシブをテーマとした講演会、2回目は子どものインターネット利用をテーマに動画視聴方式で、家庭教育学級を開催しました。保護者からは、新たな学びの機会となった、とても参考になったなどの感想がありました。	3	3	3	3	3	3	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)	
計画名	海老名市子ども計画	事業の適正配置	B: 不要な事業がある パトロール事業が重複しており、削減や集約で効率化が図れる余地があると判断する。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である すべての事業が達成率100%であるため、高い実行力であると評価できる。
施策名	V-2 子ども・若者の安全確保の推進	コメント 事業の「安全・安心子どもパトロール」と「通学路安全パトロールの実施」について、事業所管課は異なっているが、事業内容は重複しているため、効率化が可能と思われる。 安全対策の多くが人的資源に依存しており、人材確保の困難性が将来的な持続性リスクとなっていることは明らかであるため、事業削減・集約を検討されたい。	
施策の説明	小・中学生アンケートで、どんな海老名市になってほしいかについて、「安全・安心なまち」という回答が最も高くなっており、子ども・若者が健やかに成長できる環境整備が求められます。登下校の安全対策、犯罪防止など様々な角度から、地域と連携した子ども・若者の安全確保を推進します。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	保育・幼稚園課	保育園等の安全監視員の配置	50.保育所施設維持管理経費	市内保育所の園児の安全確保のため、保育所職員と協力し、敷地内及びその周辺の安全監視を行います。施設内への不審者等の侵入防止を図るとともに、もしものときには、保育所職員と連携して、園児の避難誘導を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	市内における不審者情報が継続しており、園児の安全確保が課題となっています。引き続き、安全監視員の配置を行うとともに、警察や保育園と協力しながら、防犯体制の構築に努めてまいります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	1	1	100 %								
					各公立保育園に安全監視員1名を配置するとともに、保育園における防犯訓練等に参加し、現場との協力体制の構築に努めました。											
2	保育・幼稚園課	安全・安心子どもパトロール	51.保育所運営事業管理経費	園児の安全確保のため、市内認可保育園及び幼稚園等の巡回監視を行い、安全で安心な子育て環境の向上を図ります。不審者情報があった場合、現場に急行し周辺の警戒にあたります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	市内における不審者情報が継続しており、園児の安全確保が課題となっています。引き続き、パトロール車による巡回監視を実施し、不審者情報があった場合には、現場に急行して周辺の警戒にあたるなど、園児の安全確保に努めてまいります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					台	1	1	100 %								
					パトロール車による市内認可保育園及び幼稚園の巡回監視を行い、園児の安全確保に努めました。											
3	就学支援課	学校の安全監視員の配置	66.学校安全管理対策事業費	市内の各小学校へ安全監視員を配置することにより、校門を監視し不審者の侵入を抑止するとともに、敷地内を巡回し、子どもの安全確保に努めます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	地域によって、人材確保が難しい状況にある。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	39	39	100 %								
4	就学支援課	通学路安全パトロールの実施	66.学校安全管理対策事業費	市内小学生の登下校時にあわせて青色防犯パトロール(青バト)車でパトロールを実施します。青バト車3台で市内全域のパトロールを実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	自動車の運転という業務の性質上、内規で年齢制限を設けているが、毎年複数人が退職することになるため、良い人材を確保し続けるのが難しい状況である。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					台	3	3	100 %								

施策別 事業評価シート

計画の概要	
計画名	海老名市こども計画
計画期間	令和7年4月～令和12年3月
施策名	V－3 共働き・子育ての推進
施策の説明	共働き家庭が増加する中、夫婦が仕事や家事、育児を等しく役割分担する「共働き・子育て」が求められており、実現に向けては、職場の理解や地域のサポートが不可欠です。職場や地域を含めた子育て世帯を取り巻く社会全体で、こども・若者を「ともに育てる」意識の醸成や、男性の家事・地域活動への積極的な参加などを推進します。

外部評価(ABC評価)		
事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	本施策に紐づく各事業は、仕事と育児の両立支援の実現に向けた取組であり、市民ニーズに応える上で極めて重要なものとする。本施策においては、きめ細やかに適正に配置されていると評価する。
施策の進捗・達成	A: 順調である	両立支援事業における達成率は 66.7%であり、5年計画であることを踏まえると、事業の進捗状況は順調と判断できる。
コメント	共働き家庭の増加という社会の変化に対応し、「共働き・子育て」の実現を目指す方針は、家庭の負担を分散し、子育てしやすい環境を作る上で時宜にかなった取組と言える。特に、夫婦間の役割分担だけでなく、職場の理解や地域の支援、さらに社会全体でこどもたちを育てるという意識の転換を重視している点が重要である。 加えて、男性の家事・地域活動への参加を促すことで、固定的な性別役割観念を和らげ、家庭内の負担を均等にする効果も期待できる。 今後は、職場での柔軟な勤務制度の導入、地域の子育て支援拠点の充実や具体的な参加機会の情報提供など、意識改革に加えて実行面での環境整備を進めることで、より実効性のある施策にしていくことができるよう努められたい。さらに、周知活動を徹底するなど、目標の早期達成に向けて一層努められたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	市民相談課	仕事と育児の両立支援事業	6.男女共同参画推進事業費	子育て世帯の仕事と子育ての両立を支援するため、育児・介護休業制度等も含めた関係法制度等の広報・啓発、情報提供等を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	参加者が定員数に達するよう、市民のニーズにあった講座を開催し、できるだけ多くの方に参加していただけるように、周知方法や開催日時を工夫します。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	30	20	67 %		4	3	3	4	4	3.6	現状継続
					目標/計画値は定員数 実績値は参加者数											
2	市民相談課	男性の家事・地域活動への参加の促進	6.男女共同参画推進事業費	固定的な性別役割分担意識の変化を促すため、男性の家事や地域活動への参加を推奨する講座等を開催します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	参加者が定員数に達するよう、市民のニーズにあった講座を開催し、できるだけ多くの方に参加していただけるように、周知方法や開催日時を工夫します。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	140	51	36 %		4	3	3	4	4	3.6	現状継続
					目標/計画値は定員数 実績値は参加者数											
3	子育て相談課	男性の育児参加の促進	22_子育て支援センター活動事業費	男性の育児へのかかわりを深めるため、講座等への父親の参加を呼びかけ、啓発活動等を実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	母親の育児負担軽減に繋がるような父親参加型の事業計画の推進	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					%	44.0	46.6	106 %		4	4	4	4	4	4	現状継続
					父親が参加する事業における参加率です。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市こども計画	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	本施策は、海老名市における保育士不足への対応という観点から、極めて重要な取組であると考えます。将来的に本市の子育て環境を充実させる基盤ともなることから、高く評価できる。今後も計画に沿って継続的に推進されることを期待する。
計画期間	令和7年4月～令和12年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	実績が不明のため、成果の評価はできないが、施策の進捗・達成についてはおおむね順調であると評価する。今後も計画に沿って継続的に達成を目指して推進されることを期待する。
施策名	V-4 子育て人材の確保及び育成	コメント		
施策の説明	こども・若者や子育て世帯を切れ目なく支援し、安全な成長を見守るためには、適切な相談支援やサービス提供を行う人材の確保及び育成が求められます。学生に対して就職フェアで保育の仕事に関する情報提供を行うなど、児童福祉に興味・関心を持ってもらえるようアプローチします。また、保育現場等での担い手を確保するため、子育て支援員研修を行います。			
		本施策は、こども・若者や子育て世帯への支援の質と継続性を支える「人材」に着目し、確保から定着までを見据えた取組を示しており、持続可能な支援体制を構築する上で非常に重要かつ適切な内容と評価できる。また、「切れ目のない支援」と「安全な成長の見守り」を実現するため、人材の確保・育成を根本的な課題として位置づけており、施策の基盤を捉えた視点が高く評価できる。 将来の担い手となる学生層への情報提供・興味喚起と、現場で即戦力となる人材を養成する研修を並行し、長期的な裾野拡大と短期的な人材確保の両面からアプローチしている点は、効果的なものと考えます。 また、子育て支援員研修を実施することで、多様な経歴の人材が現場で活躍する道を開き、保育・福祉分野の担い手不足の緩和につながることが期待される。 さらに、児童福祉分野を志望する学生が減少している現状があるため、大学関係者等が小・中・高等学校を訪問し、生徒に対して保育士の仕事の魅力や社会的意義を正しく理解してもらうとともに、職業イメージの向上に資するレクチャーを実施されたい。		

計画に紐づく事業

所管課		事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	保育・幼稚園課	子育て支援員研修	50.保育所施設維持管理経費	保育現場等での担い手を確保するため、子育て支援の仕事(保育士の業務の補助等)に関心を持ち、条件を満たす対象者に対し、必要となる知識や技能等を習得するための研修を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	公立保育園においては、現在子育て支援員の募集を行っていませんが、民間保育園では一定のニーズがある状況です。民間保育園でのニーズも踏まえつつ、受講定員を調整するなど、適切に研修を実施してまいります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					—	—	—	— %		3	3	3	3	3	3	現状継続
2	保育・幼稚園課	合同就職フェア(幼稚園・保育所・小規模保育施設)	必要経費なし	保育士・幼稚園教諭の人材確保及び保育所又は幼稚園に就職を希望する学生や保育士資格・幼稚園教諭免許保有者に対して、保育の仕事や就職に関する情報提供を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	保育の質を高めていくためには、豊富な人材を確保しておくことが一助となります。説明会に参加される方が参加しやすい時間帯や会場とするなど、引き続き適切に事業を実施してまいります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					—	—	—	— %		4	4	4	4	4	4	現状継続

(2) 第4次海老名市 男女共同参画プラン

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	審議会での女性の登用は、それなりに効果を出している。 市の重要施策であり、審議会等における女性登用率の向上を目標として位置付けていることから、事業の配置は適正であると評価する。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	令和7年度の審議会等における女性登用率は26.0%であり、目標値30.0%に対する達成率は86.7%だった。よって、目標達成には至っておらず、また近年は割合が低下傾向にあることから、さらなる取組が必要である。
施策名	1-(1)-① 政策・方針決定過程への女性の積極的な参画	コメント		
施策の説明	市政等における方針決定過程において、女性の意思が公平に反映されるように、審議会等における女性の登用を推進します。			

計画に紐づく事業

1	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
	市民相談課	審議会等委員への女性の参画推進	6_男女共同参画推進事業費	男女の意見を政策形成の場へ反映させるため、審議会等の委員構成において、女性の登用を推進します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	女性登用率の目標値に向け、審議会等への働きかけが必要です。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					%	30	26	86.7 %		4	3	4	4	3	3.6	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	市内企業への啓発効果があり、男女共同参画施策として適正に配置されている。表彰を通じて民間事業者の自主的な取組を促進している。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	目標2件に対し実績が1件と下回っており、企業表彰の成果が市全体の女性参画向上へどの程度波及しているのか検証が必要である。 事業所表彰の実施が長く継続されているようであれば、少し内容に変化を付けられたい。
施策名	1-(2)-② 女性の活躍推進	コメント		
施策の説明	女性の参画は、既存の価値観等に変革をもたらすきっかけとなります。男女共同参画に取り組んでいる事業所の推進を通して、女性の活躍推進を図ります。			
		女性の能力を活用し、男女が共に働きやすい職場環境づくりをしていることは、いい取組である。 一方で、目標件数が2件に対して実績が1件と少なく、この目標達成に向けた活動が見えてこないことが課題である。 <提案> 女性が共に働きやすい職場環境づくりを積極的に進めている企業を表彰するとともに、どのように働きやすい環境ができていくのかの背景や、働きやすくてきた成功体験プロセスを発表するなど、他社でも真似して使えそうな内容をまとめて、成功事例として発表・共有することを検討されたい。		

計画に紐づく事業

1	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
	市民相談課	女性の活躍推進事業所の表彰	6_男女共同参画推進事業費	女性の能力を活用し、男女が共に働きやすい職場環境づくりを積極的に進めている事業所を表彰します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	市内事業所の女性活躍に対する優れた取組をしている事業所を選定し、表彰しました。今後も市内で女性が活躍している事業所の存在を多くの方に伝えていきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	2	1	50 %		4	4	4	3	3	3.6	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	男女共同参画社会の実現には、市民の理解促進と意識啓発が重要であり、講演会や研修会などの学習機会を提供する事業の配置は適正であると評価する。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	参加者数や参加層の拡大(若い人への拡大)、学習成果の定着状況については、さらなる検証が必要である。
施策名	1-(2)-③ 男女共同参画に関する意識啓発	コメント 今後は、参加者数の確保だけではなく、多様な市民が参加しやすい環境づくりと、学習成果が地域や職場での実践につながる仕組み作りが求められる。 <提案> ・講座や映画の開催実績だけではなく、受講後の意識変化や地域活動への参画状況など、事業効果を把握できる指標の導入も検討されたい。 ・女性が独立して働いているなどの事例(例えば女性として、スタートアップ企業を立ち上げて活動しているような人の講演等)から学ぶものがあると思われる。このような内容を参考にし、その講演内容や目的を伺い、KPIの見直しなどをしていくことを検討されたい。		
施策の説明	女性の参画は、既存の価値観等に変革をもたらすきっかけとなります。男女共同参画に関する情報提供などを通して、女性の活躍推進を図ります。			

計画に紐づく事業

1	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
	市民相談課	男女共同参画に関する学習機会の提供	6.男女共同参画推進事業費	男女共同参画についての学習機会として、講演会等を実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	高齢者の参加者が多く年齢層に偏りがあるため、若い方にも参加したいと思われるような事業を企画します。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	1	1	100 %		4	4	4	3	4	3.8	現状継続
					男女共同参画について考えるきっかけとして、映画の上映会を開催しました。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	男女共同参画社会の実現に向けて、主体的な行動力を育む「エンパワーメント講座」は、人材育成の観点から適正に配置されていると評価できる。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	講座の開催により「学習機会の提供」や「男性の参画」において一定の成果は見られるものの、今後は参加者をさらに増やすための複数回開催や内容の多様化といった工夫が求められる。 また、実際の活動や審議会委員への参画に繋がっているかを測るための中長期的な効果検証・追跡調査を行い、課題を洗い出して環境づくりに反映させるべきであり、これらを踏まえて施策の中身自体を変更していく可能性を検討されたい。
施策名	1-(3)-④ 男性の家事・地域活動への参画促進			
施策の説明	女性の社会進出を促進するためには、出産や育児などにおける男性の参画が必要です。男女が共にその能力を発揮して、様々な分野で活躍しやすい環境づくりを推進します。	コメント	講座を単なる学習機会で終わらず、料理教室に留まらない幅広い家事や地域活動への展開を図ることで、受講者が実際の地域活動や市政参画へと繋がっていくような仕組みづくりが求められる。 ＜提案＞ 今後の事業展開に向けて、若い世代が子どもと参加しやすいスマホゲームなどの企画手法を検討するとともに、男女差の構造的な教育に配慮し、作業分担における参画機会を明示しながら企画立案を進められたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	市民相談課	男性の家事・地域活動への参加の促進	6_男女共同参画推進事業費	男性の固定的な性別役割分担意識の変化を促すため、家事や地域活動への参加を推奨する講座やイベントを実施します。	回	1	1	100 %	参加者数が定員に達するよう、市民のニーズにあった講座を開催し、できるだけ多くの方に参加していただけるように、周知方法や開催日時を工夫します。	4	3	3	4	4	3.6	現状継続
2	健康推進課	男の料理教室	6_男女共同参画推進事業費 食育推進活動事業費	男性の固定的な性別役割分担意識の変化を促すため、家事や地域活動への参加を推奨する講座やイベントを実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	男性の固定的な性別役割分担意識の変化を促すためには、若い世代へのアプローチも必要。 参加者の多くは高齢世代であるため、若い世代にも参加しやすい企画の立案や募集方法の検討が課題。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	51	49	96.1 %								
					定員17人とする教室を3回実施しましたが、2回は定員に達しました。ほかの料理教室では女性の参加者が多い中、86%(44名)男性が参加、ご夫婦やご家族での参加がありました。					5	5	5	5	5	5	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	本施策・事業はアンケート結果から継続の必要性が高く、講座や情報提供を通じて男性の育児参加を促進することは、男女共同参画の推進や家庭内の負担軽減に繋がる重要な取組であり適正に配置されていると評価できる。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	計画している内容は順調であり、継続的な講座開催や情報提供を通じて「男性の育児参加の促進」や「意識醸成」の面で一定の成果が認められる。 一方で、今後は単なる学習機会の提供にとどまらず、実際の育児休業取得率などの成果指標について継続的な把握と検証を行う必要がある。また、実際の「行動変容」へと繋げる仕掛けづくりとして、少人数での意見交換やワークショップ、実践的な講座を取り入れる等のさらなる工夫を検討されたい。
施策名	1-(3)-⑤ 男性の育児への参画促進	コメント		
施策の説明	女性の社会進出を促進するためには、出産や育児などにおける男性の参画が必要です。男女が共にその能力を発揮して、様々な分野で活躍しやすい環境づくりを推進します。			
		男性の育児参画は性別役割分担意識の解消に寄与する重要施策であり、市民相談や健康増進、子育て相談と同等に扱うことも視野に入れつつ、今後は実際の「行動変容や定着」へ繋げる仕掛けづくりが求められる。 <提案> 父親の参加率だけでなく母親側からのフィードバックを評価に反映させること、少人数での対話会を通じて課題の自分事化を促すこと、そして父親同士の交流機会や相談体制の充実といった継続的な支援の仕組みづくりを検討されたい。		

計画に紐づく事業

1	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
	子育て相談課	男性の育児参加の促進	子育て支援センター活動事業費	男性の育児への関わりを深めるため、講座等への父親の参加を呼びかけ、啓発活動等を実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	母親の育児負担軽減に繋がるような父親参加型の事業計画の推進	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					%	44.0	46.6	106 %		4	4	4	4	4	4	現状継続
					父親が参加する事業における参加率です。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	女性が能力を発揮し、地域社会や職場において主体的に活躍できる環境づくりは、男女共同参画の重要な柱であり適正に配置されている。 市民への学習機会の提供をしている点で適正に配置されていると評価できる。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	計画内容は順調に推移しており、142名が参加した講座など、女性活躍に向けた意識啓発・機会提供には一定の成果が認められる。 しかし、直近の女性登用目標を下回っている現状を踏まえると、今後は単なる学習機会の提供や啓発にとどまらず、それらが実際の市政参画や意思決定の場へ十分に結びついているか厳しく効果を検証する必要がある。 今後は、実際の「行動変容が起こるための仕掛けづくり」として、実践的な取組を検討されたい。
施策名	2-(1)-⑥ 女性の人材育成			
施策の説明	女性自身の意識や能力を高め、社会のあらゆる分野で力を発揮し、職業生活などに生かすことができるよう取り組みます。	コメント	女性の能力開発やエンパワーメント推進に向けた継続的な取組や学習機会の提供は高く評価できる。 一方で、最終目標である実際の地域社会・市政参画や意思決定の場への登用(令和6年度は目標未達)に結びついているかを測定可能な指標で厳しく効果検証し、今後は単なる講座開催や参加者確保にとどまらず、課題を自分事化して実際の行動変容を促す具体的な仕掛けづくりや活躍の場の拡大に注力することが求められる。 ＜提案＞ 女性ならではの視点や意見を施策に反映できるよう、少人数で意見交換できる対話会等の開催を検討されたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	市民相談課	女性のエンパワメントの促進と人材育成	6.男女共同参画推進事業費	女性のエンパワメントが向上するように、講座や講演会等を実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	女性のエンパワメントという観点から、様々な世代が興味を持てるような講座内容を考える必要があります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	1	1	100 %								
					誰もが活躍できる男女共同参画社会を推進するため、6月7日にエンパワメント講座を開催しました。講座を開催しました。					3	3	3	4	4	3.4	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	ワーク・ライフ・バランスの推進は仕事と家庭の両立支援等に資する重要な取組であり、継続的な講座開催による啓発や機会提供は適正に配置されていると評価できる。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	継続的な講座開催による一定の成果は認められるものの、今後は単なる啓発に留まらず、地域全体で働き方を変えるエコシステム(※)づくりといった視点を取り入れた事業展開を検討されたい。 ※行政、企業、団体、住民などの地域の様々な主体が連携・協力し、それぞれの役割を果たしながら、働き方改革が地域全体に定着・発展していく仕組み。
施策名	2-(2)-⑦ ワーク・ライフ・バランスの啓発と促進	コメント		
施策の説明	女性自身の意識や能力を高め、社会のあらゆる分野で力を発揮し、職業生活などに生かすことができるよう取り組みます。			
		講座の開催を通じてワーク・ライフ・バランスへの理解促進や一定の成果が認められる。一方で、ライフステージに合わせたプログラムの検討や、好事例の紹介・対話会などの実践的な内容を通じてさらなる行動変容につなげることが期待される。 <提案> 今後は参加者数だけでなく、家庭生活や働き方の改善といった「事業成果を把握する視点」を取り入れることを検討されたい。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	1	1	100 %								
1	市民相談課	ワーク・ライフ・バランスの啓発	6_男女共同参画推進事業費	ワーク・ライフ・バランスの推進のため、講座や講演会等を実施します。	自分らしいワークライフバランスを実現する考え方を学べるよう、6月14日にワークライフバランス講座を開催しました。				ワーク・ライフ・バランスという観点から、様々な世代が興味を持てるような講座内容を考える必要があります。	3	3	3	4	4	3.4	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	C:さらに追加すべき事業がある	仕事と家庭の両立支援は、男女共同参画の推進に加え、子育て支援、介護支援、人材確保及び定住促進にも繋がる重要な施策である。 講座開催に加え、テレワーク・短時間勤務導入等の助成金支給や、表彰事業所好事例の展開など、企業の環境整備を後押しする取組についても検討されたい。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B:やや遅延している	講座を通じて仕事と家庭の両立に関する学習・情報提供の機会を継続し、参加者の満足度をモニタリングしている点は評価できるが、今後は労働講座の開催がどのように両立支援の推進や実際の行動変容(育児休業取得や家庭参画の促進など)につながったかという事業成果・効果を把握することが課題である。
施策名	2-(2)-⑧ 仕事と家庭の両立支援等の推進	コメント		
施策の説明	毎年、市民等を対象として労働に関する知識を身につけていただき、市民生活の安定につなげるため、講座を開催しております。			
		周辺自治体との比較による海老名市の現状評価や、講座開催によるこれまでの啓発活動の継続は重要である。 <提案> 今後は「労働」という言葉のイメージギャップや施策目的の違和感を解消し、アンケートや事後調査の活用による効果検証の精度を高めながら、企業の環境整備支援や実際の働き方・家庭内の役割分担の改善といった具体的な成果に繋がる事業展開を検討されたい。		

計画に紐づく事業

1	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
	商工課	労働講座の開催	53.労働対策管理経費	男女雇用機会均等法の周知徹底を図るとともに、男女ともに能力を発揮できるよう労働講座を開催します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	講座の内容については、好評を得られましたが、参加者からは「講座途中での質問を受付けてほしい」等、講座の構成面で意見をいただきました。 いただいた意見を参考に、より参加者に満足していただけるよう講座を企画します。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	60	76	127 %		4	4	4	4	4	4	現状継続
					(表は令和7年度参加者数) 講座の内容については、多くの方から好評を得ることができました。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	DV被害者への相談・一時保護・自立に向けた切れ目のない支援や、生活困窮者への相談・就労支援といった各事業の配置は、対象者の自立支援や保護において重要であり適正に配置されていると評価できる。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	DV被害者や生活困窮者への相談・自立支援といった事業配置は適正で体制も維持されていると評価される一方、多様化・複雑化するニーズに対応するための経済的支援の具体化や相談体制のさらなる充実が求められており、今後は男性の被害者支援を含めた社会状況の変化を踏まえた対応を進めるとともに、生活支援や家計改善支援については、支援後の成果や効果を継続的に把握検証されることを検討されたい。
施策名	3-(1)-⑨ DV被害者への支援			
施策の説明	DVは、重大な人権侵害であり、家庭内で行われるため同居する子どもにも重大な影響を及ぼします。 暴力に悩む女性などを支援するため、関係機関と連携して、相談・一時保護・自立に向けた切れ目のない支援の充実に取り組みます。	コメント	暴力に悩む女性への相談から自立に至る切れ目のない支援体制や各分野での相談・広報活動は評価できる。 ＜提案＞ 社会情勢の変化に伴い、DV被害や生活困窮等に関する相談内容は多様化・複雑化している。こうした現状を踏まえ、経済的支援に加え、長期的な心理的回復への支援やキャリア形成・自立支援、居場所づくり、行政手続きのデジタル化など、多様な支援策の充実を検討されたい。また関係機関との連携を一層強化し、被害者の安全確保と自立支援のさらなる充実を図られたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	市民相談課	DV被害者の総合対策の推進	5 DV・女性相談事業費	DV被害者を迅速かつ適切に支援するため、相談等を実施します。支援に係る市民等からの提案や苦情の申立に対し、適切に対応します。		-	-	%	今後も支援措置や相談対応、緊急一時保護など一連の支援の流れを切れ目なく展開する必要性があるため、関係機関との連携を図りながら、事業を継続していく必要があります。	4	5	3	2	4	3.6	現状継続
2	生活支援課	経済的な支援	24_生活困窮者自立支援事業費、 25_生活保護費支給事業費	経済的自立と生活意欲の助長を促すため、生活保護制度等の経済的支援の活用を図り困窮者を支援します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	DV被害者からの生活保護申請は毎年数件あるが、近年は女性だけでなく男性や高齢者への暴力も散見される。なお、世帯数の目標値を設定することは望ましくない。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					世帯	-	3	- %		3	3	3	3	3	3	現状継続
3	市民相談課	DV等に対する啓発活動の充実	9_人権意識啓発事業費	広報などを通して、DVに対する正しい認識を広め啓発に努めます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	DVに対する正しい知識について、より広く周知する必要があるため、引き続きリーフレットや広報等を利用して普及活動に努めます。またホームページの掲載内容を見直し、相談先を広く周知します。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	4	4	100 %		4	4	3	3	2	3.2	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	犯罪被害者やその家族が安全・安心に暮らせるよう、相談支援や制度の周知が適切に行われている。 また、暴力被害の未然防止に向け、若年層への意識啓発にも取り組んでいる。これらの点から、本施策は、市民が安心して暮らせる地域社会の実現に向け、必要な事業が十分に配置されていると評価する。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	犯罪被害者への相談支援や啓発活動を継続的に実施し、支援体制の整備や周知に取り組んでいる点は評価する。 一方で、本事業は利用者数のみでは成果を十分に把握しにくく、支援制度の認知度向上や関係機関との連携状況など、質的な側面も含めて評価する必要がある。
施策名	3-(1)-⑩ 犯罪被害者等に対する支援及び啓発	コメント 犯罪被害者やその家族は、事件による直接的な被害に加え、精神的・経済的負担や二次被害に直面することが多い。このため、犯罪被害者等への支援は行政が担うべき重要な役割であり、支援体制の維持や啓発活動を継続している点は評価する。今後も被害者に寄り添った支援を継続するとともに、二次被害防止や制度周知に向けた取組を一層推進されたい。 <提案> 市民への啓発活動を継続するとともに、警察や関係機関との連携を強化し、被害発生後の早期支援体制の充実を図られたい。 特に、 ・必要な人が相談につながっているか ・支援制度が十分に周知されているか ・関係機関との連携が機能しているか を中心に、事業の成果を評価することに取り組まれたい。		
施策の説明	JKビジネス問題等の性犯罪・性暴力被害に対する啓発等に取り組みます。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	市民相談課	若年層への啓発	6.男女共同参画推進事業費	若年層への暴力被害防止のため、広報等を通して、JKビジネス等に対する啓発などに努めます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	若年層への性暴力被害を未然に防ぐため、周知方法を工夫し、啓発を行う必要があります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	4	4	100 %		4	3	3	3	4	3.4	現状継続
					4月に、若年層に対する性暴力被害防止月間に合わせ、パネル展、広報への掲載、デジタルサイネージ、ホームページで啓発活動を行いました。											
2	市民相談課	犯罪被害者等への支援	8.市民相談事業費	犯罪被害者等に対して、安全・安心に暮らせるための支援などに取り組みます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	犯罪被害者支援について、より広く周知する必要があるため、犯罪被害者講演会の開催、リーフレットや広報等を利用した普及活動に努めます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					—	—	—	%		4	4	3	3	2	3.2	現状継続
					相談8件のうち、経済支援5件、法律相談1件の合計6件56万円の支援を行いました。											

施策別 事業評価シート

計画の概要	
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日
施策名	3-(2)-⑪ 性的マイノリティに対する支援
施策の説明	多様な性に関する啓発などを通して、性的マイノリティの方々に対する支援を行います。

外部評価(ABC評価)		
事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	本施策は、「多様な性に関する意識啓発」に加え、性的マイノリティへの直接的な支援にも取り組んでいることが、市民相談課へのヒアリングを通じて確認できた。これらの取組が併せて実施されている点から、本施策に必要な事業が十分に配置されていると評価する。
施策の進捗・達成	B: やや遅延している	市民向け講座や職員研修を通じて、性的マイノリティへの理解を深める啓発活動を継続している点は評価する。 一方で、性的マイノリティを直接支援する取組については、制度の周知や当事者が相談しやすい環境づくりが十分に進んでいるとはいえず、引き続き強化していく必要がある。
コメント	性的マイノリティへの理解を深める啓発活動を継続して実施している点は評価する。 海老名市では「はじめて学ぶジェンダー＆LGBT講座」などの学習機会も提供されており、市民の理解促進に寄与している。 一方で、性的マイノリティを直接支援する取組については、制度の周知や当事者が相談しやすい環境づくりが十分に進んでいるとはいえず、相談支援の充実に向けた取組をさらに検討されたい。 また、啓発事業の効果をより明確にするため、受講後の理解度や意識変化を把握し、事業改善につなげるよう取り組まれたい。 ＜提案＞ 理解促進と相談支援の両面から事業を推進するとともに、警察や関係機関との連携を強化し、被害や困難が生じた際の早期支援体制の充実を図られたい。 具体的には、相談窓口の設置・拡充、安全な居場所づくり、住まい・就労・学校など生活基盤の整備といった直接支援策及びその周知に取り組まれたい。	

計画に紐づく事業

所管課		事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	市民相談課	多様な性に関する意識啓発	9. 人権意識啓発事業費	多様な性を尊重する社会の実現のために、広報等を通して啓発します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する市民及び職員の理解を増進させるため、引き続き、啓発、研修を行っていく必要があります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	2	2	100 %								
					LGBTQについての知識と理解をえられるよう市民向け講座及び職員向け研修を行いました。				3	3	4	3	4	3.4	現状継続	

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	ひとり親家庭は、子育てと生計維持を一人で担うことが多く、経済的・時間的負担を抱えやすい。 本施策では、ひとり親家庭の自立に向けた経済的支援に加え、就業支援にも取り組んでおり、必要な支援事業が適切に配置されていると評価する。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	A: 順調である	経済的支援や相談支援を継続的に実施しており、子育て世帯の生活安定に著実に寄与している点を評価する。
施策名	3-(2)-⑫ ひとり親家庭に対する支援	コメント		
施策の説明	ひとり親家庭に対する経済的な支援など、各種支援に取り組みます。			
		本施策は、子どもの健全な成長と家庭の生活安定を支える重要な取り組みであり、継続的な支援体制を維持している点は評価する。 今後も、経済的支援に加えて自立支援や相談支援の充実を図り、家庭の状況に応じた支援を推進されたい。 <提案> 利用者の生活改善や自立につながった成果を把握し、事業のさらなる充実につなげられたい。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	国保医療課	ひとり親家庭の自立に向けた経済的支援	39.ひとり親家庭等医療費助成事業費	ひとり親家庭の自立支援のため、母(父)子等に対して福祉資金の貸付や家賃助成、医療費助成等様々な支援を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	現状維持	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	1,600	1,501	93.8 %								
					目標/計画値が予算要求ベースのため、達成率93.8%という結果ですが、ひとり親家庭に対し医療費助成事業の内容周知、申請案内を十分に行っており、対象者への支援は行き届いているものと考えます。											
2	こども育成課	ひとり親家庭の自立に向けた経済的支援	40.母子父子家庭支援事業費	ひとり親家庭の自立支援のため、母(父)子等に対して福祉資金の貸付や家賃助成、医療費助成等様々な支援を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	ホームページやパンフレット、相談時の案内を強化し、制度の周知を図る。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人			%								
					【計画値参考】 家賃助成受給者数：276人 母子父子寡婦福祉資金貸付人数：7人(令和6年度実績値) 【実績値】令和7年度実績 家賃助成受給者数:223人(達成率80%) 母子父子寡婦福祉資金貸付人数：11人(達成率157%)											
3	こども育成課	ひとり親家庭への就業支援	40.母子父子家庭支援事業費	母(父)子家庭を対象とした就業相談を行います。職業能力開発等の資格の取得にあたっては、受講料の一部支援や生活費の助成を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	制度の周知を強化し、就労を希望する方の後押しとなるよう引き続き相談業務を継続し、ひとり親家庭の自立支援を行う。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人			%								
					【計画値参考】 就労に関する相談業務：542件(令和6年度実績値) 【実績値】令和7年度実績 就労に関する相談業務：811件(達成率149%)											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)	
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりは、市の重要な責務である。当該施策は、高齢者や障がい者に対する支援として十分な事業が配置されていると評価する。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B: やや遅延している 高齢者の介護予防や、障がい者とその家族の支援を継続的に行っていることを評価する。高齢者については、障がいに対する支援同様、介護者(特に高齢介護者)に対する支援の取組も検討されたい。
施策名	3-(2)-⑬ 高齢者や障がいに対する支援	コメント 高齢者および障がい者への支援は、市民が安心して暮らせる地域社会の実現に不可欠な事業であり、継続的に取り組まれている点は評価する。 ＜提案＞ 高齢介護者が限界に達する前に支援につなぐため、老老介護世帯の早期把握・見守り、介護者の健康・メンタルケア、家事・外出支援など、介護者支援の充実にも取り組まされたい。 また、地域共生社会の実現に向け、生活支援にとどまらず、高齢者・障がい者・地域住民がつながる仕組みづくりや、多様な主体との連携強化を進められたい。	
施策の説明	高齢者に向けた健康講座、障がい者に対する福祉サービスの充実など、各種支援に取り組めます。		

計画に紐づく事業

所管課		事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	地域包括ケア推進課	高齢者向け健康講座の開催	26_一般介護予防事業費	65歳以上の高齢者の介護予防や健康維持・増進、仲間づくりを促進するための介護予防教室や健康講座を実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	参加実績に差がみられる教室も一部あったが、事業の目標値を達成している。さらに目標値を上回るよう、再編や見直しが必要である。また、コミセン等でのサロン開催を増やすなど、地域での活動機会の充実を図りたい。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	6,210	8,382	134.976 %		5	5	5	5	5	5	現状継続
					ピナスポ活用術は計画値を達成し、介護予防の機会確保につながった。また、こころとカラダの健康教室や脳イキイキ教室では、コミセン開催を継続し、身近な場所で参加しやすい環境づくりを進めた。教室の名称変更し、内容が伝わりやすいよう工夫した。 ※実績は、介護予防普及啓発事業の各種教室の参加者数です。											
2	障がい福祉課	障がい者と障がい者の家族の支援	30_地域生活支援事業費	移動支援や日中一時支援等、障がい者と障がい者の家族を支援する事業を「海老名市障がい者福祉計画」に基づき実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	事業の安定的な実施のため、国や県に補助率に応じた補助を要求していく必要があります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					円	93,110,000	88,588,574	95.144 %		4	5	4	4	3	4	現状継続
					令和7年度は日中一時支援事業延1488件71,271,936円、移動支援事業延1086件17,316,638円の給付を実施し、障がい者本人や家族支援の一助としました。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	包括的性教育は、性や生殖に関する知識だけではなく、人権、ジェンダー平等、相手を尊重する態度及び自己決定能力を育む取組である。本施策は、十分な事業が配置されていると評価する。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	A: 順調である	近年はSNS等による情報取得が容易になっている一方で、誤った知識や偏った情報に接する機会も増えていることから、行政による正確な情報提供の重要性は高まっている。継続して推進する必要がある。
施策名	3-(3)-⑭ 包括的性教育の推進			
施策の説明	学校教育において、性教育や性感染症に対する支援を実施します。	コメント	若年期から正しい知識を学ぶ機会を提供する意義は大きい。包括的性教育は男女共同参画施策の基盤となる取組であり、若年層への正しい知識の普及や人権意識の醸成に寄与しているものと評価する。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	就学支援課	性に関する指導・エイズ教育の実施	予算経費無	学校教育において、生命の創造、妊娠の経過、出産のしくみ等に関する正しい知識を適正に指導します。				%	今後も継続して生命の安全教育が行われていくよう、海老名市教育委員会が学校に対して推進を進めていく必要がある。また、教育委員会の人権担当(教育支援課・学び支援課)と連携し、学校での取組をしやすくしていく必要がある。	3	3	3	3	3	3	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	健康づくり支援及び母子保健相談指導事業は、市民の健康維持、疾病予防、子育て支援を推進するための基盤的な施策であり、ライフステージに応じた支援を行う施策として、事業が適正に配置されていると評価する。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	A: 順調である	健康検査・相談、母子保健相談指導等継続的に実施しており、市民の健康保持及び子育て支援に寄与している点を評価する。 乳幼児健診や相談支援など早期支援体制の維持は重要であり、継続的な取り組みが図られている。
施策名	3-(3)-⑮ 健康に対する支援			
施策の説明	各種健康診査や健康教室の開催等を通して、健康に対する支援を行います。	コメント	健康支援および母子保健相談指導事業は、市民の健康維持と安心して子育てできる環境づくりに不可欠な事業であり、継続的に実施されている点は評価する。 今後は、健康支援に加えて、孤立防止や子育て不安の軽減、心の健康支援など、包括的な支援の視点をより一層重視されたい。 ＜提案＞ 子育て世帯が必要な支援につながりやすいよう、相談体制の周知やオンライン相談の活用についても検討されたい。 また、孤立防止やメンタルヘルス支援を含めた包括的な支援体制の充実を進められたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	こども育成課	妊娠期からの継続支援の実施	41_母子保健相談指導事業費	妊娠健康診査や、健康相談を実施します。	件	12,362	11,176	90.4 %	昨今の物価高騰により健診費用の自己負担額が増えている現状です。自己負担額が減らせるように健診費用補助額の増額を検討していきます。	4	4	4	4	4	4	現状継続
2	こども育成課	新生児訪問指導等の実施	41_母子保健相談指導事業費	母子の健康保持のため、助産師や保健師による家庭訪問を行います。	人	2,595	2,197	84.7 %	出産病院からの養育支援連絡票や電話での情報提供があった場合に、担当助産師との連携が重要であると思います。	4	4	4	4	4	4	現状継続
3	健康推進課	各種健康診査の実施	21_生活習慣病検診事業費	男性特有の前立腺がん、女性特有の子宮がん・乳がん等の検診を実施し、早期発見につなげます。	人	—	—	— %	市の特徴として、働き世代が多く、受診率向上のためにはかかりつけ医からの促しや受診アクセス向上が必要と考えられる。	4	3	4	4	3	3.6	現状継続
4	健康推進課	健康教室の開催	19_健康増進指導事業費	男女ともに心身の健康が保たれるよう講座を開催します。	人	—	945	— %	参加者の多くは高齢世帯であるため、稼働年齢層の世代にも日頃の健康管理について興味関心をもってもらふこと。	5	5	5	5	5	5	現状継続
					開催数及び人数の内訳 ○平日:14回(市役所12回、258人 ビナウェル2回、60人 :合計318人) ○土日:23回(市役所0回、びなウェル23回、627人) 病態別の教室やビナウェルでのエクササイズの教室などを開催しました。 男女関係なく、たくさんの方々の市民の方々へ参加していただきました。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)	
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている 災害時には性別や年齢、生活環境等により必要となる支援が異なることから、防災分野における男女共同参画の推進は重要な施策である。女性視点を取り入れた防災対策や避難所運営の推進を図る本事業は適正に配置されている。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B: やや遅延している 女性の参画によって避難所運営や備蓄品整備等において、多様な視点を取り入れ意識付けが図られていることから一定の成果が認められる。一方で実際の地域防災活動への女性参画や、防災リーダー育成を図ることで、避難所設営時のトイレ問題など防災体制の向上を検討されたい。
施策名	3-(4)-⑩ 防災分野における男女共同参画の推進	コメント 本事業は防災体制に寄与する重要な取組であり、これまで、「防災分野における男女共同参画の推進」の第一歩として、「女性に参加する」といった視点で取組をここまで進めてきていることは評価する。 ＜提案＞ 女性の参加促進に加え、避難所運営や防災訓練において、多様な生活者の視点を反映する設計といった段階に取組を進められたい。 また、災害時の家事・育児・介護を見据え、男性の家庭ケア力向上や女性防災リーダーの育成など、平時からの地域防災力向上などの取組を事業として具体化する検討を行われたい。	
施策の説明	防災分野における男女共同参画の視点を取り入れることで、防災体制等の向上を図ります。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	危機管理課	防災分野への女性の参画	2.防災対策事業費	防災講演会等に男女共同参画の視点を盛り込み、実施します。	—	—	—	%	地域での防災活動は、自治会(自主防災組織)に担っていただいている。そのため、防災活動についても自治会の役員(大部分が男性)が活動されることが主であり、更なる女性の参加が課題であるが、今回の講演が参加者に女性参画の重要性について考えるきっかけとなっている。	4	3	5	4	4	4	現状継続
2	危機管理課	地域防災計画の見直し	2.防災対策事業費	避難所マニュアル等の作成において、男女共同参画の視点も盛り込みます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	上述のとおり、自主防災組織への女性参画が少ないため、女性の視点が相対的に少ない部分が課題であるが、市職員を必ず1名は女性を配置することで、女性目線を欠かさないよう対応している。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					—	—	—	%		4	3	4	4	4	3.8	現状継続
					市職員、自主防災組織、施設管理者で構成する避難所開設チームの打合せ会議の場で、マニュアルの内容を確認し、必要に応じて修正を行う。											
3	予防課	女性防火推進員の活躍支援	60.防火協力団体推進事業費	海老名市女性防火推進員の防火・防災に関する研修会や訓練等の事業を実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	自治会加入者の減少等により、なり手不足が課題となっています。また、多様化する社会において、女性に限定しなくてもよいのではないかと意見があります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	413	286	69 %		4	3	2	3	3	3	見直し(縮小)
					全推進員に向けた活動(7回/年)の参加人数となります。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	C:さらに追加すべき事業がある	本施策に紐づく各事業は継続してやり続けることはもちろん重要であるが、情報提供から市民同士が語り合う場づくりにも取り組む段階になっているのではないかと。 「施策の説明」の記載をもとに評価すれば「A:十分な事業が配置されている」と評価すべきだが、施策名に基づき設定KPI(性別役割分担意識の解消 30%)を達成するには、さらに追加すべき事業があると評価する。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B:やや遅延している	事業の実施によりパネル展など、講座参加が難しい層にも情報提供できる取組として意義がある。 一方で、啓発事業の成果については参加者数や展示実施にとどまらず、意識変化や理解促進効果の把握が課題である。情報提供のみでKPI目標(性別役割分担意識の解消 30%)達成は難しいと考え、継続的な改善や効果検証が求められる。
施策名	4-(1)-⑰ 男女共同参画社会の実現に向けた意識改革			
施策の説明	男女共同参画に関する認識を深め、広く知らせるために、情報紙の発行等を通して、周知いたします。	コメント	本施策は第2次、第3次、第4次海老名市男女共同参画プランを通じ、市民意識の改革に関する取組が、「男女共同参画社会」の周知から、「多様性の尊重」、さらに「アンコンシャス・バイアス」への気づきと行動変容の促進に段階的に発展してきたこと、また第4次計画において依然として残る固定的な「性別役割分担意識の解消」を成果指標として掲げ、その改善に取り組んでいることは評価したい。 ＜提案＞ 第4次計画の成果目標(性別役割分担意識の解消30%)の達成に向けては、情報発信や啓発活動だけでなく、市民一人ひとりの気づきや行動変容につながる取組の充実が必要であると考え。意識改革は、「知る(情報提供)」だけでなく、「気づく(対話・体験)」、「行動する(実践)」という段階を経て進むものであり、さらなる意識変容を促すためには、「気づき」や「行動」につながる機会の創出を検討されたい。 そのため、情報発信による啓発に加え、市民同士が価値観や経験を共有できる対話会や交流会など、気づきや行動変容を促す参加型の取組についても検討されたい。特に、「男性の育児参加」や「男性による介護」、「家事・育児の分担」等をテーマとした対話型プログラムは、固定的な性別役割分担意識の解消に向けた有効な手法の一つであり、より実効性の高い意識改革につなげられたい。	

計画に紐づく事業

所管課		事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	市民相談課	男女共同参画に関する情報の提供	6.男女共同参画推進事業費	男女共同参画に関する認識を深め、広く知らせるために、情報紙の発行やホームページ等により情報を提供します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	情報誌を発行するにあたっては、幅広い世代に興味を持ってもらえるようにしていく必要があります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	3	3	100 %								
					啓発活動として、男女共同参画週間パネル展を実施、また情報誌「はばたき」を発行しました。											
										3	3	3	3	4	3.2	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	本施策に紐づく各事業は、若年層への男女共同参画意識の醸成、固定的性別役割分担意識の解消、多様性を尊重する地域社会の形成につながる重要な取組である。フルインクルーシブをテーマとした講演会は多様性や共生社会への理解促進を図っている点は現代的課題に対応した事業として適正に配置されている。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	本施策は若年層に対して、男女共同参画に関する学習機会などを設けることで、固定的な性別役割分担意識等の解消に取り組む施策として一定の成果が認められる。一方で興味やニーズが多様化しているなか、家庭教育学級のテーマ設定など保護者が参加できるテーマ設定や開催方法についての課題も見受けられることから、継続的な改善や効果検証を検討されたい。
施策名	4-(2)-㊸ 若年層に向けた男女共同参画意識の意識改革			
施策の説明	若年層に対して、男女共同参画に関する学習機会などを設けることで、固定的な性別役割分担意識等の解消に向けて取り組みます。	コメント	家庭教育学級は、学校単独での開催が難しい中でも、市が主体となって継続し、保護者の学習機会を確保している点は評価できる。 ＜提案＞ 講演会だけではなく、親子参加型の体験プログラムやアンコンシャス・バイアスを学ぶ機会などを取り入れ、固定的な性別役割分担意識の解消につながる内容を充実されたい。 また、理工系分野で活躍する女性や保育・看護・介護分野で活躍する男性など、多様なロールモデルと交流する機会を設けることで、若年層の進路や生き方の選択肢を広げる取組を推進されたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	学び支援課	男女共同参画の視点に立った家庭教育の推進	77.社会教育推進事業費	保護者対象の家庭教育学級において男女共同参画の学習機会を設け、家庭における男女共同参画意識の向上を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	学校や幼稚園単位での開催が減少しているため、市主催による家庭教育学級を開催していますが、興味やニーズが多様化しているため、多くの保護者が参加できるテーマ設定や開催方法について検討が必要です。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	130	138	106.154 %		3	3	3	3	3	3	現状継続
					家庭教育学級のテーマとして、男女共同参画の講座を紹介しました。また、令和7年度は市主催で、1回目はフルインクルーシブをテーマとした講演会、2回目は子どものインターネット利用をテーマに動画視聴方式で、家庭教育学級を開催しました。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	学校等における基盤整備は、児童生徒が安全かつ安心して学べる環境を確保するために重要な事業であり、教育環境の充実に向けた取組として適正に配置されている。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	学校施設や教育環境の整備を継続的に実施し、児童生徒が学びやすい環境づくりに取り組んでいる点は評価できる。また、多様性への配慮や安心して過ごせる環境整備についても意識した取組が進められている。 一方で、児童生徒を取り巻く課題は多様化しており、ハード面だけではなく心理的安全性や相談支援体制の充実を図られたい。
施策名	4-(2)-⑬ 学校等における基盤整備	コメント		
施策の説明	こどもにとって、学校は単に学ぶだけの場ではなく、安全・安心に過ごしながら他者とのかわりの中で育つ、大切な居場所の一つです。一人一人の可能性を伸ばしていけるよう、多様性に対応した学びの機会を創出します。また、「誰ひとり取り残さない教育」を目指し、インクルーシブ教育を推進します。			
		学校等における基盤整備事業は、将来を担う子どもたちの学習環境及び成長を支える重要な取組であり、継続的な整備は評価できる。今後は施設整備に加え、多様性理解や安心して学べる環境作りの視点をさらに取り入れた施策展開が期待される。 <提案> バリアフリー化や相談体制整備、インクルーシブ教育やデジタル環境整備等、時代に応じた多様なニーズに対応した教育環境整備を進められたい。		

計画に紐づく事業

1	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
	教育支援課	男女平等の視点に基づいた生き方指導の充実	67_人権教育推進事業費	児童・生徒・教職員が固定的な性別役割分担意識にとらわれることなく、個性と適正に応じた将来の生き方について、学べるよう指導します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	昨年度は、体育館の工事等により、2校で実施を見送った。中学校と連携して、市内中学校6校で開催できるように計画をたてていきたい。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					-	-	-	%		4	4	4	4	4	4	現状継続
					市内中学校4校で性の多様性について講演会を行い、多くの生徒が講演に参加した。小学校1校で人権教育の発表校として、取組を発表した。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	安心して子どもを産み育てられる環境づくりに不可欠であり、少子化対策や男女共同参画の推進にも資する重要な施策である。保育サービス、相談支援、子育て支援事業等を総合的に実施している点から、事業は適正に配置されていると評価できる。
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日	施策の進捗・達成	A: 順調である	各種子育て支援サービスや相談事業を継続的に実施し、子育て家庭への支援体制を維持している点は評価できる。特に、子育て不安の軽減や孤立防止に向けた取組は重要であり、継続的な支援が図られている。
施策名	4-(3)-㊹ 子育てに関する福祉サービスの充実	コメント 子育てに関する福祉サービスの充実は、子どもの健全な成長と保護者の安心につながる重要な施策であり、継続的な取組は評価できる。 ＜提案＞ 経済的支援に加え、相談支援や地域とのつながりづくりなど包括的な支援体制を強化するとともに、関係機関や地域団体との連携、デジタルを活用した情報発信の充実を図り、多様化する子育てニーズに対応されたい。		
施策の説明	保育所の整備や、子育て支援サービスの拡充などを通して、育児に関する福祉サービスを充実します。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	保育・幼稚園課	保育所の整備等促進	48.民間保育所施設補助事業費	待機児童を解消するとともに、多様な保育ニーズに対応するため、保育所の整備等を「第3期海老名市子ども・子育て支援事業計画」に基づき実施します。	-	-	-	- %	全国的に人口減少や少子化が問題となっている中、本市においても就学前児童数は減少傾向となっておりますが、一方で共働き世帯が増えることで保育需要が増加している状況です。保育ニーズを見極めながら、適切に保育所の整備を行ってまいります。	4	4	4	4	4	4	現状継続
					「第3期海老名市子ども・子育て支援事業計画」に基づき海老名駅周辺において新規保育所の整備を実施しました。											
2	保育・幼稚園課	多様なニーズに対応した保育サービスの充実	49.私立幼稚園支援事業費、 47.民間保育所運営費補助事業費	保育ニーズの多様化に対応するため、休日保育、延長保育、病児・病後児保育、預かり保育を「第3期海老名市子ども・子育て支援事業計画」に基づき実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	各事業の実施については、保護者のニーズや施設の運営体制に影響されますが、事業を安定して運営できるよう引き続き支援を行ってまいります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					-	-	-	- %								
					「第3期海老名市子ども・子育て支援事業計画」に基づき休日保育、延長保育、病児・病後児保育、預かり保育等の事業を実施しました。					4	4	4	4	4	4	現状継続
3	子育て相談課	子育て支援センター事業の充実	22.子育て支援センター活動事業費	育児相談、育児情報を提供し、子育てサークルや地域子育て支援拠点事業を促進する子育て支援センター事業を実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	気軽に相談できる場所として、保護者のおかれている状況や環境について把握を行い、個々に適した支援へ繋げるとともに、寄り添いながら育児不安の軽減を図ります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	30,296	33,246	109.7 %								
					人数は来所者数です。					4	4	4	4	4	4	現状継続
4	子育て相談課	ファミリーサポートセンター事業の充実	22.子育て支援センター活動事業費	育児援助活動の調整や会員の研修、会員間の交流を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	子育て世代が多い地域においての援助会員を確保するために、育児世代の両方会員の増員に努める。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	2,432	3,364	138.3 %								
					件数は活動件数です。					4	4	4	4	4	4	現状継続
5	学び支援課	あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブの実施	75.子ども・学校支援事業費	小学校の体育館やグラウンド、余裕教室等を活用した遊びの場・学びの場を提供することで、放課後の活動支援・学習機会の提供を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	気軽に参加できる放課後の居場所として定着しており、児童の遊びや学びの場となっています。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	45,000	50,749	112.8 %								
					気軽に参加できる放課後の居場所として定着しており、児童の遊びや学びの場となっています。					4	4	4	4	4	4	現状継続
6	学び支援課	児童健全育成対策事業(学童保育)の充実	76.学童保育支援事業費	小学校区全てに設置された学童保育施設に対し、保育環境等の充実について支援を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	児童数の増加が見込まれる地域については、待機児童が発生しないよう状況に応じて学童保育クラブの新規開設の支援が必要と考えます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	2,150	2,321	108 %								
					事業者への運営補助金交付や必要な定員数の確保により、待機児童が発生することなく事業が実施できました。					4	4	4	4	4	4	現状継続
7	こども育成課	両親教室の実施	41.母子保健相談指導事業費	母子健康教育として妊娠・出産・育児について正しい知識の普及啓発を行い、初めて母親、父親になる人に対しても妊娠中の不安を軽減し、安全な出産・育児ができるように支援します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	年度後半は土曜日開催の1日目が午後のコースの予約者が少なく、午前コースの方が人気でした。参加状況も確認し、日時の設定を再検討していきます。教室に参加したからこそ得られる内容を継続、ブラッシュアップしたいと考えます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	576	738	128.1 %								
					夫婦共に参加される方が多くいました。満足度は平均9.6でした。					4	4	4	4	4	4	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要	
計画名	第4次海老名市男女共同参画プラン
計画期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日
施策名	4-(3)-㉔ 介護に関する福祉サービスの充実
施策の説明	介護保険等サービスを充実させることで、介護に係る福祉サービスの基盤整備を図ります。 なお、制度運営における国、県及び社会保険診療報酬支払基金、市の財源割合は以下のとおりとなっています。 国・県からの負担 5% 公費 20% 介護保険料 23% 利用者負担 52% 自己負担 12.5% 市立病院の負担 12.5%

外部評価(ABC評価)		
事業の適正配置	C:さらに追加すべき事業がある	本施策に紐づく各事業は介護サービスの充実を図る上で重要な取組であり評価できる。一方で「介護を担う側(介護者)」への支援や仕事と介護の両立支援、相談体制の充実など、新たなニーズに対応する取組の追加が求められる。
施策の進捗・達成	B:やや遅延している	本施策は着実に実施されているものの「介護を担う側(介護者)」への支援や情報提供、相談体制の充実など、介護者を支える取組としては十分とは言えず、課題(不足)も見受けられることから、施策全体としては進捗にやや遅れが見られ改善や効果検証を検討されたい。
コメント	「介護に関する福祉サービスの充実」に向けた取組は評価できる。 しかし、介護は依然として女性に負担が偏りやすい現状もあることから、介護サービスの充実は男女共同参画推進の観点からも重要であり評価できる。 <提案> 「介護を担う側(介護者)」の負担軽減や介護離職の防止、介護と仕事・生活の両立を支える視点を一層取り入れ「介護者支援」の制度化と周知、相談体制、情報提供の充実を図り、家事代行サービスの公的補助なども取り入れ、介護者が安心して介護を続けられる環境づくりを推進されたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点		担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率			妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	介護保険課	介護保険サービスの充実	29_居宅介護サービス給付費	「えびな高齢者プラン21」に基づき実施します。 (訪問介護) 要介護認定者の自宅にヘルパーが訪問して受けるサービスで、ホームヘルプサービスといわれるものです。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	高齢化に伴う介護保険サービス費の増加が見込まれる中、財源となる介護保険料の急激な増額を防ぐための将来推計を行い、適切な財政運営を図ります。また、利用者のニーズに対応できるよう、実情を把握するとともに、人材確保や事業所支援に努めます。		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	174,605	153,792	88.1 %	3か年の費用推計を行ったえびな高齢者プラン21【第9期】に基づき、介護保険サービスを提供し、進捗管理を行っています。		5	5	5	5	4	4.8	現状継続
2	介護保険課	介護保険サービスの充実	29_居宅介護サービス給付費	「えびな高齢者プラン21」に基づき実施します。 (通所介護) 要介護認定者が施設に通って受けるサービスで、デイサービスといわれるものです。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	高齢化に伴う介護保険サービス費の増加が見込まれる中、財源となる介護保険料の急激な増額を防ぐための将来推計を行い、適切な財政運営を図ります。また、利用者のニーズに対応できるよう、実情を把握するとともに、人材確保や事業所支援に努めます。		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	109,487	112,724	103 %	3か年の費用推計を行ったえびな高齢者プラン21【第9期】に基づき、介護保険サービスを提供し、進捗管理を行っています。		5	5	5	5	4	4.8	現状継続
3	介護保険課	介護保険サービスの充実	29_居宅介護サービス給付費	「えびな高齢者プラン21」に基づき実施します。 (短期入所生活介護) 要介護認定者が施設に短期入所をして受けるサービスで、ショートステイといわれるものです。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	高齢化に伴う介護保険サービス費の増加が見込まれる中、財源となる介護保険料の急激な増額を防ぐための将来推計を行い、適切な財政運営を図ります。また、利用者のニーズに対応できるよう、実情を把握するとともに、人材確保や事業所支援に努めます。		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					日	51,975	35,380	68.1 %	3か年の費用推計を行ったえびな高齢者プラン21【第9期】に基づき、介護保険サービスを提供し、進捗管理を行っています。		5	5	5	5	4	4.8	現状継続
4	介護保険課	介護保険サービスの充実	28_介護予防サービス給付費	「えびな高齢者プラン21」に基づき実施します。 (介護予防短期入所生活介護) 要支援認定者が施設に短期入所をして受けるサービスで、ショートステイといわれるものです。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	高齢化に伴う介護保険サービス費の増加が見込まれる中、財源となる介護保険料の急激な増額を防ぐための将来推計を行い、適切な財政運営を図ります。また、利用者のニーズに対応できるよう、実情を把握するとともに、人材確保や事業所支援に努めます。		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					日	700	336	48 %	3か年の費用推計を行ったえびな高齢者プラン21【第9期】に基づき、介護保険サービスを提供し、進捗管理を行っています。		5	5	5	5	4	4.8	現状継続

(3) 海老名市DX推進計画

施策別 事業評価シート

計画の概要	
計画名	海老名市DX推進計画
計画期間	令和6年6月～令和10年3月
施策名	01「市民サービス」のデジタル化
施策の説明	利用者目線に立ちながら、オンラインでできる手続きを拡充し、利便性が高く安心して利用できる市民サービスの実現を目指します。なお、施策に紐づく事業のうち、KPIが測定しやすい事業を本評価の対象としました。

外部評価(ABC評価)		
事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	行政手続のオンライン化、デジタル化や市民サービスの利便性向上を促進する上で重要な取組であり、DX推進計画において適正に配置されていると評価する。 市民サービスのデジタル化は、他市と比較しても遜色なく、また、市民へのサービスはできるところは十分にサービスされている。
施策の進捗・達成	B: やや遅延している	市民の視点から見たデジタル化は進んでいるが、そのインターフェイスが多くあり、統一性がユーザー側には見えない。 今後のデジタル化の推進に当たっては、方針を立てる段階から、誰もが使いやすいシステムとして、統一性を持ったシステム構築、デバイスの活用に努められたい。
コメント	本施策は、市民サービスの向上と行政事務の効率化に寄与している取組であり、その成果を評価する。 一方で、マイナンバーカードを保有しているだけでは十分な成果とはならず、市民が利便性を実感できる活用場面を増やしていくことが重要である。 「海老名市DX推進計画」の期間は4年間であり、現在、ちょうど折り返し地点にあたる。今後の推進で、当然のごとく、2040年問題(高齢化の波や人口減少問題)の解決策の一つとして、このDX計画を位置付けられることが、2040年問題の解決策につながるように戦略を示して実行されたい。 ＜提案＞ ・行政の人材不足や社会保障や公共サービスの低下などの危機に対して、この方針を明示し、今は欠けているデジタル課題を整理し、一歩でも、2040年問題の解決策につながるように展開されたい。 ・急速に進展するAI技術の活用などの取り込みを図るほか、RPAなど既存のデジタル技術についても活用範囲を拡大し、行政事務のさらなる効率化と市民サービスの向上につなげられたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部署評価						
1	デジタル推進課	行政手続きのオンライン化	3. デジタル推進事業費	行政手続は原則オンラインで行うことができるよう、既存のオンライン申請システムの利用を促進し、スマートフォンなどから24時間手続ができるオンライン申請を拡充する。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	行政手続のオンライン化を推進するにあたり、一部の手続きで優先順位付けや要件定義が難しいものがあります。また、職員が自走できるよう意識醸成を行うことやスキルの底上げが必須であると認識しています。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					%	50	40.7	81.4 %		4	5	4	3	4	4	見直し(拡大)
					目標/計画値:計画記載 実績値:令和7年度 対象手続き件数(年間申請数100以上)の総数117手続きのうち、全体申請件数400,634件、オンライン申請件数163,081件、オンライン申請率40.7%											
2	IT推進課	オープンデータの推進	必要経費無	公開するデータ量のさらなる拡大を推進するとともに、データ連携や活用における利便性向上のために機械判読性の高い形式によるデータの公開に取り組む。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	国が定めるデータ形式である「自治体標準オープンデータセット」で規定されているデータについては、利用者の利便性向上のため「自治体標準オープンデータセット」に合わせた形式への変換を進めます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					分野	100	131	131 %		3	3	4	3	3	3.2	現状継続
					令和8年4月1日時点公開情報											
3	窓口サービス課	マイナンバーカード利活用促進	個人番号関連事業費	・安全性を周知し、申請・交付体制の充実を図る。 ・本人確認機能を活用したオンライン申請を拡充する。 ・市民サービス向上につながるマイナンバーカード利活用を検討し、取得率向上を図る。 ・共通カードとして全市民が所有することで、マイナンバーカードを利用した公平・公正なサービスの提供を行う。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	マイナ保険証、免許証、マイナンバー方式によるeTAX、給付金における公金受取口座の利用、コンビニでの証明書交付サービスなど、生活の中で便利なサービスが拡充しています。 一方で、マイナンバーカードの保有や個人情報の漏洩に不安をお持ちの方が一定数おり、カード普及の課題となっています。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					%	100	83.6	83.6 %		5	4	4	4	5	4.4	現状継続
					目標/計画値:計画記載 MNC取得率100% 令和8年4月1日時点情報 MNC取得者 118,831人 市内人口 142,108人											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)	
計画名	海老名市DX推進計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている DX推進計画において、適正に配置されていると評価する。
計画期間	令和6年6月～令和10年3月	施策の進捗・達成	B: やや遅延している 国等の基幹システム等は、その実効性から活用度を上げていくことが必要だが、そこにはセキュリティの問題や課金の課題もあると聞いている。それらの活用において、ベストな方法を探すことも必要である。 情報システムの標準化・共通化に向けた取組が着実に進められるとともに、システム移行や運用体制の見直しは継続的な対応が求められる。 今後は、業務効率化や市民サービス向上への効果を検証し、改善を進められたい。
施策名	02「行政運営」のデジタル化	コメント	デジタル活用により行政の業務を効率化し、高度化する狙いで進めている本計画で、本施策の3事業は大変的を射ており、さらなる進化を果たしていただきたい。 中でも、デジタルマインドとデジタルリテラシー向上を進めなければ、成果に結びつくまでに時間がかかってしまう。やはり、eラーニング研修、OJT・OFF-JT活用等での実務推進の繰り返しが必要である。 昨年から急速に普及したAIは、自らの利用においては大変有効な道具の一つとなり、業務においても活用できると思うが、逆にこのAIを利用したサイバー攻撃や成りすましの対応には、これから十分な配慮が必要である。このAIの活用についての展開では悪用を防止すべく、活動も依頼する。 <提案> ・システムベンダーの選定の困難さや、システムの高価な構築費は、要求水準や仕様の内容に大きく左右されると言われている。そのため、まずBPR(業務改革)を推進し業務そのものを抜本的に見直した上で、システムに造詣が深い技術者の参画のもと、必要な機能を整理し、仕様の容易化を図ることで、システム構築費の低減に繋げられたい。 ・AIを利用したサイバー攻撃や成りすましの対応に十分配慮するとともに、AIの悪用防止に向けた取組についても推進されたい。
施策の説明	デジタルの活用により業務の効率化や高度化を図り、持続可能な行政運営を目指します。 なお、施策に紐づく事業のうち、代表的な事業を本評価の対象としました。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	IT推進課	情報システムの標準化・共通化	3. デジタル推進事業費	国が進める標準化・共通化の動きを注視しつつ、連携する内部事務系システムの導入・更新を含めて業務プロセスの見直しやAI・RPAなどを活用した業務改革BPRを進める	単位	目標/計画値	実績値	達成率	現行システムベンダーの人的リソース不足により、全20業務の標準仕様準拠は令和11年度を予定しています。また、システム移行費用が補助上限額を上回るほど高価となっている課題があります。そのため、システムベンダーの変更を含め移行方針を再検討し、システム事故を起こさないよう安全性を最重視しながら、より早期に安価で標準化を行う方法を検討します。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					%	100	10	10 %		4	3	3	3	2	3	見直し(継続)
2	デジタル推進課	職員のデジタルリテラシー(※)の向上 ※デジタルを正しく理解し活用する力	3. デジタル推進事業費	DX研修プログラム・ツール環境を充実化し、デジタルの理解と活用力の向上を図る。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	1度の研修に留まらず、スキルアップと知識の更新を図るために、継続的な学びを組織としていかに支援し、日々の業務に活かしていくかが今後の課題と認識しています。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					-	-	-	- %		4	4	3	3	4	3.6	現状継続
3	IT推進課	セキュリティ対策の徹底	3. デジタル推進事業費	国が示す対策に応じてセキュリティポリシーを見直すとともに、職員の情報セキュリティ研修や内部監査、CSIRT対応、初動対応訓練などの対策を継続して実施する	単位	目標/計画値	実績値	達成率	「三層の対策」やウィルス対策、EDRなどのセキュリティ対策を行っていますが、高性能AIを悪用したサイバー攻撃などの今までにないリスクが増大しています。そのため、リスクとセキュリティのバランスを取りながら、利便性を向上させる手法を検討する必要があります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					-	-	-	- %		4	4	3	3	3	3.4	見直し(継続)

施策別事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市DX推進計画	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	今の状況を見れば、DX推進計画として、多方面に広げて推進している点で評価する。 特に、高齢化の進展や災害リスクへの対応、多様な移動ニーズへの対応等は、社会情勢を踏まえた重要な施策である。
計画期間	令和6年6月～令和10年3月	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	デジタル技術を活用した防災情報の発信や地域活動支援、移動支援に向けた取組が進められており、地域社会のデジタル化に向けた基盤整備は着実に進展している。一方で、市民への浸透度や利用状況については、さらなる向上を目指していただきたい。 また、何でもデジタル化するのは良いが、その対象に合ったデジタル機器、ソフトウェアを入れる必要があり、またそれぞれのバージョンアップやソフトウェアの入れ替え等、ユーザー側の対応費用が掛かりだすことも十分に考慮されたい。
施策名	03「地域社会」のデジタル化	コメント		
施策の説明	すべての市民がデジタル化の恩恵を享受できる、便利で豊かな暮らしを実現します。誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を目指します。なお、施策に紐づく事業のうち、KPIが測定しやすい事業を本評価の対象としました。			
		本施策は、市民の安全・安心の確保や地域コミュニティの活性化、利便性の向上に寄与する重要なものであると評価する。特にデジタル技術は、行政と市民をつなぐ有効な情報伝達手段となり、地域課題の解決に向けた活用が期待される。 デジタルデバイドでは、情報技術を利用する能力及びアクセスする機会を持たない人のサポートをどうするのかと、別の手段を利用できる高齢者については、対象の拡大には限界があり、さらなる利用は見込みにくい視点から、その対応としては、従来どおりの方法(文書の発行、紙回覧版等)にならざるを得ないと思われる。 地域活動では、一度「いちのいち」等を導入したが、現在は自治会によって異なるツールを利用しており、中途半端な検証となっているように思われる。導入時に検証項目(使用者、行政、システムベンダーを含む)を決めたり、システムベンダーとの改善項目を明示したり、導入に際する達成状況をそれぞれで確認したりすることが、このようなシステム導入には必要である。 <提案> ICT(情報通信技術)技術の発展にともなうシステムは、それぞれの特性を踏まえ、何をターゲットにして活用するかを明示して、トライアルや試験導入、実証実験を行い、目的の達成状況を比較検証し、その中から、本市に最適なシステムの導入に繋がらねたい。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	デジタル推進課	デジタルデバイド(※)対策	3.デジタル推進事業費	「スマホ教室」の定期開催を行う。	回	16	16	100 %	多様なデジタルリテラシーを持つ参加者一人ひとりに寄り添い、画一的な指導が難しい点が課題の1つであると認識しています。また、将来的には、従来のデジタルデバイド対策の必要性は、薄れていくものと捉えています。	4	4	3	4	2	3.4	現状継続
					目標/計画値及び実績値: 令和7年度											

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
2	危機管理課	デジタル防災	2.防災対策事業費	・LINEなど、SNSを活用し防災意識を醸成する。 ・情報収集・発信や避難所運営など、デジタル技術を活用した災害対策基盤の構築を検討する。 ・避難所や救護活動拠点への情報提供に当たり、不特定多数の人が情報を得やすいインターネットなどの活用を図る。 ・避難所開設・運営訓練などを通じて、避難所運営のデジタル化に関する実証実験を実施する。 ・データに基づく誰もが利用できる防災・減災におけるデジタル化を研究する。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	入退所管理にデジタル要素を取り入れることについては、有益である一方、以下の課題があると認識しています。 ①ICTは常に新しいものが生み出されるため、費用対効果や職員側・利用者(避難者)側それぞれの使いやすさなど、他市の事例も含めて研究をしていく必要がある。 ②市域をまたがる避難も多く行われる中で、県が共通の入退所管理システム導入に向けて検討をしているため、その結果を受けて対応方針を決定する必要がある。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					—	—	—	%								
					避難所運営訓練に参加できない方にも、気軽に防災訓練を体験してもらえるよう、LINEで「デジタル防災訓練」(地震編・風水害編)を用意し、広報えびなやイベント出向時等で訓練参加を呼びかけました。 また、災害発生時や防災に関する情報について、防災ホームページのほか、LINEやエックスを利用し、適時デジタルを活用した周知を行いました。 これらのデジタル技術の活用により、市民の防災意識の向上に寄与しました。 その他、避難所運営、特に入退所管理にデジタル要素を取り入れることの検討を行いました。					3	3	5	4	4	3.8	見直し(継続)
3	地域づくり課	地域活動	地域活動推進事業費	・地域活動における情報共有や情報発信をデジタル化し、コミュニケーションを拡充する。 ・地域の催しなどの情報を市内外に広く発信・アピールすることで、地域のにぎわいを創出する。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	令和5年から実証実験を行ってきた小田急アプリ「いちのいち」が、令和7年6月にシステム改修を行った際、システムトラブルのため登録会員の移行がスムーズに実施されず、会員数が158人(R7.6.9時点)へ激減した(システム改修前登録者数1862人)。令和8年度、小田急と海老名市の契約は締結しないが、電子回覧等のアプリを使用する自治会および会員数を増やすという課題に対して、他アプリの情報提供や試行も含め策を打っていく。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					団体数	60	26	43.3 %								
					目標/計画値及び実績値:令和7年度各年度計画数 R6/20 R7/25 R8/35 ※全自治会数/60					3	2	2	2	3	2.4	見直し(拡大)
4	福祉政策課	誰にでもやさしい移動支援の実現	18-2.高齢者外出支援事業費	・新たな市の移動支援として、地域公共交通であるコミュニティバスと福祉的な移動支援であるぬくもり号・さくら号を再編・統合し、YouBusとして段階的な実証運行を実施する。 ・高齢者の多様化するニーズに対応するため、福祉的な移動支援を軸に、AIを活用したデマンド型による乗合交通を実施する。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	えび〜くるについては、平日朝の時間帯に予約が集中する傾向にあり、その時間帯での予約の不成立が発生しているため、本格運行に向けて運行内容の見直しを検討していく。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人		16,148	%								
					えび〜くる(デマンド型高齢者等外出支援事業(実証実験))について、利用登録者や利用者は順調に増加しており、高齢者等の外出に貢献している。 (表はR7年度利用人数)					4	4	3	4	3	3.6	見直し(継続)

※ パソコンやインターネットなどの情報技術を利用する能力及びアクセスする機会を持つ人と持たない人との間に情報格差が生じる問題のこと

(4) 海老名市スポーツ推進計画

施策別 事業評価シート

計画の概要	
計画名	海老名市スポーツ推進計画
策定期間	R6～R11年度
施策名	1-1 スポーツ活動機会の充実
施策の説明	ライフスタイルの違いや、年齢、性別、障がいの有無等を問わず、誰もが楽しく、生涯にわたってスポーツに親しめる機会の充実に図ります。 本施策では、スポーツ活動機会の充実に図ります。

外部評価(ABC評価)		
事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	本施策に紐づく各事業はスポーツ推進計画の各施策を効果的に展開するための基盤となるものであり、適正に配置されていると評価する。
施策の進捗・達成	A: 順調である	事業の実施により、駅伝大会やスポレクフェスタ等を通じた市民参加機会の拡大など一定の成果が認められる。一方で、来場者増加に伴う交通混雑や、参加後の継続的な運動習慣への接続不足といった課題も見受けられることから、継続的な改善や効果検証が求められる。
コメント	本施策は、市民の健康増進および地域コミュニティ形成に寄与する重要な取組であり、その成果を評価する。今後は、参加型イベントを「きっかけ」ととどめず、地域スポーツ団体・日常運動への接続強化や自治会等の地域との連携にも期待したい。 <提案> ・利用者ニーズや社会環境の変化を踏まえ、イベント運営の安全性や快適性向上について継続的な見直しを図りたい。 ・満足度・継続率等の効果検証を進められたい。 ・地域団体や学校との連携強化により、運動習慣化への導線設計を検討されたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	文化スポーツ課	駅伝競走大会の開催	12.スポーツ振興推進事業費	毎年1月に開催する駅伝競走大会で、コースは海老名運動公園をスタート・ゴールとして、グリーンラインをコースの一部としています。また、小学生を対象として陸上競技場トラックで「えびなっ子駅伝」も同時開催します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	運営方法について、参加者及び協力団体からコースの安全性や駐車場の混雑について意見が寄せられていることから、見直しを図りつつ、参加者の満足度向上に向けて取り組んでいく。	妥当性	5	4	4	5	4.4	見直し(継続)
					回	120	163	136 %								
2	文化スポーツ課	えびな玉入れ選手権大会の開催	12.スポーツ振興推進事業費	スポーツ推進委員が中心となり、子どもから高齢者まで、誰でも気軽にスポーツに取り組めるよう、海老名ルールの玉入れ選手権大会を実施します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	参加チームの増加に伴う運営時間と会場の調整が難航している。より良い運営に向けて、実行委員会とともに検討を重ねる。	妥当性	5	4	4	5	4.4	見直し(継続)
					チーム	160	174	109 %								
3	文化スポーツ課	えびな健康マラソン大会の開催	12.スポーツ振興推進事業費	12月に開催する大会であり、毎年約2,000人の参加があるマラソン大会です。初心者・経験者を問わず、年齢・体力に応じて1km～10kmのコースが選べるようになっており、健康・体力づくりを目的にしています。令和4年度から、愛犬と一緒に走る愛犬部門も設けています。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	令和7年度から会場・コース等を変更したことで様々な課題が浮き彫りになったが、参加者の満足度を高められるように努めていく。	妥当性	5	4	4	5	4.4	見直し(継続)
					人	1,750	1,685	96.3 %								
4	文化スポーツ課	EBINAスポレクフェスタの開催	12.スポーツ振興推進事業費	毎年、スポーツの日に合わせて運動公園を会場として開催しています。スポーツ協会、スポーツ推進委員協議会、指定管理者の協力を得て、未就学児及び小学生を対象とした、運動能力測定会やニュースポーツも含めて様々なスポーツを体験できるブースを設けているイベントです。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	えびな玉入れ選手権大会と同日開催となるため、来場者の増加に伴い、公道での渋滞が発生している。来場方法の周知等含め、渋滞緩和について検討していく。	妥当性	5	4	4	4	4	見直し(継続)
					人	3,800	4,721	124 %								

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市スポーツ推進計画	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	本施策に紐づく各事業は、子どもが多様なスポーツに触れ、健全な成長と体力向上を図る環境の実現に向けた重要な取組であり、教育環境や地域ニーズを踏まえると必要性は高い。適正に事業が配置されていると評価する。
策定期間	R6～R11年度	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	事業の実施により、スポーツ体験会や部活動支援など、子どものスポーツ機会の確保に一定の成果が認められる。一方で、体験後の継続参加率の把握不足や、指導者不足による持続性への課題が見受けられることから、継続的な改善や効果検証が求められる。
施策の説明	ライフスタイルの違いや、年齢、性別、障がいの有無等を問わず、誰もが楽しく、生涯にわたってスポーツに親しめる機会の充実を図ります。 本施策では、子どものスポーツ活動の推進を図ります。			
		コメント	地域ごとの子どもの人口規模や指導者配置の状況によって、スポーツ機会に差が生じないよう地域のバランスを考慮した事業運営や人材確保の取組を進めることが望まれる。 <提案> ・学校、地域、スポーツ団体の連携を強化し、地域全体で子どもを支える体制づくりを検討されたい。 ・部活動地域移行を見据えた中長期的な人材(部活動の指導者等)確保策を進められたい。 ・子どもと保護者の声の状況を踏まえた施策展開に向けて、ニーズの検証方法等を検討されたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	文化スポーツ課	スポーツ体験会の開催	12.スポーツ振興推進事業費	スポーツ協会少年少女スポーツクラブ加盟団体によるスポーツ体験会を実施し、子どもたちのスポーツに触れる機会の創出を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	種目団体による個別の体験会について、実施率が低い傾向にあるため、今後に向けてスポーツ協会と改善策等を検討していく。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	1	1	100 %								
					種目団体合同のこどもスポーツチャレンジdayを開催し、約1,300人が参加した。											
2	文化スポーツ課	市内小学生への屋内プール無料配布	12.スポーツ振興推進事業費	児童の体力づくりと遊泳中の安全確保を目的に、屋内プールを小学生に無料開放するため、一人当たり年間20枚の無料券を交付しています。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	利用人数が減少傾向であることから、事業継続の是非を含め、今後の実施方法等を検討していく。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	10,000	12,062	121 %								
					令和7年度から市民のニーズを把握するために、試行的に対象を中学生にも拡大して実施。(小学生18枚・中学生2枚)											
3	文化スポーツ課	運動能力測定の実施	12.スポーツ振興推進事業費	未就学児・小学生を対象として、運動能力を測定し、自己の記録への関心、意欲の向上を図りスポーツをする機会の創出を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	EBINAスポレクフェスタ内での実施となるため、同日開催の「えびな玉入れ選手権大会」との兼ね合いで運営時間が縮小される等の課題がある。引き続き運営方法等の見直しを検討する。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人	300	300	100 %								
4	教育支援課	部活動等の充実	74.部活動充実事業費	部活動指導者の派遣や、スポーツ施設の活用などを通じて、中学校の部活動活性化を推進します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	教職員の部活動顧問のなり手不足が課題となっているため、部活動指導員及び活動場所の確保により、生徒の活動を保障するとともに、教職員の負担軽減を図ります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
					専門的な部活動指導員の配置により、生徒の技術向上と活動機会の確保を実現するとともに、教職員の負担軽減を図ることができました。具体的な取組として、女子バレーボール部(市内5校)の合同活動を実施し、充実した活動となりました。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市スポーツ推進計画	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	高齢者の生きがいづくりとしてのスポーツ推進は健康維持などの観点から必要性は非常に高く、適正に事業が配置されていると評価する。
策定期間	R6～R11年度	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	各種スポーツ教室や健康づくり事業、レクリエーション活動などを通じて、高齢者をはじめとした誰もがスポーツに親しむ機会の提供が図られていることは評価できる。一方で、参加者の固定化や未参加層へのアプローチなどの課題も考えられることから、より多くの高齢者が参加しやすい環境づくりが求められる。
施策名	1-3 高齢者のスポーツ活動の推進	コメント 高齢者のスポーツ活動は、健康維持や介護予防だけではなく、地域とのつながりや生きがいづくりに大きく寄与するものであり、継続的な取組を評価する。 < 提案 > ・デジタルとアナログ双方を活用した情報発信の工夫を検討されたい。 ・ゆめクラブの高齢化が進んでいることから、情報発信等による若い世代の加入促進・周知に努めるとともに、組織の担い手のあり方(若いうちに役員を担ってもらう等)についても検討を進められたい。		
施策の説明	ライフスタイルの違いや、年齢、性別、障がいの有無等を問わず、誰もが楽しく、生涯にわたってスポーツに親しめる機会の充実を図ります。 本施策では、高齢者のスポーツ活動の推進を図ります。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	地域包括ケア推進課	高齢者向けスポーツの推進	27_高齢者生きがいづくり事業費	高齢者団体と連携し、グラウンドゴルフやニュースポーツなど高齢者が取り組みやすいスポーツメニューの提供を通じて、高齢者のスポーツ活動の支援・充実を図ります。	人	365	352	96.4 %	計画した数値には届きませんでした。ゆめクラブ会員の高齢化、および会員数の減少も影響していると思われます。60代70代の新規加入を獲得できるよう協力します。	4	4	4	4	4	4	現状継続
2	地域包括ケア推進課	高齢者スポーツ施設利用促進	27_高齢者生きがいづくり事業費	高齢者の体力低下防止と健康の維持・増進を図ることを目的として、65歳以上の方を対象「元気65」に、プール利用料やトレーニング機器利用料の助成を行います。	人	5,900	5,412	91.7 %	計画した数値には届きませんでした。今後については、利用者の利便性の向上や広報について検討します。「元気65」として65歳以上の方が半額で利用できる制度を今後も継続します。	4	4	4	4	4	4	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市スポーツ推進計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	障がい者の有無に関わらずスポーツ参加の機会を確保し、共生社会の実現を図る重要な取組であり、社会的要請を踏まえる必要性は高く、適正に事業が配置されていると評価できる。
策定期間	R6～R11年度	施策の進捗・達成	A: 順調である	障がい者スポーツに親しむ機会の提供や関係団体との連携により、障がい者の活動の場の拡大と交流の機会が増えていることを評価する。
施策名	1-4 障がい者のスポーツ活動の推進	コメント		
施策の説明	ライフスタイルの違いや、年齢、性別、障がいの有無等を問わず、誰もが楽しく、生涯にわたってスポーツに親しめる機会の充実を図ります。 本施策では、障がい者のスポーツ活動の推進を図ります。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	障がい福祉課	バラスポーツイベントの開催	30_地域生活支援事業費	障がい者の方が参加しやすいよう、バラスポーツイベントを開催します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	多くの方が参加し、バラスポーツ普及や交流の場となっています。今後はさらに内容を充実させ、スポーツを気軽に楽しめる場づくりを推進していきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	1	1	100 %		4	4	3	4	3	3.6	現状継続
				海老名運動公園総合体育館で海老名市障がい者スポーツフェスティバルを市の障がい者団体連合会に委託して実施しました。												
2	障がい福祉課	障がい者スポーツ大会への参加支援	30_地域生活支援事業費	障がい者によるスポーツ大会等への参加を支援し、活動の場の拡大と障がい者の交流を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	選手のエントリーや参加資格等により派遣回数が増減することがありますが、活動の場の拡大と障がい者の交流の一助となっています。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	6	2	33.3 %		4	5	4	4	4	4.2	現状継続
				神奈川県障害者スポーツ大会及び全国スポーツ大会に参加する際のバスを借上げ、参加の支援を行いました。												

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市スポーツ推進計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	スポーツ施設の充実、市民の安全かつ快適にスポーツ活動を行うための基盤となるもので、競技スポーツや地域スポーツ活動の振興にも寄与することから、スポーツ推進計画において適正に配置されていると評価する。
策定期間	R6～R11年度	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	事業の実施により、施設の維持管理や整備検討など一定の成果が認められる。一方で、河原口高水敷スポーツ・コミュニティ広場整備事業の遅れや予約システムの利便性の課題などが見受けられることから、事業の促進や継続的な改善等が求められる。
施策名	2-1 スポーツ施設の充実	本施策は市民のスポーツ活動基盤を支える重要なものであり、積極的な取組を評価する。 < 提案 > ・予約システムの利便性向上とデジタル弱者への配慮 (LINE で簡単に予約できるようにする等) を進められたい。 ・スポーツ施設の予約や利用手続きのデジタル化を進められたい。		
施策の説明	スポーツ・レクリエーション施設の充実を図り、スポーツ活動を支える人材の育成と活用を図るとともに、地域のスポーツ・レクリエーション活動を行う個人・団体への支援を行います。本施策では、スポーツ施設の充実を図ります。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	文化スポーツ課	スポーツ施設の整備充実	13.スポーツ施設維持管理経費	安全で快適なスポーツ施設の利用に向けて、施設の適切な管理・運営を図ります。また、海老名運動公園や北部公園の各施設は老朽化が著しいことから、再配置を含め、安心安全でより利用しやすい施設となるよう検討を進め、改修等の再整備を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	スポーツ施設の多くは築30年以上が経過するなど老朽化が著しい状況。また、海老名運動公園については遊具や園路にも老朽化が見られ、植栽には枯木が散見される。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
					スポーツ施設の多くは築30年以上を経過するなど老朽化が著しいことから、指定管理者による日常点検のほか、専門業者による定期点検を実施し、安全に安心して利用いただけるよう、必要な修繕等に取り組んでいます。											
2	文化スポーツ課	相模川高水敷の整備	10.(仮称)河原口高水敷スポーツ・コミュニティ広場整備事業費	相模川高水敷に市民のための「スポーツ・コミュニティ広場」を整備します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	整備箇所が河川敷という特性上、各種法令等に基づく事務手続きや関係機関との協議に難航。当初のスケジュールに比べ遅れが生じている。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
					整備に必要な基本計画を策定するとともに、測量と設計を行いました。また、河川敷の施工(第一工区)に着手しました。											
3	文化スポーツ課	相模川スポーツ施設のネットワーク化	10.(仮称)河原口高水敷スポーツ・コミュニティ広場整備事業費	神奈川県と連携し、県立三川公園・河原口高水敷・海老名運動公園・中野公園等をサイクリングロードなどで一体的に整備することで、相模川沿いのスポーツ・レクリエーションゾーンとして市民のスポーツ・レクリエーション活動の環境づくりを進めます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	市は県から占用許可を受けて河原口高水敷に広場を整備している。一方、隣接するさがみグリーンラインは県による施工であることから、工期や資材の搬入出における調整が必要。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
					河原口高水敷における広場整備と相まって、海老名市内のさがみグリーンラインの整備が進展しています。市と県で連携を図りながら、相互に効率的な整備に努めます。											
4	文化スポーツ課	スポーツ施設予約システムの充実	16.保健体育総務管理経費	現在、神奈川県電子自治体共同運営サービスとして運用されている、公共施設利用予約システムを活用していますが、更新時に向けさらに利便性が向上するシステムを研究します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	新システムの仕様については利用者から様々な意見が寄せられている。システムの運用改善と利便性の向上についてはシステムの選定・契約主体となっている県に要望していく。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%								
					令和8年3月にシステム更新がされた。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)	
計画名	海老名市スポーツ推進計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている 地域スポーツの振興や競技力向上、生涯スポーツの推進に加え、地域コミュニティの活性化にも寄与する事業に取り組まれており、適正に配置されていると評価する。
策定期間	R6～R11年度	施策の進捗・達成	B: やや遅延している 事業の実施により、スポーツ協会等への支援など一定の成果が認められる。一方で、スポーツ協会の独自採算をどのように進めていくのか不透明であり、今後の方向性の整理が求められる。
施策の説明	スポーツ・レクリエーション施設の充実を図り、スポーツ活動を支える人材の育成と活用を図るとともに、地域のスポーツ・レクリエーション活動を行う個人・団体への支援を行います。本施策では、スポーツ活動団体への支援を図ります。 コメント スポーツ活動団体は行政だけでは担うことのできない地域スポーツの推進役でありその活動が将来にわたり継続されることが重要である。今後は活動支援に加え、担い手の確保や組織運営の持続可能性にも配慮した支援を期待する。 <提案> ・スポーツ協会の法人化、独自採算などに向けた施策を、どのように進めていくかを整理を進められたい。 ・若年層参加促進の仕組みづくりを検討されたい。 ・地域スポーツクラブとの役割整理を進められたい。 ・団体間連携の促進による活動活性化を図られたい。 ・担い手不足、指導者不足が多くの団体で課題となっているため、対策を検討されたい。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	文化スポーツ課	スポーツ協会の組織強化支援	15_スポーツ団体等助成事業費	スポーツ協会がさらに活発に活動できる体制づくりのため、組織強化を図るための支援をします。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	協会の法人化については協会が主体的に議論・研究を進めている。市民の生涯スポーツの充実を図るといった協会の目的は本市としても達成するべきものと認識していることから、引き続き連携を密に、相互に協力し合いながら業務を遂行していく。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%		3	3	3	3	3	3	見直し(継続)
2	文化スポーツ課	スポーツ協会参画団体への支援	15_スポーツ団体等助成事業費	スポーツ協会(少年少女スポーツクラブ含む)に対し、協会及び加盟団体等の育成・組織強化、生涯スポーツ、レクリエーションの普及や競技スポーツの競技力向上を目的に補助を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	種目団体が必要とする資金面以外での支援方法について検討していく必要がある。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%		3	3	3	3	3	3	見直し(継続)
3	文化スポーツ課	スポーツ協会事業への支援	15_スポーツ団体等助成事業費	スポーツ振興を目的として、スポーツ協会主催事業に対し、補助を行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	将来的にはスポーツ協会が独自採算となるよう、強化と支援に取り組む。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%		3	3	3	3	3	3	現状継続
4	文化スポーツ課	総合型地域スポーツクラブへの支援	必要経費無	市民の手で、自主的・主体的に運営される「総合型地域スポーツクラブ」の創設に向けた支援及び育成の支援を行います。【創設済みクラブ】特定非営利活動法人「南えびなスポーツクラブ」活動内容:フットサル・卓球・ダンス 等	単位	目標/計画値	実績値	達成率	令和7年度は新規スポーツクラブの設立に至らなかった。総合型地域スポーツクラブの必要性を確認した上で、今後の方向性を検討する。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%		3	2	3	3	3	2.8	見直し(継続)

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市スポーツ推進計画	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	市民協働によるスポーツ支援体制の構築に向けた重要な取組であり、地域社会の多様性を踏まえると必要性は高く、適正に事業が配置されていると評価する。
策定期間	R6～R11年度	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	事業の実施により、スポーツ推進委員による地域活動など一定の成果が認められる。一方でスポーツボランティアの取組に遅れが見受けられるため、さらなる対応が求められる。
施策名	2-3 ボランティア等への支援	コメント		
施策の説明	スポーツ・レクリエーション施設の充実を図り、スポーツ活動を支える人材の育成と活用を図るとともに、地域のスポーツ・レクリエーション活動を行う個人・団体への支援を行います。本施策では、ボランティア等への支援を図ります。			
		本施策は、市民参加型スポーツの基盤形成に寄与する重要な取組であり、その成果を評価する。 ＜提案＞ ・スポーツ推進委員の本来の活動である普及活動等を更に進めていただきたい。 ・ボランティアのやりがい伝わらない、評価されにくい、達成感が得られにくいといった課題があると思われるので、貢献度の可視化(褒章等)について検討されたい。 ・スポーツボランティアについては、より多くの方が気軽に参加できるように、スポーツに限らないボランティア募集の方法を検討する等、幅広い層が参加できるような仕組みを検討されたい。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	文化スポーツ課	スポーツ推進委員との連携	14 スポーツ推進委員協議会運営費	市民のスポーツへの理解やスポーツ活動への参加促進に向けて、スポーツ推進委員との連携を図り、各種事業を展開します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	これまでスポーツ推進委員の活動は、市内スポーツイベントの運営補助が中心となっていたが、今後は、本来の役割であるスポーツ普及活動等への派遣を広く周知し、地域におけるスポーツ振興により注力していく必要がある。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	9	9	100 %		5	4	3	4	5	4.2	見直し(継続)
					各種市主催事業にてニュースポーツの普及・運営の協力を行った。											
2	文化スポーツ課	スポーツボランティアの人材確保及び活用	必要経費無	スポーツ活動に関してボランティアを行いたい方をボランティアバンクに登録し、様々なスポーツ関連大会への協力とスポーツの普及・周知を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	スポーツ活動に関するボランティアバンクの必要性について検討した上で、本事業の継続の是非について検討する。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%		3	2	3	3	3	2.8	見直し(継続)
					令和7年度は具体的業務に着手できませんでした。スポーツボランティアの必要性と人材確保の手法を整理するとともに、次年度以降に向けた検討を行います。											

施策別 事業評価シート

計画の概要	
計画名	海老名市スポーツ推進計画
策定期間	R6～R11年度
施策名	3-1 アスリートの育成支援
施策の説明	スポーツ活動において、優れた成績を収めた市民に対し、表彰や報奨金を交付します。また、ニュースポーツの推進や高度スポーツ誘致に取り組みながら、市民へスポーツ関連等の情報を発信し、スポーツを拓げる環境の充実を図ります。 本施策では、アスリートの育成支援を図ります。

外部評価(ABC評価)		
事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	文化・スポーツ等に貢献している方々や指導者等の育成はアスリートの支援をしていくうえで必要であり、適正に事業が配置されていると評価する。
施策の進捗・達成	B: やや遅延している	事業の実施により、表彰制度や報奨金制度など競技力向上支援に一定の成果が認められる。一方で、指導者の育成・意識改革に遅れや課題があり、対応が求められる。
コメント	アスリート育成においては、競技力向上だけではなく、選手が安心して活動できる環境づくりが重要である。指導者によるハラスメントや不適切な指導が社会的課題となる中、コンプライアンスの徹底と適切な指導体制の構築に努められたい。 <提案> ・指導者育成・研修の充実を図られたい。 ・ハラスメント防止等コンプライアンス強化を進められたい。 ・指導者に対する研修や啓発を継続的に実施し、スポーツを通じた健全な人材育成と安全・安心な活動環境の確保を図られたい。 ・近年のデジタル技術の進展を踏まえ、映像分析やデータ活用など科学的根拠に基づく指導を推進することで、選手の成長と安全・安心な育成環境を実現されたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	文化スポーツ課	文化スポーツ賞表彰	11.芸術文化総務管理費	海老名市の文化スポーツの発展に貢献した人に対して、表彰を行いスポーツ活動の振興を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	特になし	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%		5	5	3	5	5	4.6	現状継続
					スポーツ大賞22件、スポーツ輝き賞43件を表彰。 受賞者に関するパネル展を開催し、スポーツの振興に寄与できたものとする。											
2	文化スポーツ課	スポーツ選手強化報奨金の交付	12.スポーツ振興推進事業費	市民や市内団体の方で全国大会や国際大会へ出場する方に対し、本市の生涯スポーツの振興、選手の競技力向上及び選手の競技に係る経済的負担の軽減を図ることを目的として、報奨金を交付します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	特になし	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%		5	5	4	5	4	4.6	現状継続
					令和7年度は50件の申請があり、本制度の目的である生涯スポーツの振興、選手の競技力向上などに寄与できたものとする。											
3	文化スポーツ課	指導者等の育成支援	必要経費無	関係機関・団体等と連携し、スポーツを教えたい人・支えたい人を指導者等として育成する環境づくりを進めます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	コンプライアンス違反やハラスメント事例の根絶に努める。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%		4	3	4	3	3	3.4	現状継続
					スポーツ協会への委託事業として表彰式・講演会を開催し、指導者等の育成を支援した。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市スポーツ推進計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	市民が高度スポーツを身近に感じるのには計画達成に向け重要な内容であり、また、スポーツへの関心が高まることから、適正に事業が配置されていると評価する。
策定期間	R6～R11年度	施策の進捗・達成	A: 順調である	事業の実施により、公式戦開催や地元チーム支援など一定の成果が認められる。
施策名	3-2 高度スポーツ誘致	コメント		
施策の説明	スポーツ活動において、優れた成績を収めた市民に対し、表彰や報奨金を交付します。また、ニュースポーツの推進や高度スポーツ誘致に取り組みながら、市民へスポーツ関連等の情報を発信し、スポーツを拡げる環境の充実を図ります。 本施策では、高度スポーツ誘致を図ります。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	文化スポーツ課	高度スポーツ誘致	16.保健体育総務管理経費	高度なスポーツ技術を持った選手と市民が身近に感じることができるよう、公式戦など、高度スポーツの誘致を推進します。	試合	6	6	100 %	プロスポーツチームが公共施設を使用することによる市民利用機会の減少。	4	4	4	5	5	4.4	現状継続
					アメリカンフットボールの「富士フイルム海老名ミネルヴァAFC」及びラグビーの「グリーンエルクス」の公式戦を海老名運動公園陸上競技場で開催した。											
2	文化スポーツ課	地元プロチームへの支援	16.保健体育総務管理経費	地元プロスポーツチーム等と包括連携協定を締結するなど、市民と市が一体となりチームを応援することで、地元チームを盛り上げます。また、チームを支援するための手法等について研究します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	特になし	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%		5	4	5	5	5	4.8	現状継続
					アメリカフットボールチームである富士フイルム海老名ミネルヴァAFCの公式戦を市の広報誌などで周知するとともに、公式戦の数日前に市職員等が業務時間中にユニフォームを着用することで、市民へ行政全体で応援していることをアピールした。											

施策別 事業評価シート

計画の概要	
計画名	海老名市スポーツ推進計画
策定期間	R6～R11年度
施策名	3-3 ニュースポーツの推進
施策の説明	スポーツ活動において、優れた成績を収めた市民に対し、表彰や報奨金を交付します。 また、ニュースポーツの推進や高度スポーツ誘致に取り組みながら、市民へスポーツ関連等の情報を発信し、スポーツを拡げる環境の充実に図ります。 本施策では、ニュースポーツの推進を図ります。

外部評価(ABC評価)		
事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	本施策に紐づく各事業は、年齢や障がいの有無に関わらず誰もが参加できるスポーツ環境の実現に向けた重要な取組であり、生涯スポーツ推進の観点から必要性は高く、適正に事業が配置されていると評価する。
施策の進捗・達成	A: 順調である	事業の実施により、スポーツ推進委員派遣等を通じた普及活動など一定の成果が認められる。一方で、派遣先の偏りや認知度向上の課題が見受けられることから、継続的な改善や効果検証が求められる。
コメント	本施策は、生涯スポーツの裾野拡大に寄与する重要な取組であり、その成果を評価する。 ＜提案＞ ・自治会に限らず、学校・福祉施設・企業等との連携拡大を図られたい。 ・ニュースポーツの認知度向上施策を強化されたい。 ・地域横断的な普及体制の構築を検討されたい。 ・新規種目の開発・研究を進められたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	6	6	100 %								
1	文化スポーツ課	ニュースポーツ推進の研究	必要経費無	子どもから高齢者、障がいのある方など誰でも取り組みやすいニュースポーツの推進について、研究します。	各自治会・市内小中学校にスポーツ推進委員を派遣し、ニュースポーツの推進を行い、多くの方がニュースポーツに親しめる機会の創出に注力した。				スポーツ推進委員の派遣について、特定のイベントに限定されず、派遣先の拡大につながるよう工夫する必要がある。	4	4	3	4	4	3.8	見直し(継続)

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市スポーツ推進計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	スポーツレクリエーションに関する情報発信がなされており、事業が適正に配置されていると評価できる。
策定期間	R6～R11年度	施策の進捗・達成	A: 順調である	HP・広報・SNS等を活用し広く情報発信がなされており、一定の成果が認められる。
施策名	3-4 スポーツ関連の情報発信	コメント 本施策は、市民参加促進の基盤となる重要な取組であり、その成果を評価する。 ＜提案＞ ・情報発信方法の多様化等の手法の研究を進められたい。 ・AI活用による個人の趣味嗜好にあった情報提供を検討されたい。 ・SNSの閲覧状況の分析は効果検証等に活用できると思われるため、実施されたい。		
施策の説明	スポーツ活動において、優れた成績を収めた市民に対し、表彰や報奨金を交付します。また、ニュースポーツの推進や高度スポーツ誘致に取り組みながら、市民へスポーツ関連等の情報を発信し、スポーツを拡げる環境の充実を図ります。 本施策では、スポーツ関連の情報発信を図ります。			

計画に紐づく事業

所管課		事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	文化スポーツ課	スポーツ関連の情報発信(LINEの活用など)	必要経費無	市のホームページや市公式LINEなどを活用し、スポーツ・レクリエーション関連情報の発信に努めます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	特になし	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					媒体	5	5	100 %								
					広報えびな等に加え、新たに市内商業施設内のデジタルサイネージを活用し積極的な周知に努めた。(媒体:HP、広報、チラシ・ポスター、LINE、デジタルサイネージ)											
									5	5	5	5	5	5	5	現状継続

(5) 海老名市地域公共交通計画

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市地域公共交通計画	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	本施策に紐づく各事業は、交流拠点における交通結節機能の強化に向けた重要な取組であり、市民が利用しやすい整備がされてきていることから、適正な事業配置がなされていると評価する。
計画期間	令和4年4月～令和13年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	駅北口整備や駅前広場整備の推進により、交通結節点としての機能強化が着実に進んでいるなど一定の成果が認められる。
施策名	1-1 交流拠点における交通結節機能の強化	コメント		
施策の説明	① 相模鉄道海老名駅の乗換機能や安全性の向上を目指し、駅舎全体の整備を行います。 ② 高度利用されていない海老名駅北側地域に新たに北口改札及び北口駅前広場を整備します。 ③ 新たに整備する海老名駅北側駅舎部分に備蓄倉庫設置を検討し、災害時に備えます。 ④ 交通結節点である厚木駅に駅前広場を整備します。			
		本施策は駅利用者の安全性確保及び都市拠点形成に寄与する重要な取組であり、海老名駅・厚木駅周辺の整備に対する取組がなされたことを評価する。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価							
1	都市計画課	相模鉄道海老名駅整備	55.駅総合改善連携事業費	・改札口の増設(南側2階改札、北口改札)、連絡通路の設置 ・可動式ホーム柵の設置 ・生活支援機能の設置 ・乗換環境(待合機能)の整備	単位	目標/計画値	実績値	達成率	・可動式ホーム柵 相模鉄道単独事業での実施のため、予算の対象外となりました。 ・乗換環境(待合機能)の整備 事業見直しにより、整備を見送りました。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性	
								%		4	4	5	5	4	4.4	事業完了	
					令和8年度末の全面供用に向けて、整備は概ね順調に進められています。												
2	市街地整備課	海老名駅北口駅前広場整備	59.海老名駅北口駅前広場整備工事(明許分)	相模鉄道海老名駅舎整備において新たに開設する北口改札と併せて北口駅前広場の整備を行う。 (障がい者用停車施設1台、普通車2台程度)	単位	目標/計画値	実績値	達成率	なし	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性	
					-	-	-	-		%	5	5	5	4	5	4.8	事業完了
					障がい者用1台と普通車2台程度が停車できる駅前広場を整備したことにより、駅利用者等から広く利用されている。												
3	都市計画課	海老名駅における災害時の対応	54.公共交通対策推進事業費 ※現時点では予算計上なし	災害時には相模鉄道海老名駅舎整備時に設置する自由通路を滞留者スペースとして活用し、北側駅舎部分には備蓄倉庫設置を検討し、緊急時に備える。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	特になし	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性	
								%		3	3	3	3	3	3	事業完了	
					備蓄倉庫設置を検討した結果、設置不要と結論に至った。												
4	市街地整備課	厚木駅前広場の整備	58.厚木駅周辺整備事業費	厚木駅南地区市街地開発事業において、マンションや商業施設とあわせて、駅前広場の整備を行う。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	なし	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性	
					-	-	-	-		%	5	4	5	4	5	4.6	事業完了
					障がい者用1台と普通車2台、タクシー2台が停車できる駅前広場を整備したことにより、駅利用者等から広く利用されている。												

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市地域公共交通計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	本施策に紐づく各事業は、市民の移動手段確保及び公共交通利用促進の実現に向けた重要な取組であり、高齢者や公共交通利用者の利便性向上の観点から必要性は高く、適正な事業配置がなされていると評価する。
計画期間	令和4年4月～令和13年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	利用者減少や運転手不足等、公共交通を取り巻く環境は厳しさを増しており、利便性向上や利用促進に向けた今後の取組に期待する。
施策名	2-1 バス利用の促進	コメント		
施策の説明	① 新技術の活用に向けた取組について研究します。 ② 市内に残る公共交通不便地域の解消に向けたバスルートの研究を進めます。 ③ バス停の上屋設置など、バス待ち環境の充実に向けた研究を進め、路線バスの利用を促し、環境負荷低減へ貢献します。			
		本施策は市民の移動のしやすさに直結する重要な取組であり、その方向性を評価する。 <提案> ・デジタルサイネージやリアルタイム運行情報など、利用者視点に立った情報提供の高度化を進められたい。 ・高齢者や外国人利用者にも分かりやすい多言語・視覚的情報提供の充実を図られたい。 ・交通事業者や商業施設等との連携による「わかりやすい交通拠点形成」に努められたい。 ・利用しやすい乗り継ぎ環境整備など、利便性向上に向けた取組を推進されたい。 ・公道での自動運転バスの導入実現に向け、引き続き検討されたい。		

計画に紐づく事業

1	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
	都市計画課	総合案内システムの設置	54.公共交通対策推進事業費 ※現時点では予算計上なし	公共交通手段の情報提供方法として、総合案内システムやバス発車案内システム等の交通結節施設への設置を検討し、鉄道及びバス等の相互利用の促進を図る。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	海老名駅東口のバス待ち環境の充実(案内システム等)は、バスロータリーを含む一体的な整備が必要です。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					事業検討中					%	3	3	4	4	4	3.6

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市地域公共交通計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	環境への影響も考慮して事業が進められており、コミュニティバス運行・利用促進施策が適正に配置されていると評価する。
計画期間	令和4年4月～令和13年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	利用者数が目標値を上回るなど、利用促進の取組により一定の成果が認められる。
施策名	2-2 コミュニティバスの運用と利用促進	コメント コミュニティバスは、高齢者や交通弱者をはじめとする市民の生活を支える重要な移動手段である。今後は運行を維持するだけではなく、市民にとって利用しやすい交通サービスとなるよう、利便性向上と利用促進に取り組むことが重要である。 <提案> ・地域特性や利用者ニーズを踏まえながら、持続可能な地域交通の確保を進められたい。 ・デジタル技術を活用し、運行情報や乗り継ぎ案内などの分かりやすい情報提供に努められたい。		
施策の説明	① 環境負荷への影響も考慮し、コミュニティバスの利用促進を行います。 ② コミュニティバス情報の効果的な利用(オープンデータ化等)について研究を進めます ③ コミュニティバスの速達性向上や利便性向上を目指した、ルートの見直しを検討します			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人/日	590	806	137 %		4	4	4	3	4	3.8	現状継続
1	都市計画課	コミュニティバスの新規需要開拓	57.コミュニティバス運行事業費	コミュニティバスの利用促進のため、新たな需要の掘り起こしを行う。 ・ルート沿線住民への時刻表配布 ・企画乗車事業の実施	R4.11おでかけ(運賃無料)ウィークの開催、利用案内の配布、イベント時の車両展示、乗車体験を実施しました。				利用者数の増加に伴い、時間帯によっては車内の過密状態が発生している。増便や車両の大型化等の意見もあるが、費用面や運転手不足などの問題があり、早急な対応は困難です。							

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市地域公共交通計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	本施策に紐づく各事業は、鉄道駅における安全性向上及びバリアフリー化の実現に向けた重要な取組であり、高齢者・障がい者を含む全ての市民の移動環境改善の観点から必要性は高い。鉄道事業者への要望活動を含め、施策に必要な事業が適正に配置されていると評価する。
計画期間	令和4年4月～令和13年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	駅周辺環境の整備やバリアフリー化、安全対策などが進められており、利用者の利便性向上に向けた取組が継続的に実施されており、評価できる。
施策名	3-1 駅施設等の安全性及び利便性の向上	コメント	駅施設は市民だけではなく来訪者にとっても「海老名市の玄関口」である。安全性の確保はもとより、誰もが快適に利用できる環境整備を進めることで、地域公共交通の利用促進とまちの魅力向上につながることを期待する。 ＜提案＞ ・駅施設や交通サービスに関する情報について、デジタル技術を活用した分かりやすい情報提供を推進されたい。 ・利用者アンケート等を活用し、利用者ニーズを把握しながら継続的な改善に取り組まれたい。 ・交通結節点としてさらなる機能向上を図れるよう、鉄道事業者や交通事業者との連携強化されたい。	
施策の説明	① 国のバリアフリー法の基本方針に基づき、バリアフリー化を推進します。 ② 市内を運行している鉄道事業者に対し、継続的な要望活動を行います。 ③ 海老名駅～羽田空港間リムジンバスの予約制度について研究します。 ④ タクシー利用における利便性向上を目指し、配車アプリの普及を図ります。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	都市計画課	可動式ホーム柵の設置	54_公共交通対策推進事業費 ※相鉄実施分は必要経費なし	「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に基づき、小田急線海老名駅及び相模鉄道海老名駅に可動式ホーム柵の設置を行う。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	・相模鉄道(再掲) 相模鉄道単独事業での実施のため、予算の対象外となりました。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					箇所	2	1	50 %		4	4	4	4	4	4	事業完了
2	障がい福祉課	JR社家駅バリアフリー化事業	36_障がい者福祉管理経費	JR相模線社家駅において、エレベーターやエレベーター専用連絡通路及びスロープ等のバリアフリー化施設の整備を行う。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	事業は完了しましたが、今後も施設の状況確認やニーズの把握が必要です。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					箇所	1	1	100 %		5	5	5	5	5	5	事業完了
3	都市計画課	鉄道事業者への継続的な要望活動	54_公共交通対策推進事業費	市域を運行する鉄道の利便性や安全性の向上のため、鉄道事業者や国に対し、要望活動を行う。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	特になし	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%		4	4	4	4	4	4	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要	
計画名	海老名市地域公共交通計画
計画期間	令和4年4月～令和13年3月
施策名	3-2 広域連携による路線バスルートの維持
施策の説明	① 寒川町と連携し、海老名駅-寒川駅間路線バスの運行を支援します。 ② 近隣市域と連携し、広域的な交通政策等について研究します。

外部評価(ABC評価)		
事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	本施策に紐づく各事業は、広域的な移動手段確保及び地域間連携の推進に向けた重要な取組であり、市域を越えた交通ネットワーク形成の観点から必要性は高い。寒川町との連携を含め、施策目的に対して適正に配置されていると評価する。
施策の進捗・達成	A: 順調である	広域連携による路線バスルートの維持は、市民生活の利便性確保や地域の活力維持に重要な役割を果たしており、評価する。
コメント	運転手不足や利用者減少により路線維持が困難となる中、広域路線への支援は、市民生活を支える重要な取組であり、その継続的な実施を評価する。 ＜提案＞ ・沿線住民への周知強化や利用促進キャンペーンなど、利用者視点に立った施策強化を図られたい。 ・広域自治体間での役割分担の明確化や、将来的な路線維持のあり方について検討されたい。	

計画に紐づく事業

1	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
	都市計画課	生活交通確保維持路線への支援 (海老名駅-寒川駅間路線バス)	56バス路線確保維持対策事業費	国や寒川町と連携し、海老名駅-寒川駅間路線バスの利用促進及び運行経費の支援を行う。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	年間輸送人員数が微増となっています。さらなる利用促進につながる取組について、検討する必要があります。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人/日	157	191	122 %		4	4	4	3	4	3.8	現状継続
					海老名駅-寒川駅間路線バスへの運行支援を実施しました。また、各種研究会に出席し、近隣自治体と情報共有を図りました。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市地域公共交通計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	本施策に紐づく各事業は地域公共交通で対応しきれない移動支援サービスを担うもので、You Bus 及びび〜くる等の事業が適正に配置されていると評価する。
計画期間	令和4年4月～令和13年3月	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	利用者数や登録者数の増加により、高齢者の外出支援として一定の成果が認められる。一方で、予約集中による不成立や乗りこぼしなど運用面の課題も見受けられることから、継続的な改善や効果検証が求められる。
施策名	3-3 高齢者等が安心して移動できる環境づくり	コメント		
施策の説明	① 地域公共交通では対応しきれない、きめ細やかな移動支援を行います。 ② 既存の交通資源(病院の送迎バス等)を活用し、公共施設等への運行を研究します。			
		高齢者が安心して移動できる環境の整備は、外出機会の確保や健康維持、地域とのつながりの維持にもつながる重要な取組である。 <提案> ・AI技術を使った需要の把握や情報提供、予約システムの導入など利便性向上に向けた取組を研究されたい。 ・福祉施策や地域支援との連携を図り、総合的な移動支援の充実に努められたい。		

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	福祉政策課	高齢者等への移動支援	18_地域公共交通実証運行事業費 You Bus運行事業費 ※R7.10 福祉政策課に移管	地域公共交通では対応しきれないきめ細かな移動支援として、高齢者等の移動支援サービスを行う。 ※You Bus実証運行	人		53,824	%	利用者が極端に少ない便がある一方で、利用者が集中し、乗りこぼしが発生している便もあるため、本格運行に向けて運行内容の見直しを検討していく。	4	4	3	4	3	3.6	見直し(継続)
					(表はR7年度利用人数) 約8割が高齢者の利用であり、高齢者の外出手段としても定着している。											
2	福祉政策課	高齢者等への移動支援	高齢者外出支援事業費	地域公共交通では対応しきれないきめ細かな移動支援として、高齢者等の移動支援サービスを行う。 ※えび〜くる(デマンド型高齢者等外出支援事業(実証実験))	単位	目標/計画値	実績値	達成率	平日朝の時間帯に予約が集中する傾向にあり、その時間帯での予約の不成立が発生しているため、本格運行に向けて運行内容の見直しを検討していく。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					人		16,148	%	(表はR7年度利用人数) 利用登録者や利用者は順調に増加しており、高齢者等の外出に貢献している。	4	4	3	4	3	3.6	見直し(継続)

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市地域公共交通計画	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	事業完了のため。
計画期間	令和4年4月～令和13年3月	施策の進捗・達成	A: 順調である	事業完了のため。
施策名	3-4 感染症や災害等の有事における公共交通の確保	コメント 公共交通機関における感染症予防対策の周知は重要であるため、今後も現在の市ホームページ等の活用などの充実をさらに進める取組の検討を期待する。 <提案> ・事業完了で終了するのではなく、新たな感染症拡大・災害の発生への対策を継続的に講じる体制等について再度見直しを検討されたい。 ・感染症や災害等の有事に備え、交通事業者と連携した事業継続計画(BCP)の実効性向上に努められたい。		
施策の説明	① 感染症のまん延時等にも、安心して公共交通を利用していただく取組を行います。 ② 災害時等においては、幹線道路を優先的に復旧し、路線バスの運行を早期に確保します。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
1	都市計画課	公共交通機関の感染症予防対策の周知	54_公共交通対策推進事業費	各業種別の感染症予防対策ガイドラインに基づき、様々な感染症対策の取組を継続的に実施し、情報の周知を図る。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	特になし	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%		4	4	3	4	3	3.6	廃止
					新型コロナウイルス感染症予防対策の取組(消毒や換気等)を行い、利用者に周知しました。											
2	都市計画課	公共交通機関の混雑状況等の情報発信	54_公共交通対策推進事業費 ※現時点では予算計上なし	市のホームページでの情報発信	単位	目標/計画値	実績値	達成率	特になし	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
								%		4	4	3	4	3	3.6	廃止
					バス事業者のホームページを閲覧できるように市ホームページにリンク先を掲載しています。											

(6) 令和7年度シティ プロモーションアクションプラン

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市シティブロモーションアクションプラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	本施策に紐づく各事業は、市民の当市に対する愛着と誇りの醸成に向けた取組であり重要性が高く、適正に配置されていると評価する。
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日	施策の進捗・達成	A: 順調である	事業の実施により、市民参加機会の創出や地域愛着の醸成に一定の成果が認められる。特に子ども世代を中心とした参加型施策は一定の効果を上げている。
施策名	1-1 市民の当市に対する愛着と誇りの醸成	コメント		
施策の説明	当市の魅力を発信し、認知度を向上させ、市の価値を高めることにより、子育て世代を中心とした人々の転入と定住を促進します。 併せて市民の当市への愛着と誇りの醸成も図ります。 本施策では、市民の当市に対する愛着と誇りの醸成を図ります。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	シティブロモーション課	EBINAダンスPR	1.シティブロモーション推進事業費	市制施行50周年を記念して広めてきた「EBINAダンス」をレクチャーなどを通じてPRします。 また、校長会での周知のほか、引き続き学校行事などでも使用してもらえように周知し、「EBINAダンス」を通じて市の元気発信と認知度向上を図ります。	回	15	13	86.7 %	EBINAダンスを広め始めてから約5年が経過し、さまざまな市民にEBINAダンスの存在が知れ渡り、イベント等で隔ってくれる団体も増えています。十分な認知が図られたと考えられるため、現場で直接レクチャーを行う方法ではなく、動画や音源などの提供を主流としていく方法にシフトすることに考えていきます。	3	3	2	3	2	2.6	見直し(縮小)
2	シティブロモーション課	「海老名の魅力川柳」募集	1.シティブロモーション推進事業費	市内外の幅広い世代を対象に、市の魅力と「住みたい 住み続けたいまち 海老名」を発信するため、海老名の魅力を詠んだ川柳を「住みやすさ」「風景」「フリー」の3部門で募集します。 募集した作品は、広報えびな、SNSでPRするほか、市で作成した割り箸袋に川柳を記載して市内飲食店に配布します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	川柳で詠んでもらう市の魅力や川柳の内容に類似したものが定着しつつあり、新たな魅力があまり発掘できていない傾向にあります。募集から3年目を迎えているため、本募集事業は終了し、新たな手法について検討を行う必要があると考えています。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					作品	935	831	88.9 %		3	3	3	3	3	3	事業完了
3	シティブロモーション課	「好きです海老名」写真募集と活用	1.シティブロモーション推進事業費	市民の市への誇りの醸成と、市の認知度向上のため、「風景写真(春夏秋冬)」「笑顔写真」の2部門で募集します。 募集した写真は、広報えびな15日号の表紙、市ホームページ、SNSに活用し、展示も行います。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	現在、複数のオンライン申請窓口を設けずに1本化する方針であることから、事前登録不要の市ホームページの応募フォームのみをオンライン申請窓口としています。しかし、LINE申請などの申込みの選択肢を増やせば申込者増加の余地があるのではないかと考えています。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					作品	348	333	95.7 %		3	4	3	3	3	3.2	現状継続
4	シティブロモーション課	「えびなの好きなおとこ」ポスター募集と活用	1.シティブロモーション推進事業費	「えびなの好きなおとこ」をテーマに、市のスローガン「住みたい 住み続けたいまち 海老名」を入れたポスターを夏休みの宿題として小学生に作成してもらいます。 応募作品は、展示等により広く周知を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	近年、夏休みのポスター募集の種類が増えてきており、応募作品の分散化が起きているのではないかと考えます。周知については、学校を通じて行いつつ、作品の公開の機会についても検討していきたいと考えます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					作品	501	417	83.2 %		3	3	4	3	3	3.2	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)	
計画名	海老名市シティプロモーションアクションプラン	事業の適正配置	SNSや各種媒体を活用した情報発信に取り組むとともに、市の魅力発信やブランドイメージの向上に向けた取組が進められていることは評価する。一方で、認知度向上やイメージ形成の効果は把握が難しく、成果が見えにくい側面もあることから、ターゲットごとの到達状況や行動変容について継続的な検証が求められる。
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日	施策の進捗・達成	事業の実施により、認知度向上に一定の成果が認められる。一方で、課題も浮き彫りになってきたことから、継続的な改善や効果検証をお願いしたい。
施策名	1-2 認知度向上及びターゲットを絞ったPR	コメント	シティプロモーションは、市の魅力を市内外へ発信し、定住促進や交流人口の増加、市民の郷土愛醸成につながる重要な取組である。認知度向上に向けた情報発信は継続的に実施されているが、今後は「誰に何を伝えるのか」を明確にし、ターゲットごとの戦略的な情報発信を強化することが重要である。 <提案> ・子育て世代、若年層、転入検討者、企業などターゲットごとに発信内容や媒体を整理し、より効果的なPRを実施されたい。 ・SNSや動画コンテンツ等のデジタル媒体を積極的に活用し、閲覧数やエンゲージメントなどのデータ分析を行いながら情報発信の改善につなげられたい。 ・AIやデータ分析を活用し、ターゲットごとの関心や行動傾向を把握することで、より効率的かつ効果的なシティプロモーションを検討されたい。

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	シティプロモーション課	箸袋検討・作製	1.シティプロモーション推進事業費	「海老名の魅力川柳」の応募作品を箸袋にデザインし、飲食店やテイクアウト実施店舗などの協力を得て、川柳を通じて市の魅力を発信します。	本	45,000	45,000	100 %	昨年度は、配布残が発生し、その分をどこの店舗にお願いするかなどの課題が発生したが、今年度は店舗の利用頻度なども踏まえて配布を行うことで、配布残を発生させずに配布することができた。しかし、飲食をしている方が箸袋にどこまで関心をもってもらえているかが課題である。また、近年環境に配慮し、使い回しが可能な箸を使う飲食店も増加しており、環境側面からも割り箸の配布がより良い方法かという課題もあります。	3	2	2	3	2	2.4	事業完了
2	シティプロモーション課	小田急電鉄株式会社・相模鉄道株式会社と連携した階段アート作製	1.シティプロモーション推進事業費	多くの方が訪れる海老名駅の東西に小田急電鉄株式会社・相模鉄道株式会社と連携した階段アートを製作します。3者のキャラクター「えび〜にゃ」「もころん」「そうにゃん」をデザインし、3者連携による相乗効果で市の魅力を発信します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	屋外設置のため、階段アートの清掃や剥がれ、いたずらなどが発生していないかなどの定期的な管理が必要となる。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					か所	1	1	100 %		3	4	3	3	3	3.2	現状継続
					11月1日行ったお披露目式には、短い時間にもかかわらず多くの方が集まり、設置を喜んでもらえました。市でもSNS投稿を行ったほか、見に来た人も式典の様子をSNSで投稿してもらうことで、階段アートが広く知れ渡ったと思います。											
3	シティプロモーション課	「海老名の住みやすさ」動画制作と相鉄線トレインビジョン放映	1.シティプロモーション推進事業費	海老名市の住みやすさを紹介する動画を作製し、転入を考えている方へのきっかけづくりと後押しをします。作製した動画を相鉄線のトレインビジョンへ放映し、相鉄・東急線直通により都心まで通勤等で利用している方へ海老名の魅力を伝え、転入促進を図るとともに、YouTubeやSNS、海老名駅自由通路のデジタルサイネージなどへも放映し、市の魅力を発信します。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	本動画は現在の海老名の魅力を動画にしたものでありますが、定期的に内容の更新を検討する必要があります。また、周知方法についても効果的な媒体がないか、引き続き研究していきたいと考えています。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					本	1	1	100 %		3	3	3	3	3	3	現状継続
					作成した動画はYouTubeや他SNSでも投稿を行い、広く海老名市の住みやすさを紹介できました。また、引っ越しを決める時期などと合わせて、令和8年2月の約1か月間相鉄線のトレインビジョンで本動画のショートバージョンを公開し、都心まで通勤等で向かう人へも魅力を伝える良い機会になったと考えます。											

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市シティブロモーションアクションプラン	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	本施策に紐づく各事業は民間事業者との連携を図って取り組まれており、適正に配置されていると評価する。
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日	施策の進捗・達成	B: やや遅延している	広報誌やホームページに加え、SNSや動画媒体など多様な情報発信手段を活用し、情報発信の充実が図られていることは評価できる。一方で媒体ごとの効果測定やターゲット層への到達状況についてはさらなる分析の余地があり、発信内容や媒体選択の最適化に向けた継続的な取組が求められる。
施策名	1-3 効果的なメディア戦略	コメント		
施策の説明	当市の魅力を発信し、認知度を向上させ、市の価値を高めることにより、子育て世代を中心とした人々の転入と定住を促進します。 併せて市民の当市への愛着と誇りの醸成も図ります。 本施策では、効果的なメディア戦略を図ります。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	シティブロモーション課	民間事業者が持つPR手法やメディアを活用した市政情報等の発信強化	1.シティブロモーション推進事業費	民間事業者が持つPR手法(大型店舗など多くの方が訪れる場所の協力等)やメディア(テレビ、雑誌等)に、市の魅力及び市政情報を掲載し、市のPRに繋げていき、民間事業者との良好な関係の構築を図ります。	件	29	8	27.6 %	交通の利便性等で、撮影場所の候補の1つとして海老名市が選ばれることが多いようですが、施設使用の条件などから撮影成立が難しいと感じています。また、調整に時間を要する割に撮影が成立しないことも多い状況にあります。他自治体事例などを参考に、研究していきます。	3	2	3	3	3	2.8	現状継続
2	シティブロモーション課	ららぽーと海老名デジタルサイネージ・展示パネルの活用	1.シティブロモーション推進事業費	ららぽーと海老名のデジタルサイネージと4階に設置された展示パネルを、市の行政情報やイベント情報を多くの方に発信していきます。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	海老名でも多くの人が集まる民間施設を活用しての情報発信は、行政施設で行うのとは別のターゲットへの周知にもなるため、引き続き行いたいと思っています。しかし、借りている施設・設備であるため、利用打ち切りなどにならないよう、施設・設備の取扱いを丁寧するよう各課等への周知も徹底する必要がありますと考えています。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	64	62	96.9 %	デジタルサイネージについては定期的な申し込みがあり、新規の申込みも増えてきている状況であります。展示パネルは展示がない状態を作らないようにし、市の情報発信が継続されるよう取り組みました。	3	4	3	3	3	3.2	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市シティプロモーションアクションプラン	事業の適正配置	A: 充分な事業が配置されている	転入者の意見を幅広く集めるための取組は、シティプロモーション施策を検討・検証する上で重要である。このことから、事業が適正に配置されていると評価する。
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日	施策の進捗・達成	A: 順調である	事業の実施にあたり、紙媒体と電子の併用は一定の効果が認められ、計画どおり着実に進んでいると評価する。
施策名	1-4 シティプロモーション事業	コメント		
施策の説明	当市の魅力を発信し、認知度を向上させ、市の価値を高めることにより、子育て世代を中心とした人々の転入と定住を促進します。 併せて市民の当市への愛着と誇りの醸成も図ります。 本施策では、戦略的なPR等を図ります。			

計画に紐づく事業

1	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	503	941	187 %								
	シティプロモーション課	シティプロモーションアンケート(転入者)	1.シティプロモーション推進事業費	転入者に向けて、転入時における情報収集についてアンケートを行い、今後の参考にしていきます。	目標値は前回(令和6年3月4日～5月31日)回答実績であるところ、前回と比べてアンケート回答数が大幅に増加したことで、転入者の傾向がつかみやすくなりました。				前回はLINE申し込みによる方法のみでアンケートを行ったところ回答率が低かったので、途中からアンケート用紙配布の方法も併用しました。DXが進んでいますが、本アンケートについては実績として紙媒体の方が効果が高いことがわかりました。ただし、これにより回答集計の負担が大きい割に効果的な活用ができていないという課題があります。	3	3	3	3	3	3	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市シティプロモーションアクションプラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	職員を対象とした研修は、シティプロモーション体制を確立していくにあたり、有益であることから事業が適正に配置されていると評価する。
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日	施策の進捗・達成	A: 順調である	事業の実施によりシティプロモーションに対する職員意識の向上など成果が認められる。
施策名	2-1 シティプロモーション体制の確立	コメント シティプロモーションの成果を高めるためには、魅力発信そのものではなく、それを支える組織体制の確立が重要である。庁内の情報共有や連携体制の整備は進められているものの、今後は全職員がシティプロモーションの担い手であるという意識を持ち、組織横断的に取り組む体制の強化が期待される。 <提案> ・シティプロモーションを特定部署の取組にとどめることなく、全庁的な共通目標として位置付け、組織横断的な連携体制を強化されたい。 ・市民や事業者、関係団体との連携を強化し、行政だけではなく地域全体で魅力発信を行う体制作りを推進されたい。		
施策の説明	市職員全員が、シティプロモーションに対する関心と行動力を持つための体制の確立を図ります。			

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					回	1	1	100 %								
1	シティプロモーション課	情報発信(実務者)研修	1.シティプロモーション推進事業費	広報や報道対応、SNSの活用など、より実務的な情報発信の手法やシティプロモーションについて習得するために、市職員を対象にした研修会を実施します。研修会参加者に対してはアンケートを行い、その結果を次年度以降の計画等に反映します。	予定通り研修を実施しました。				SNSや民間事業者のデジタルサイネージ、展示パネルの活用など新たな情報発信媒体の拡大を図っており、その内容を研修に都度盛り込んでいます。過去に受講した職員についても、そのような変更点を周知することにより、定期的に受講してもらえよう働きかける取組を行いたいと考えています。	3	3	3	3	3	3	現状継続

施策別 事業評価シート

計画の概要		外部評価(ABC評価)		
計画名	海老名市シティプロモーションアクションプラン	事業の適正配置	A: 十分な事業が配置されている	本施策に紐づく各事業は、市のイメージ向上および市民との接点強化の実現に向けた重要な取組であり、社会的認知度の高いキャラクターを活用した施策構成は適正である。SNS、イベント、学校訪問、グッズ展開など多面的に事業が展開されており、施策目的に対して適正な配置であると評価する。
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日	施策の進捗・達成	A: 順調である	事業の実施により、市民認知度向上やSNSフォロワー増加など一定の成果が認められる。
施策名	3-1 海老名市イメージキャラクターの活用			
施策の説明	市のイメージキャラクター「えび〜にゃ」を通じた魅力情報の発信により、当市の認知度を向上させると共に、市民にも当市に対する愛着と誇りを醸成します。	コメント	イメージキャラクター「えび〜にゃ」を活用した情報発信は、市のイメージ及び認知度向上と市民の愛着醸成に大きく寄与する重要な取組であり評価する。今後もイベントやSNSなど多様な媒体を活用し、市内外への発信力を高めることで、シティプロモーションのさらなる効果が期待できる。 ＜提案＞ ・キャラクター活用の固定化や費用対効果の検証を行われたい ・子育て世代、若年層、転入検討者、企業などターゲットごとに発信内容や媒体を整理し、より効果的なPRを実施されたい。 ・SNSや動画コンテンツ等のデジタル媒体を積極的に活用し、閲覧数やエンゲージメントなどのデータ分析を行いながら情報発信の改善につなげられたい。 ・AIやデータ分析を活用し、ターゲットごとの関心や行動傾向を把握することで、より効率的かつ効果的なシティプロモーションを検討されたい。	

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
1	シティプロモーション課	着ぐるみの活用・貸出、メディアへの参加など	1.シティプロモーション推進事業費	えび〜にゃの着ぐるみの貸出しにより、市の魅力をPRします。多くの方にえび〜にゃに親しんでもらえるよう、活動を継続します。 また、民間事業者が持つシティプロモーションに繋がる媒体へえび〜にゃの出演を行い、当市の認知度向上を図っていきます。	件	107	88	82.2 %	民間貸出については、新規の申込みもあり、引き続き貸出しの促進を図ります。庁内でも、引き続き利用周知を図りたいと思います。 定期的な着ぐるみのメンテナンスを行っています。貸出件数が増えたことにより、メンテナンス自体が難しくなっており、新たな着ぐるみ購入についても検討が必要と考えます。	3	4	3	3	3	3.2	現状継続
2	シティプロモーション課	デザイン使用申請の審査・承認・デザインの充実	1.シティプロモーション推進事業費	デザインが適切に使用されるよう審査・承認を行います。また、市HPに掲載している使用可能なデザインを拡充させ、多くの方に使用してもらえるようデザインの充実を図ります。	単位	目標/計画値	実績値	達成率	デザイン継続使用だけでなく、新規の利用申込みも増加しています。今後もデザインの充実を図ると共に、デザイン審査についても遺漏なく進められるよう整理をしていきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
					件	299	359	120 %	デザイン申込みが年々増加しており、昨年度よりも増えてきています。	3	3	3	3	3	3	現状継続

計画に紐づく事業

	所管課	事業名	事業費名(細々目)	事業概要	事業の成果				課題・問題点	担当部課評価						
					単位	目標/計画値	実績値	達成率		妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
3	シティプロモーション課	イメージキャラクターSNSの活用	1_シティプロモーション推進事業費	イメージキャラクターのSNSアカウント(インスタグラム、フェイスブック、エックス)で市の魅力や事業、最新情報を随時発信していきます。えび〜にゃからの発信でよりわかりやすく、一層魅力に感じられるようPRしていきます。	単位 フォロー	14,118	14,767	105 %	投稿内容を整理しつつ、定期的な投稿ができるよう計画をしています。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
						目標値はInstagram、Facebook、Xのフォロー数合計で算出しました。今後もフォロー数が増加するよう投稿を進めていきます。				3	4	3	3	3	3.2	現状継続
4	シティプロモーション課	イベントへの参加・市内小学校・保育園等への訪問	1_シティプロモーション推進事業費	市内の子どもたちとえび〜にゃの触れ合いの機会を設け、えび〜にゃを通じて当市に対する愛着と誇りを醸成させるため、市内で開催されるイベントを利用して市内の小学校、保育園等へ訪問します。訪問先では、EBINAダンスのPRの他、「えびなの好きなところポスター」のPRなどを行っていきます。※対象は、キャラクターに親しみやすい未就学児〜小学校低学年を想定	単位 回	目標/計画値 14	実績値 14	達成率 100 %	えび〜にゃ訪問で喜ばれていますが、訪問した実績(効果)をどのように広げるか(SNS等)をさらに検討していきたいと考えます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
						市職員による活動のほか、貸し出しにより小学校・保育園等のイベントへえび〜にゃが参加し、子どもたちへのえび〜にゃに対する認知度向上が図られたと考えます。				3	4	3	3	3	3.2	現状継続
5	シティプロモーション課	えび〜にゃを活用し「住みたい住み続けたいまち海老名」PRグッズ製作及び活用	1_シティプロモーション推進事業費	市のイメージキャラクターえび〜にゃを活用し、市の認知度向上と市の統一スローガンである「住みたい 住み続けたいまち 海老名」を表記したグッズを製作し、スローガンの周知徹底を図ります。	単位 枚	目標/計画値 2,000	実績値 2,000	達成率 100 %	ブースを出している市民まつりでの配布がメインとなっていますが、他のイベントでも配布してもらえるように他課と連携しながら配布を行っていきたくと考えます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
						イベント等で配布できるシールなどを作成し、えび〜にゃと市のスローガンの認知度向上を図りました。				3	3	3	3	3	3	現状継続
6	シティプロモーション課	えび〜にゃアドバルーンを活用	1_シティプロモーション推進事業費	海老名の元気の象徴として、市主催のイベントに積極的に掲出します(ミニアドバルーンを含めて年2回予定)。多くの方にSNS等に投稿していただくことで、市のPRにつなげていきます。また引き続き、屋内などでミニアドバルーンの掲出を行います。※掲出候補(案) ①エントランスホール(通年) ②えびな市民まつり(11月/海老名運動公園)	単位 回	目標/計画値 2	実績値 2	達成率 100 %	屋外掲出は、天候に左右されることや安全対策、またヘリウムガスが必要となることによる費用対効果について考える必要があります。現在市役所1階ロビーで屋内掲出を通年行っていますが、場所を変えることや他課イベント等での活用など、PR効果へどのような影響が出そうか研究していきます。	妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	平均	今後の方向性
						エントランスホールへの通年掲出のほか、市民まつりでの掲出を行い、注目を集めました。				3	4	3	3	3	3.2	現状継続

令和 8 年外部評価結果報告書

発行年月日 令和 8 年（2026 年） 8 月

発 行 海老名市

編 集 第 11 期海老名市外部評価委員会

事 務 局 海老名市 財務部 企画財政課 政策経営係

〒243-0492 海老名市勝瀬 1 7 5 番地の 1

T E L 046-235-4634
